

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 686 集

きた か ぬか
北鹿糠遺跡発掘調査報告書

三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査

2018

国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所
(公財)岩手県文化振興事業団

北鹿糠遺跡発掘調査報告書

三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査

序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を越す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多くのごされております。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料であります。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らねばなりません。

一方、県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要とされます。それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財の保護との調和も求められるところであります。

(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行ない、記録保存する措置をとってまいりました。

本報告書は洋野町における、三陸沿岸道路建設事業に関連して平成27年度から平成28年度にかけて発掘調査された北鹿糠遺跡の調査成果をまとめたものであります。北鹿糠遺跡は縄文時代の集落・狩り場の遺跡であり、堅穴住居跡や陥し穴状遺構が見つかりました。隣接するゴッソー遺跡や周辺の西平内I遺跡、南鹿糠I遺跡などとともに関係が深いと見られると推定され、縄文時代の様相を知る貴重な資料となりえます。

本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所、洋野町教育委員会をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成30年3月

公益財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 菅野洋樹

例 言

- 1 本報告書は、平成 27・28 年度に行った北鹿糠遺跡（岩手県九戸郡洋野町種市第 18 地割地内）の発掘調査の成果を取録したものである。
- 2 今回の調査は、三陸沿岸道路建設事業に関わる事前の緊急発掘調査である。調査は岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課と国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所との協議を経て、（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが担当した。
- 3 遺跡台帳に登録されている遺跡番号は「IF58-0288」である。
- 4 遺跡略号、発掘調査期間、担当者、調査面積は以下の通りである。

[平成 27 年度] 遺跡略号：KK-15
調査期間：平成 27 年 10 月 1 日～平成 27 年 11 月 11 日
調査担当者：久保 賢治・濱田 宏・久保 友咲
調査面積：5,300㎡

[平成 28 年度] 遺跡略号：KK-16
調査期間：平成 28 年 10 月 3 日～平成 28 年 12 月 7 日
調査担当者：杉沢 昭太郎・伊東 格・澤目 雄大
調査面積：3,600㎡
- 5 室内整理期間と担当者は、以下の通りである。

[平成 27 年度] 整理期間と担当者：平成 28 年 2 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日 久保 賢治
[平成 28 年度] 整理期間と担当者：平成 28 年 12 月 1 日～平成 29 年 1 月 31 日 伊東 格
- 6 調査および整理における委託業務については次の機関に依頼した。

[平成 27 年度] 基準点測量：有限会社 ダイヤ測量設計
[平成 28 年度] 空写真撮影：藤東邦航空
石材鑑定：花崗岩研究会
- 7 本遺跡の調査成果は、すでに『平成 27 年度発掘調査報告書』（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 661 集）および『平成 28 年度発掘調査報告書』（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 676 集）において発表しているが、内容については本書が優先する。
- 8 土色の色調は『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修 1993）を使用した。
- 9 本報告書の執筆は久保賢治・久保友咲（平成 27 年度）、杉沢昭太郎（平成 28 年度）が行い、編集は杉沢昭太郎と久保賢治が行った。
- 10 本報告書で使用した地形図は国土地理院発行 1：25,000「角浜」「種市」である。
- 11 野外調査ならびに、整理・報告書作成の際、次の方からご協力、ご指導いただいた。記して深く感謝いたします（敬称略）。千田政博（洋野町教育委員会）
- 12 本遺跡の調査で得られた一切の資料、出土遺物・撮影写真・遺構実測図・遺物実測図は岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

凡 例

1 遺構について

(1) 本文中の図版縮尺

以下を原則とし、各図版にはスケールを付している。

竪穴住居の平面・断面：1/60 土坑と土塼の平面・断面：1/40

(2) 遺構断面の土層注記

野外調査の際、土層の観察記録については以下の項目を基本とし、記録した。

色調（『標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修 1993）を基準とする）

粘性（4段階表示：強、やや強、やや弱、弱）

しまり（記録した担当者に一任）

混入物の有無（混入量は5段階表示：微量 1～10%・少量 11～20%・中量 21～30%・
やや多い 31～40%・多量 41～50% 表記は担当者に一任）

2 遺物について

(1) 本文中の図版縮尺は以下を原則とし、各図版にはスケールを付している。

縄文土器：1/3 剝片石器：1/2 礫石器：1/3・1/4

(2) 遺物図面のアミかけについては下の凡例に示した通りである。

(3) 観察表の表記項目について（平成27年度のみ）

層位・器種・残存部位・土器型式・文様（描線、縄文、手法）、内面調整・色調（外・内面）・
混入物・焼成について観察し、記載している。

文様：口縁部（「口」と表記）、胴部（「胴」と表記）、底部（「底」と表記）に分けて記載している。
なお、無文の場合は特に記載していない。

焼成：土器の断面を観察し、断面内の黒色層を基準として土器の焼成具合を3分類した。

良 好→断面に黒色層が認められず、断面の色調が橙色を帯びるもの。

やや良好→断面に明瞭な黒色層は認められないが、土器の内外面色調と比べ、やや暗い（黒色味がかっている）もの。

やや不良→断面の中央部にのみ黒色層が認められるもの。

不 良→断面の半分以上に黒色層が認められ、焼成の際の火回りが悪いもの。

色調：外内面については『標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修 1993）の色調を基準とした。

遺構

 焼成範囲

 土器片

 礎

遺物

  敲打痕

  磨り面

凡 例

目 次

I	発掘調査に至る経緯	1
II	遺跡周辺の地理的環境	
1	遺跡の位置	2
2	遺跡の立地	2
3	周辺の遺跡	4
III	調査の経過と方法	
1	平成27年度調査	7
2	平成28年度調査	9
IV	基本土層	12
V	検出遺構と出土遺物	
1	平成27年度調査	13
2	平成28年度調査	18
VI	総 括	66
	報告書抄録	106

表 目 次

第1表	周辺の遺跡一覧	4
第2表	遺構名変更表 (平成27・28年度調査)	9
第3表	石器分類基準	26
第4表	縄文土器観察表 (平成27年度)	41
第5表	石器観察表 (平成27年度)	41
第6表	縄文土器観察表 (平成28年度)	60
第7表	石器類観察表 (平成28年度)	61

図 版 目 次

第1図	岩手県図	1	第24図	24号・25号土坑	38
第2図	遺跡位置図	2	第25図	26号・27号土坑	39
第3図	標高区分図	3	第26図	28号土坑、1～3号焼土	40
第4図	周辺の遺跡	5	第27図	出土遺物1	41
第5図	北鹿峰遺跡遺構配置図	6	第28図	出土遺物2	42
第6図	遺構とグリッド配置図 (平成27年度調査区)	8	第29図	出土遺物3	43
第7図	遺構配置図 (平成28年度調査区)	11	第30図	出土遺物4	44
第8図	基本土層	12	第31図	出土遺物5	45
第9図	遺構配置図 (平成27年度調査区)	14	第32図	出土遺物6	46
第10図	遺構配置図 (平成28年度調査区)	17	第33図	出土遺物7	47
第11図	葎石細分図	25	第34図	出土遺物8	48
第12図	石器分類別個数	27	第35図	出土遺物9	49
第13図	石器分類別重量	27	第36図	出土遺物10	50
第14図	1号堅穴住居	28	第37図	出土遺物11	51
第15図	1号・2号土坑	29	第38図	出土遺物12	52
第16図	3号・4号土坑	30	第39図	出土遺物13	53
第17図	5～7号土坑	31	第40図	出土遺物14	54
第18図	8～10号・12号土坑	32	第41図	出土遺物15	55
第19図	13号・14号土坑	33	第42図	出土遺物16	56
第20図	15～17号土坑	34	第43図	出土遺物17	57
第21図	18号・19号土坑	35	第44図	出土遺物18	58
第22図	20号・21号土坑	36	第45図	出土遺物19	59
第23図	22号・23号土坑	37	第46図	遺跡位置図 (旧地形)	65

写真図版目次

写真図版1	航空写真	71	写真図版18	出土遺物2	88
写真図版2	航空写真、調査前状況	72	写真図版19	出土遺物3	89
写真図版3	航空写真(調査区全景)	73	写真図版20	出土遺物4	90
写真図版4	調査区全景	74	写真図版21	出土遺物5	91
写真図版5	調査区全景、作業風景	75	写真図版22	出土遺物6	92
写真図版6	1~4号土坑	76	写真図版23	出土遺物7	93
写真図版7	4~7号土坑	77	写真図版24	出土遺物8	94
写真図版8	8~10号土坑、 基本土層、調査前風景	78	写真図版25	出土遺物9	95
写真図版9	T1~T8	79	写真図版26	出土遺物10	96
写真図版10	T9・T11、出土遺物1	80	写真図版27	出土遺物11	97
写真図版11	1号竪穴住居	81	写真図版28	出土遺物12	98
写真図版12	5号・12~14号土坑	82	写真図版29	出土遺物13	99
写真図版13	15~19号土坑	83	写真図版30	出土遺物14	100
写真図版14	20~23号土坑	84	写真図版31	出土遺物15	101
写真図版15	24~27号土坑	85	写真図版32	出土遺物16	102
写真図版16	28号土坑、1~3号焼土、 14号土坑	86	写真図版33	出土遺物17	103
写真図版17	調査区全景と隣接する小河川他	87	写真図版34	出土遺物18	104
			写真図版35	出土遺物19	105

I 発掘調査に至る経緯

北鹿糠遺跡は、一般国道45号三陸沿岸道路事業（俣浜～階上）の事業区域内に存在することから発掘調査を実施することとなったものである。

三陸沿岸道路は、宮城、岩手、青森の各県の太平洋沿岸を結ぶ延長359kmの自動車専用道路で、東日本大震災からの早期復興に向けたリーディングプロジェクトとして、平成23年度にこれまで事業化されていた区間も含め、全線事業化された復興道路である。

当該遺跡に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、平成25年3月1日付け国東整陸二調第1052号により、三陸国道事務所長から岩手県教育委員会生涯学習文化課長あてに試掘調査を依頼し、平成25年3月13日～3月14日にわたり試掘調査を行い、平成25年3月28日付け教生第1820号により、工事に先立って発掘調査が必要と回答がなされたものである。

その結果を踏まえて、岩手県教育委員会と協議を行い、平成27年4月1日付けで公益財団法人岩手県文化振興事業団と委託契約を締結し、発掘調査を実施することとなった。

(国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所)



第1図 岩手県図

II 遺跡周辺の地理的環境

1 遺跡の位置

北鹿糠遺跡は洋野町種子第18地割に所在し、座標は北緯40度23分48秒、東経141度42分48秒付近を示している。国土地理院発行の25,000分の1地形図「種子」の図幅に含まれる。調査前の現況は植林によって形成された樹齢100年前後の杉林であった。

2 遺跡の立地

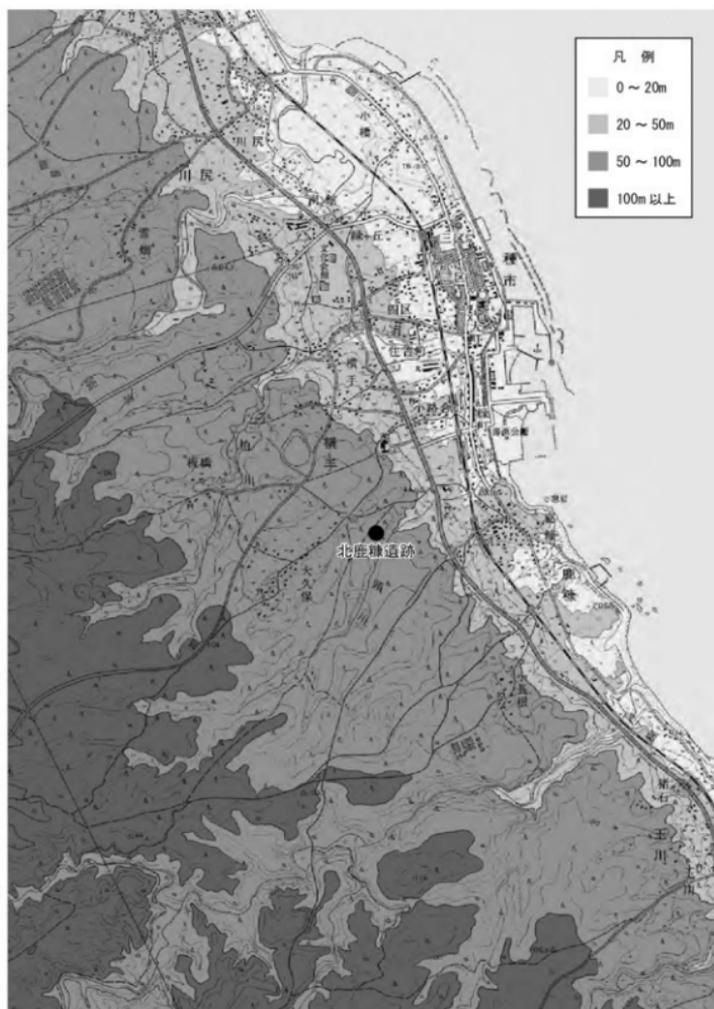
遺跡は洋野町役場から南西方向に直線で約1.5kmの山地にあり、調査区は全体が南東に傾斜した緩斜面地である。標高は約75m～48mを示す。本遺跡の北東側0.3kmには当センターで1994年と2000年に調査を実施したゴッソー遺跡、南側には当遺跡と同年度調査を実施した南鹿糠1遺跡が隣接する。

当遺跡は周辺地域で発達している海岸段丘の段丘面と段丘斜面に立地している。この海岸段丘は白前段丘と呼ばれ、遺跡位置は雪畑面に相当する。河川による開析（浸食）が進んでおり、段丘面の末端部は尾根状の地形をなしている。洋野町種子周辺は海岸段丘が発達しており、標高約20m～50mは種子段丘、約50m～100mは白前段丘、約100m～九戸段丘におおよそ分類されている。第3図は海岸段丘を視覚的に理解しやすくするために標高による区分を行った、おおよその段丘面を表したものである。標高100m以上の九戸段丘には河川による開析（浸食）が進み、谷地形が発達していることが読み取れる。一方、標高20m以下の最も新しい沖積段丘面上を国道45号線が南北に縦断しており、現在の種子市街地の大半が含まれていることが分かる。今回の発掘調査により、平坦な段丘面



25,000分の1「種子」修正

第2図 遺跡位置図



25,000分の1 「角区」「種市」修正

第3図 標高区分図

と緩やかな開析が進む段丘斜面に集落や狩り場が形成されていることが確認された。段丘斜面の下位には現在、冬季でも一定の水量がある潤れない沢が流れており、縄文時代においても水が得やすい環境であったことが容易に想像できる。さらに沢では石器に使う石材を調達しやすく、太平洋に直接流れ込んでいる沢であり魚影が濃いため、海と山の双方から恵みを受用できる地であったものと推測される。

3 周辺の遺跡

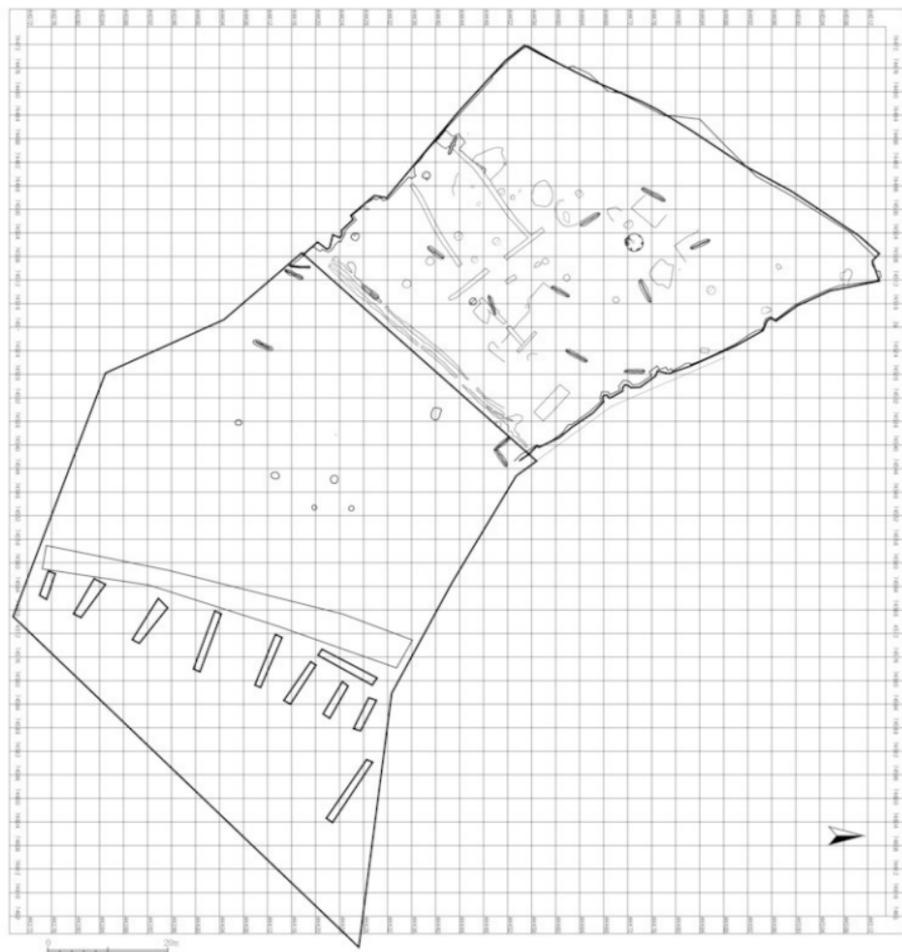
種市町からは多数の遺跡が見つかり、時代ごとに概観しても、縄文時代から近世に至る各時代において遺跡が存在する。とりわけ縄文時代においては後期の遺跡が多い。

第1表 周辺の遺跡一覧

番号	遺跡名	時代	種別	確認された遺構・遺物
1	北鹿糠	縄文	散布地	縄文土器、石器
2	平内V	縄文	散布地	縄文土器（前期）、石斧、礫器
3	南平内I	縄文	散布地	縄文土器（晩期）、製塩土器
4	南平内II	縄文	散布地	縄文土器、剥片石器
5	南平内III	縄文	散布地	縄文土器、剥片
6	東平内I	縄文	散布地	縄文土器、石斧、敲石、礫器、剥片
7	東平内II	縄文	散布地	縄文土器
8	南館	中世	城館跡	堀跡（破壊）
9	南川尻	縄文	散布地	縄文土器、石器
10	サンニヤI	縄文	散布地	縄文土器
11	サンニヤII	古代	集落跡	竪穴住居跡・土坑、縄文土器・土師器
12	横手	縄文・古代	散布地	縄文土器（晩期）、土師器
13	トチの木	縄文	散布地	縄文土器（後・晩期）
14	ゴッソー	縄文	集落跡	縄文土器（早～晩期）、製塩土器、弥生土器、竪穴住居跡、土坑等
15	板橋館	中世	城館跡	単郭、堀跡
16	大久保	縄文・古代	散布地	縄文土器（前・後・晩期）、石斧、土師器
17	南鹿糠I	縄文	集落跡	竪穴住居跡、縄文土器（早、前期）
18	鹿糠浜II	縄文	集落跡	縄文土器（後期）、石器
19	鹿糠浜I	縄文	散布地	縄文土器、石器
20	戸類家	縄文	散布地	縄文土器（晩期）、土偶



第4図 周辺の遺跡



第5図 北鹿標遺跡遺構配置図

Ⅲ 調査の経過と方法

1 平成27年度調査

(1) 野 外 調 査

本調査に先立ち、平成26年に岩手県教育委員会生涯学習文化課により試掘調査が実施され、委託者との協議を経て調査区が設定されている。

調査は平成27年10月1日より調査を開始した。調査面積は5,300㎡である。調査員3名、野外作業員28名体制で行った。

調査区にはグリッドを設定した。グリッドは平面直角座標第X系（世界測地系）に合わせており、まず一辺100×100mの大区画（IA）を設定後（第6図参照）、4×4mの小区画に細分した。北から南にアルファベット小文字a～y、西から東にアラビア数字1～25に分割している。各グリッドの名称については、例えば「IA1aグリッド」のように呼称することとした。

本調査は表土除去から始めている。重機（バックホウ0.45㎡、キャリアダンプ6t）を用い、その後、人力による遺構検出作業を行った。検出した遺構は規模や性格により、適宜に4分法と2分法を選択し精査を進めた。

各遺構については平面と断面、また必要に応じ遺物出土状況の実測および、写真撮影を行った。実測方法については、「遺構実測支援システム」を用いてトータルステーションによる測量を行い作成した。

写真撮影は主にフルサイズ相当のデジタルカメラ1台と35mm一眼レフカメラ（モノクローム）を使用し、同アングルのデジタル写真・銀塩写真の両方で撮影している。

調査区東側から南東にかけての標高67m以下の部分は調査期間短縮のためトレンチによる調査を行った。検出面以下1m以上、トレンチによっては2m以上の掘削を行い、遺構遺物の有無を確認した。結果、遺構・遺物ともに確認されなかった。

平成27年11月4日に本調査を行った5,300㎡についての終了確認を受け、調査終了が確定した。

平成27年11月11日に現場から資材等を撤収し、調査終了とした。

(2) 室 内 整 理

平成28年2月1日から平成28年3月31日の期間に室内整理作業調査員1名、室内作業員2名体制で行った。

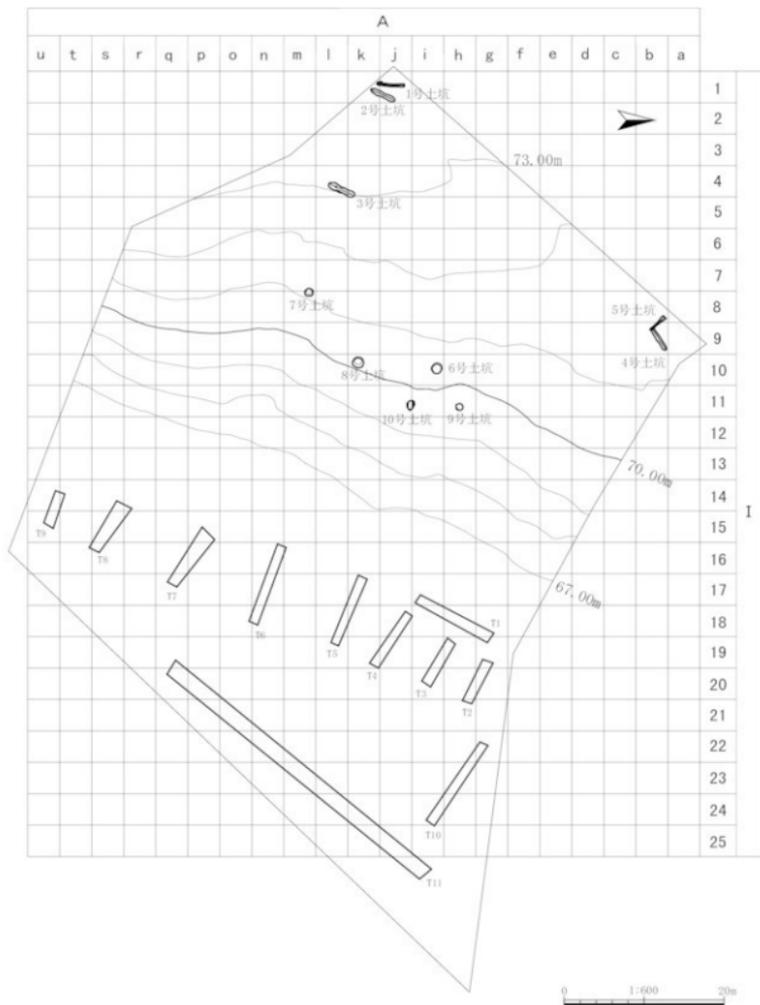
遺物は水洗から始め、以降の工程（仕分け・注記、接合復元、実測、トレース、図版作成）を作業員が分担した。調査員は遺物の分類、原稿の執筆、遺物観察表の作成、実測図や図版のチェックを行った。

遺物の写真撮影は当センターの写場において写真技師が行った。撮影にはフルサイズ相当のデジタルカメラを用いている。

遺構図面の整理は、野外調査時に作成した平面図・断面図から、調査員の指示のもと、第2原図作成および遺構図版作成を行った。遺構・遺物図版の作成には市販のソフトウェア他を使用し、デジタルにて図版を作成した。

なお本報告書作成にあたり、各遺構名を野外調査時から変更した。本報告書に記された遺構名を優

先する。遺構名の変更については第2表の通りである。



第6図 遺構とグリッド配置図（平成27年度調査区）

2 平成28年度調査

(1) 野 外 調 査

本調査に先立ち、平成26年に遺跡の試掘調査が岩手県教育委員会生涯学習文化課により実施され、委託者との協議を経て調査範囲が設定されている。

平成28年10月3日より野外調査は開始された。調査面積は3,400㎡である。調査員3名、野外作業員20名の体制で行った。

今回の調査区にはグリッドを設定しなかった。代わりに調査区を北側・中央・南側・東部・西部に分けこれを組み合わせて9分割に大別し、「調査区中央の東部」「調査区南側の西部」などと呼称することとし、これに基本層序を付けて遺構外からの出土遺物を取り上げている。

本調査は表土除去から始めている。重機（バックホウ0.45㎡、キャリアダンプ6t）を用い、その後、人力による遺構検出作業を行った。検出した遺構は規模や性格により、適宜に4分法と2分法を選択し精査を進めた。原則として堅穴住居やそれに近似するする規模を有するものは4分法、土坑や陥し穴、小規模な焼土は2分法で作業を進めた。

各遺構については平面図と断面図、また必要に応じて遺物出土状況の実測図の作成と写真撮影を行った。実測方法については、電子平板・トータルステーションによる測量と簡易遣り方による手測りでの実測を併用し記録した。

写真撮影は主にフルサイズ相当のデジタルカメラ1台と中判カメラ（モノクローム）を使用し、同アングルのデジタル写真・銀塩写真の両方で撮影している。

平成28年11月22日に本調査を行った3,600㎡についての終了確認を受け、調査終了が確定した。

平成28年12月7日に現場から資材等を撤収し、調査終了とした。

(2) 室 内 整 理

平成28年12月1日から平成29年1月31日の期間に室内整理作業調査員2名、室内作業員3名体制で行った。

遺物は水洗から始め、以降の工程（仕分け・注記、接合復元、計測、計量、実測、トレース、図版作成）を作業員が分担した。石器実測の一部は業者へ外注している。

調査員は遺物の仕分・分類を行い、本遺跡を代表する遺物（掲載遺物）を抽出した。そして報告書原稿の執筆、遺物観察表の作成、実測図や図版の点検と修正を行った。

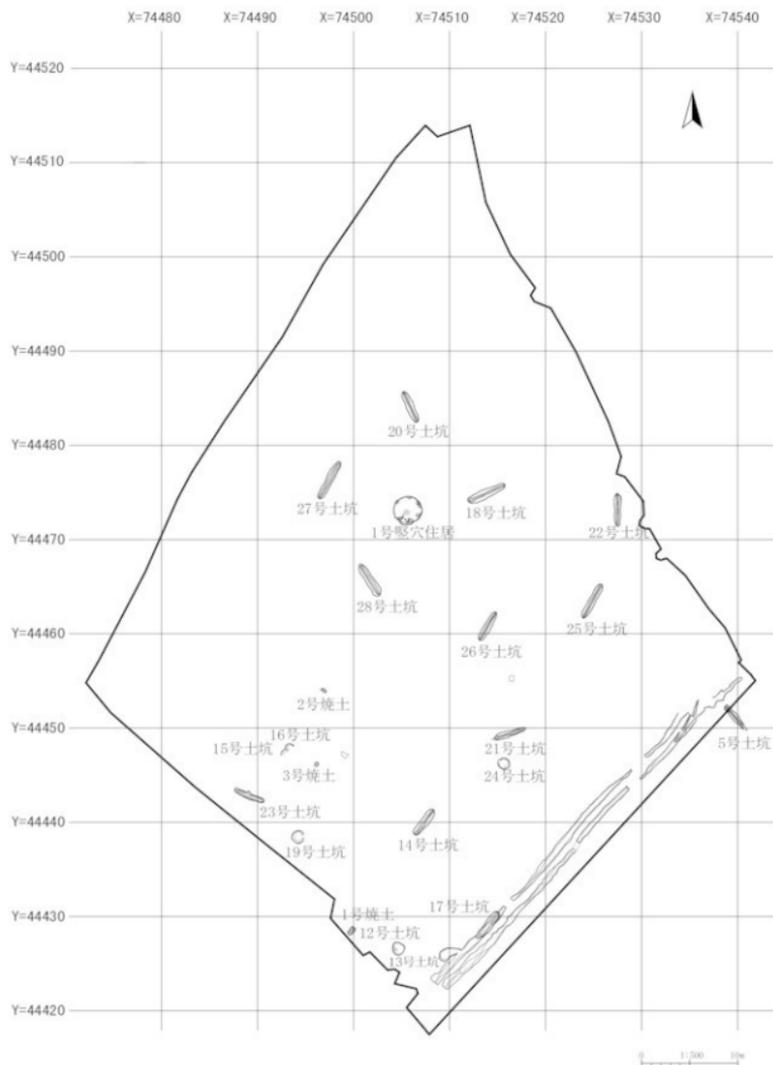
第2表 遺構名変更表（平成27・28年度調査）

遺構名	旧遺構名
1号土坑	SK01
2号土坑	SK02
3号土坑	SK03
4号土坑	SK04
5号土坑	SK05
6号土坑	SK06
7号土坑	SK07
8号土坑	SK08
9号土坑	SK09
10号土坑	SK10
11号土坑	SK11（遺構ではなかった）
12号土坑	SK12
13号土坑	SK13
14号土坑	SK14
15号土坑	SK15
16号土坑	SK16
17号土坑	SK17
18号土坑	SK18
19号土坑	SK19
20号土坑	SK20
21号土坑	SK21
22号土坑	SK22
23号土坑	SK23
24号土坑	SK24
25号土坑	SK25
26号土坑	SK26
27号土坑	SK27
28号土坑	SK28
29号土坑	SK29（遺構ではなかった）
1号堅穴住居	S I O 1
1号焼土	変更なし
2号焼土	変更なし
3号焼土	変更なし

遺物の写真撮影は当センターの写場において写真技師が行った。撮影にはフルサイズ相当のデジタルカメラを使用している。

遺構図面の整理は、野外調査時に作成した平面図・断面図から、調査員の指示のもと、第2原因作成および遺構図版作成を行った。遺構図版の作成には手書きした図面をデジタルトレースし平面図とデジタル合成した。遺物図版には手書実測・トレースしたものと、デジタルでトレースしたものをそれぞれ別々に図版作成した。

なお本報告書作成にあたり、各遺構名を野外調査時から変更した。本報告書に記された遺構名を優先する。遺構名の変更については第2表の通りである。



第7図 遺構配置図（平成28年度調査区）

IV 基本土層

平成 27 年度調査区において基本土層を確認した（第 8 図）。今回の調査範囲は標高約 75 m～約 48 m の南東向きの緩斜面地で、調査区上部（北西部）では検出面から地表面までの堆積土が薄く、調査区下部（南東部）ではそれが厚い傾向がある。特に第 II 層は調査区南端部で非常に厚く、1 m を超えるところがあり、斜面下方ほど土壌（第 II 層（黒ボク土））の形成・堆積が進んでいる。

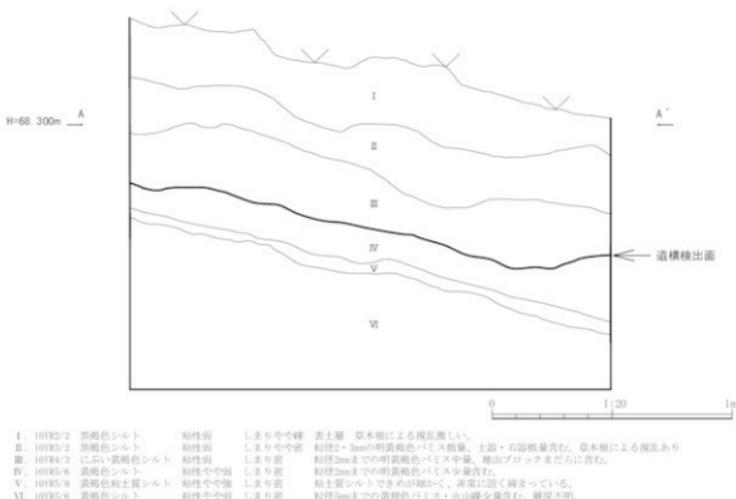
以下、層位ごとに概観する。

第 I 層：黒褐色シルトを主体とする。森林腐葉土で草木根を多く含む。戦前戦後の畑地利用、杉の植林により一部攪乱を受けている。粘性は弱く、しまりは疎である。

第 II 層：黒褐色シルトを主体とし、粘性は弱く、しまりはやや密である。層の下部は特に黒色が強いが分層はしていない。いわゆる黒ボク土であり、目立つ混入物は無い。遺構の検出は無く、粒径 1～2 mm の明黄褐色パミス少量含む。パミスは十和田由来と考えられるが、降下時期は不明である。遺構・遺物は確認されなかった。

第 III 層：にぶい黄褐色シルトを主体とし、粒径 2 mm までのパミスを多量に含む。特に層の下部にパミスを多く含み、少量であるが粒径 2 mm を超える軽石も見られ、南部浮石と考えられる。粘性は弱く、しまりは密である。検出面からは遺構・遺物が出土し、この第 III 層上面を今回の調査では遺構検出面とした。

第 IV 層：黄褐色シルトを主体とし、粘性はやや弱く、しまりは密である。粒径 2 mm 程のパミスを少量含む。検出面から 1 m 以上掘り下げたが遺構・遺物の出土は無く、人間の生活の痕跡が認められなかった。したがって第 IV 層は地山とし、今回の調査では第 III 層上面の 1 面のみが遺構検出面と判断した。



第 8 図 基本土層

V 検出遺構と出土遺物

1 平成27年度調査

(1) 概 要

調査区は北西から南東を長軸とし長さ約80m、幅は60～70mの歪な長方形を呈す。標高は約60～74m程で南東方向に傾斜した緩斜面地であり、調査以前は樹齢100年ほどの杉林であった。本遺跡は平成12年に当センターで調査を実施したゴッソー遺跡、同年度に調査を実施した南鹿跡遺跡と隣接する。

調査区からは縄文時代のものと考えられる土坑10基を検出した。内訳は陥し穴5基、性格不明の土坑4基、フラスコ状土坑1基である。

(2) 土 坑

1号土坑（第15図、写真図版6）

〔位置・検出状況〕 調査区西端IA1jグリッドに位置する。IV層上面で検出した。

〔その他の遺構との重複〕 なし。

〔平面形〕 細長楕円形を呈する。

〔規模〕 長軸348cm・短軸29cm・深さ88cm

〔埋土〕 5層からなる。にぶい黄褐色シルトを主体とする。堆積状況からみて自然堆積と推測する。

〔底面〕 ほぼ平坦であるが、北側へ傾斜が見られる。長軸両端壁は若干のオーバーハングが見られる。

〔出土遺物〕 なし。

2号土坑（第15図、写真図版6）

〔位置・検出状況〕 調査区西端IA1j～1kグリッドに位置する。IV層上面で検出した。

〔その他の遺構との重複〕 なし。

〔平面形〕 細長楕円形を呈する。

〔規模〕 長軸340cm・短軸54cm・深さ116cm

〔埋土〕 3層からなり、一部木根による攪乱がある。暗褐色～黄褐色シルトを主体とする。堆積状況からみて自然堆積と推測する。

〔底面〕 ほぼ平坦である。長軸両端壁はほぼ垂直に立ち上がる。

〔出土遺物〕 なし。

3号土坑（第16図、写真図版6）

〔位置・検出状況〕 調査区西端IA4Iグリッドに位置する。IV層上面で検出した。

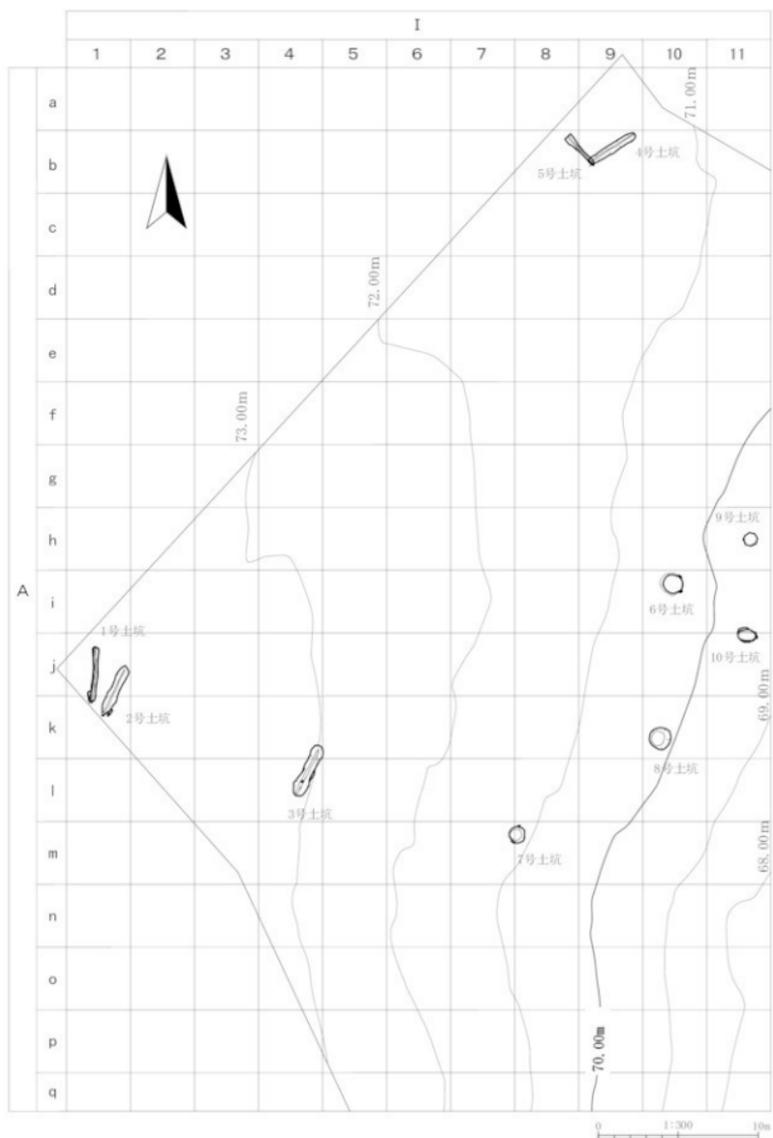
〔その他の遺構との重複〕 なし。

〔平面形〕 細長楕円形を呈する。

〔規模〕 長軸346cm・短軸54cm・深さ106cm

〔埋土〕 4層からなる。黄褐色シルトを主体とする。堆積状況からみて自然堆積と推測する。

〔底面〕 ほぼ平坦であるが長軸方向北東側に若干傾斜している。長軸両端壁にオーバーハングがみら



第9図 遺構配置図 (平成27年度調査区)

れる。

〔出土遺物〕 検出面において縄文土器片1片（1）（第27図）が出土した。埋土の様相と出土状況から周辺からの流れ込みによるものと考えられる。

4号土坑（第16図、写真図版6・7）

〔位置・検出状況〕 調査区西端IA9bグリッドに位置する。IV層上面で検出した。

〔その他の遺構との重複〕 5号土坑と重複し、本遺構の方が新しい。

〔平面形〕 細長楕円形を呈する。

〔規模〕 長軸338cm・短軸56cm・深さ102cm

〔埋土〕 2層からなり、黄褐色シルトを主体とする。上部は現代の攪乱により埋土の一部が失われていた。

〔底面〕 ほぼ平坦であるが、中央付近が周囲に比べわずかに低い。長軸両端壁はわずかにオーバーハングする。

〔出土遺物〕 縄文土器片1片（2）（第27図）が埋土下位から出土した。縄文時代前期に比定される土器である。

5号土坑（第17図、写真図版7）

〔位置・検出状況〕 調査区西端IA8b～9bグリッドに位置し、IV層上面で検出した。調査区外に遺構の一部が延びている。

〔その他の遺構との重複〕 4号土坑と重複し、本遺構の方が古い。

〔平面形〕 細長楕円形と考えられる。

〔規模〕 長軸（246）cm・短軸54cm・深さ102cm

〔埋土〕 1層からなり、暗褐色シルトを主体とする。

〔底面〕 ほぼ平坦である。

〔出土遺物〕 なし。

6号土坑（第17図、写真図版7）

〔位置・検出状況〕 調査区西端IA10iグリッドに位置する。IV層上面で検出した。

〔その他の遺構との重複〕 なし。

〔平面形〕 円形を呈する。

〔規模〕 長軸118cm・短軸114cm・深さ104cm

〔埋土〕 5層からなり、黒褐色シルトを主体とする。堆積状況からみて自然堆積と推測する。

〔底面〕 開口部に比べ広くほぼ平坦である。中央部に浅い凹部がある。

〔出土遺物〕 なし。

7号土坑（第17図、写真図版7）

〔位置・検出状況〕 調査区西端IA7m～8mグリッドに位置する。IV層上面で検出した。

〔その他の遺構との重複〕 なし。

〔平面形〕 円形を呈する。

〔規模〕 長軸104cm・短軸98cm・深さ42cm

[埋土] 3層からなり、暗褐色シルトを主体とし粒径2mmまでのバミスや地山ブロックを含む。堆積状況からみて自然堆積と推測する。

[底面] 椀状に丸く窪む。

[出土遺物] なし。

8号土坑（第18図、写真図版8）

[位置・検出状況] 調査区西端IA10kグリッドに位置する。IV層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] なし。

[平面形] 円形を呈する。

[規模] 長軸136cm・短軸134cm・深さ104cm

[埋土] 5層からなり、暗褐色シルトを主体とする。堆積状況からみて一部人為堆積と推測する。

[底面] 平坦である。

[出土遺物] なし。

9号土坑（第18図、写真図版8）

[位置・検出状況] 調査区西端IA11hグリッドに位置する。IV層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] なし。

[平面形] 円形を呈する。

[規模] 長軸90cm・短軸86cm・深さ28cm

[埋土] 3層からなり、黒褐色シルトを主体とする。堆積状況からみて自然堆積と推測する。

[底面] 平坦である。

[出土遺物] なし。

10号土坑（第18図、写真図版8）

[位置・検出状況] 調査区西端IA10iグリッドに位置する。IV層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] なし。

[平面形] 楕円形を呈する。

[規模] 長軸116cm・短軸74cm・深さ46cm

[埋土] 2層からなり、暗褐色シルトを主体とする。堆積状況からみて自然堆積と推測する。

[底面] 開口部と同様に楕円形を呈し、平坦である。

[出土遺物] なし。

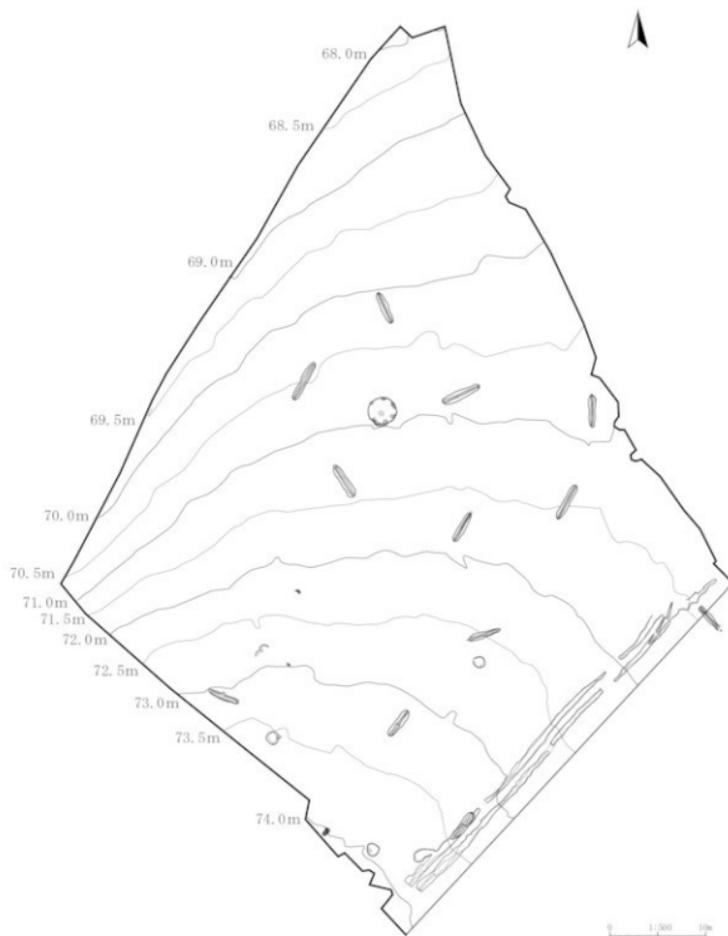
（3）出土遺物

縄文土器（第27図、写真図版10）

1は口縁部に貝殻腹縁文がみられることから縄文時代早期中葉頃の土器とみられる。2は結束の縄文で縄文時代前期後葉か。3は口縁部に燃糸文を施文しており、4には口縁部に平行沈線文をほどこしている。5は縄文時代後期であろうか。

石器 (第27図、写真図版10)

2点とも磨石で、6は広い面を、7は縁辺と端部を使用している。



第10図 遺構配置図 (平成28年度調査区)

2 平成28年度調査

(1) 概 要

本遺跡は店頭川と竜頭川に挟まれた細長い丘陵上に立地している。今年度の調査区は遺跡のほぼ中央にあたる標高の最も高い地点から、北-北西方向へと下る標高75-68mの緩斜面部である。現況は杉と松の混合林であったが、嘗ての地権者によると40年前には果樹も行ってたという。その植栽痕は発掘調査でも確認できた。住宅や水道といった他の擾乱は見られない。

検出された遺構・遺物は何れも縄文時代のものである。竪穴住居1棟、陥し穴11基、土坑6基、焼土3基、土器が大コンテナ4箱、石器は6箱出土した。

遺構の検出面はIV層上面が中心で、焼土だけはIII層面で検出された。

(2) 竪 穴 住 居

1号竪穴住居（第14図、写真図版11）

〔位置・検出状況〕 調査区中央の北側に位置し、IV層上面に黒褐色土と暗褐色土からなる不明瞭且不整形な広がりを検出した。直ぐ傍にある樹木（杉）の影響と考えていたが、4分法で精査したところ炉跡と床面を確認し、住居であることが分かった。

〔規模・形状〕 平面形は304×300cmの円形を基調とする。残存深度は18cmである。

〔埋土・堆積状況〕 暗褐色シルトを少量含む黒褐色シルトであり、自然堆積である。

〔炉〕 床面はほぼ中央から南側にかけて造られていた。床面はほぼ中央部には65×60cmの、その場で火を焚いた範囲がある。しかし焼土の厚さは5cm程で長期に渡り使用したような雰囲気はない。これより南側には20cm前後の亜角礫を据え置いた部分があるが焼土の広がり認められない。本来は石囲部となっていたのかもしれないが、使われていた多くの礫が抜けてしまった可能性もある。図にした礫は元位置を留めていると判断したものである。

〔壁・床面〕 壁は極めて不明瞭であった。南側が直立気味に底面から18cm程、北側は殆ど立ち上がらない。床面も硬く締まるものではなく、若干凹凸がある。

〔柱穴・壁溝〕 柱穴は壁沿いに8個確認された。住居の屋根を支えるには北や北西のほうにも柱が必要と考えて探したが、柱穴は検出できなかった。壁溝も南部の一部にのみ見られた。

〔重複遺構〕 なし。

〔出土遺物〕 縄文土器と石器が少量出土している。

〔帰属時期〕 出土遺物から縄文時代後期前葉とみられる。

(3) 土 坑

陥し穴と土坑を合わせて登録順に報告する。

5号土坑（第17図、写真図版12）

〔位置・検出状況〕 調査区の東側の南端部に位置し、IV層上面で検出された。

〔その他の遺構との重複〕 4号土坑と重複し、本遺構のほうが古い。

〔平面形〕 長円形を基調とすると思われるが、南側は4号土坑と重なっている。陥し穴である。

〔規模〕 長軸291cm、短軸72cm、深さは92cmある。

〔埋土〕 上位が黄褐色シルトブロックを含む黒褐色シルト、下位が田表土とみられる黒褐色シルトか

らなる自然堆積である。

[底面] 緩やかに盛り上がることもある。

[出土遺物] なし。

[時期] 縄文時代。

12号土坑（第18図、写真図版12）

[位置・検出状況] 調査区西部の南端にあり、IV層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] なし。

[平面形] 不整な円形である。

[規模] 長軸138cm、短軸127cm、深さ25cm

[埋土] 暗褐色シルトに黒褐色シルトブロックや黄褐色シルトブロックを含む人為堆積。土器の内部には黒褐色シルトが入っていた。

[底面] 平坦ではなく若干の高低がある。

[出土遺物] 南端部、底面から10cm浮いたところから土器の底部破片が傾いた状態で出土している。粗掘りのときには気が付かなかったが本来は口縁部まで存在した可能性がある。

[時期] 縄文時代前期。

13号土坑（第19図、写真図版12）

[位置・検出状況] 調査区西部の南端に位置し、IV層上面で検出している。

[その他の遺構との重複] 町道による攪乱（轍痕）により一部失われている。

[平面形] 不整な長円形である。

[規模] 長軸221cm、短軸114cm、深さ35cm

[埋土] 暗褐色シルトを主体とし、黒褐色シルト、黄褐色シルトを少量含む自然堆積。

[底面] 中央付近が他よりは少しだけ深くなっている。

[出土遺物] なし。

[時期] 縄文時代。

14号土坑（第19図、写真図版12）

[位置・検出状況] 調査区の西部南端に位置し、IV層上面で検出している。

[その他の遺構との重複] 町道による攪乱（轍痕）により上面が削平されている。

[平面形] 長円形を呈する陥し穴である。

[規模] 長軸328cm、短軸94cm、深さ134cm

[埋土] 上位には黒色シルト、壁際には黄褐色シルトが主体となって見られる。下位から底面にかけては黄褐色シルトと黒褐色土が交互に堆積。自然堆積。

[底面] 上場よりも短軸は狭く13cm程である。その一方長軸は長くなり337cmあり、長軸両端壁は膨らみをもつ。

[出土遺物] なし。

[時期] 縄文時代。

15号土坑（第20図、写真図版13）

[位置・検出状況] 調査区の西側の中央部に位置し、IV層上面で検出された。

[その他の遺構との重複] 16号土坑と重複し、本遺構のほうが新しい。

[平面形] 円形を基調とすると思われるが、南側は失われている。

[規模] 長軸81cm、短軸50cm、深さは31cmある。

[埋土] 暗褐色シルトや黒褐色シルトの中に地山起源の黄褐色シルトを不規則に含んでおり、人為堆積と考えられる。

[底面] 比較的平坦であった。

[出土遺物] なし。

[時期] 縄文時代。

16号土坑 (第20図、写真図版13)

[位置・検出状況] 調査区西側の中央部に位置し、IV層上面で検出している。

[その他の遺構との重複] 15号土坑より古い。

[平面形] 南側が削平されているが円形であったと推測される。

[規模] 長軸80cm以上、短軸25cm以上、深さは40cm

[埋土] 地山起源の黄褐色シルトが主体となる人為堆積である。

[底面] 概ね平坦ではあるが狭い。

[出土遺物] なし。

[時期] 縄文時代。

17号土坑 (第20図、写真図版13)

[位置・検出状況] 調査区西側の南端部に位置している。現況が町道だった部分である。IV層上面で検出したが、轍痕により上場は荒れている。

[その他の遺構との重複] なし。

[平面形] 長円形を基調とする陥し穴である。

[規模] 長軸362cm、短軸76cm、深さ121cm

[埋土] 自然堆積。上位は黒褐色シルト、中位から下位にかけては明黄褐色シルトや黒褐色シルトが交互に堆積している。

[底面] 長軸315cm、短軸は15cm程と狭い。底面に逆茂木痕は見られなかった。

[出土遺物] なし。

[時期] 縄文時代。

18号土坑 (第21図、写真図版13)

[位置・検出状況] 調査区東側の中央部に位置しており、IV層上面で検出している。

[その他の遺構との重複] なし。

[平面形] 長円形となる陥し穴。

[規模] 長軸423cm、短軸86cm、深さは120cmを測る。

[埋土] 自然堆積である。上位に黒褐色シルト、中位に黄褐色シルト粒を含む黒褐色シルト、下位には地山起源の明黄褐色シルト、旧表土であった暗褐色シルト等が堆積する。

[底面] 長軸400cm、短軸11cm 底面に逆茂木痕はない。

[出土遺物] なし。

[時期] 縄文時代。

19号土坑（第21図、写真図版13）

[位置・検出状況] 調査区西側の中央部にあり、IV層上面で検出している。

[その他の遺構との重複] なし。

[平面形] 円形である。

[規模] 長軸136cm、短軸130cm、深さ16cmを測る。

[埋土] 黒褐色シルトに黄褐色シルト粒を少量含む。

[底面] 概ね平坦である。

[出土遺物] なし。

[時期] 縄文時代。

20号土坑（第22図、写真図版14）

[位置・検出状況] 調査区東側の北部に位置し、IV層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] なし。

[平面形] 長円形を呈する陥し穴である。

[規模] 長軸352cm、短軸81cm、深さは143cmを測る。

[埋土] 自然堆積。上位は黒褐色シルト、中位は地山起源の明黄褐色シルトが主体となり、底面付近には暗褐色シルトが堆積していた。

[底面] 長軸356cm、短軸14cm。逆茂木痕はなかった。

[出土遺物] なし。

[時期] 縄文時代。

21号土坑（第22図、写真図版14）

[位置・検出状況] 調査区中央のやや南側に位置している。遺構検出面はIV層上面である。

[その他の遺構との重複] なし。

[平面形] 長円形を基調とする陥し穴。

[規模] 長軸341cm、短軸63cm、深さは126cmである。

[埋土] 上位に黒色シルト、中位は黒褐色シルトに黄褐色シルト小粒や暗褐色シルト粒を少量含む。下位は黒褐色シルトが見られた。自然堆積である。

[底面] 長軸381cm、短軸9cmある。逆茂木痕は見られなかった。底面長軸のほうが上場長軸よりも長くなり、長軸両端の壁は底面から内傾して立ち上がっている。

[出土遺物] なし。

[時期] 縄文時代。

22号土坑（第23図、写真図版14）

[位置・検出状況] 調査区東側のほぼ中央部に位置し、IV層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] なし。

[平面形] 長円形を呈する陥し穴である。

[規模] 長軸348cm、短軸73cm、深さは138cmある。

[埋土] 自然堆積である。上位は黒褐色シルト、中位は暗褐色シルトと明黄褐色シルト、下位には黒色シルトと黄褐色シルトの混合土が堆積。

[底面] 長軸347cm、短軸6cm。逆茂木痕はない。長軸の端部は上場よりも奥へ掘り込まれていた。

[出土遺物] なし。

[時期] 縄文時代。

23号土坑（第23図、写真図版14）

[位置・検出状況] 調査区西側のほぼ中央部に位置し、IV層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] なし。

[平面形] 長円形を呈する陥し穴である。

[規模] 長軸334cm、短軸67cm、深さは93cmある。

[埋土] 上位が黄褐色シルト小粒を少量含む暗褐色シルト、下位は黒褐色シルトとなる。自然堆積。

[底面] 長軸290cm、短軸15cm。逆茂木痕はない。

[出土遺物] なし。

[時期] 縄文時代。

24号土坑（第24図、写真図版15）

[位置・検出状況] 調査区中央の南側に位置し、IV層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] なし。

[平面形] 不整な円形をしている。

[規模] 長軸120cm、短軸115cm、深さは40cmある。

[埋土] 自然堆積である。上位には黒色シルト、下位には褐色シルトが堆積。

[底面] 概ね平坦だが所々に小さな起伏を持つ。

[出土遺物] なし。

[時期] 縄文時代か。

25号土坑（第24図、写真図版15）

[位置・検出状況] 調査区東側のやや南側に位置し、IV層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] なし。

[平面形] 長円形を基調とする陥し穴である。

[規模] 長軸403cm、短軸72cm、深さは141cmある。

[埋土] 自然堆積である。上位は黒色シルト、中位から下位は黄褐色シルト中小粒を不規則に含む黒褐色シルトからなる。

[底面] 長軸382cm、短軸13cm。逆茂木痕はない。本遺構長軸の最大は中場で418cmある。

[出土遺物] なし。

[時期] 縄文時代。

26号土坑（陥し穴）（第25図、写真図版15）

[位置・検出状況] 調査区のほぼ中央部に位置し、IV層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] なし。

[平面形] 長円形を呈する陥し穴である。

[規模] 長軸 343cm、短軸 73cm、深さは 147cmある。

[埋土] 自然堆積である。上位は黒色シルト、中位は暗褐色シルト、下位には明黄褐色シルトと黒褐色シルトの混合土が堆積。

[底面] 長軸 355cm、短軸 15cmと長軸は上端より長い。逆茂木痕はない。

[出土遺物] なし。

[時期] 縄文時代。

27号土坑（陥し穴）（第25図、写真図版15）

[位置・検出状況] 調査区中央の北側に位置し、IV層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] なし。

[平面形] 長円形を呈する陥し穴である。

[規模] 長軸 450cm、短軸 79cm、深さは 153cmある。

[埋土] 自然堆積である。上位は黒褐色シルト、中位は暗褐色シルトと褐色シルト、下位には明黄褐色シルトと暗褐色シルトの混合土が堆積。

[底面] 長軸 436cm、短軸 12cmある。逆茂木痕はない。

[出土遺物] なし。

[時期] 縄文時代。

28号土坑（第26図、写真図版16）

[位置・検出状況] 調査区中央のやや北側に位置し、IV層上面で検出した。

[その他の遺構との重複] なし。

[平面形] 長円形を呈する陥し穴である。

[規模] 長軸 394cm、短軸 92cm、深さは 150cmある。

[埋土] 自然堆積である。上位は黒色シルト、中位は褐色シルト粒を少量含む暗褐色シルト、下位には明黄褐色シルトと黒褐色シルトの混合土が堆積。

[底面] 長軸 357cm、短軸 13cm。逆茂木痕はない。

[出土遺物] なし。

[時期] 縄文時代。

（4）焼 土

1号焼土（第26図、写真図版16）

[位置・検出状況] 調査区南西端に位置し、III層面で焼土範囲を検出した。

[規模・形状] 99 × 54cmの長円形を呈する。焼土の厚さは最大 39cm。

[埋土・堆積状況] いわゆる黄褐色土の地山層の上に黒褐色土が堆積し、その直上で確認した。

[重複遺構] なし。

[出土遺物] なし。

[帰属時期] 周囲に分布する遺構や遺物の状況から縄文時代の可能性が最も高い。

2号焼土（第26図、写真図版16）

〔位置・検出状況〕 調査区西部の中央やや北側に位置する。IV層面で焼土範囲を検出。

〔規模・形状〕 70×33cmの不整形円形を呈する。焼土の厚さは最大4cm。

〔埋土・堆積状況〕 その場で火を焚いてできたものだが、しっかりしたものではなく、短期間の利用との印象をもつ。

〔重複遺構〕 なし。

〔出土遺物〕 なし。

〔帰属時期〕 周囲の遺構分布、出土遺物の状況から縄文時代の可能性が最も高い。

3号焼土（第26図、写真図版16）

〔位置・検出状況〕 調査区西部の中央付近に位置する。IV層面で焼土範囲を検出。

〔規模・形状〕 50×41cmのほぼ円形を呈する。焼土の厚さは最大1cm。

〔埋土・堆積状況〕 この場で火を焚いた際に出来たものだが、あまり発達しておらず短期間の使用であったと推測される。

〔重複遺構〕 なし。

〔出土遺物〕 なし。

〔帰属時期〕 周囲の遺構分布、出土遺物の状況から縄文時代の可能性が最も高い。

（5）出土遺物

土器（第28～30図、写真図版18～20）

調査区のはほぼ全域から出土していたが疎密は幾分あった。比較的まとまって出土していたのは調査区の中央部、北西部であった。細長い丘陵状の地形に本遺跡は占地しているため、高いところから低いところに流れ込むといったことは、今年度調査区に限ってみれば殆ど考えられない。

細かく割れた破片が多く、立体的に復元できる個体は極めて少ない。それに文様を施している土器が少なく、地文のみの所謂粗製土器が目立つ。総量は大コンテナ4箱で縄文時代後期が最も多く、前期や弥生時代のものも含まれる。ここでは遺構内外のものをまとめて記載している。数が多くないので分類は行わないが、これまでの土器編年を参考にしつつ似た特徴を持つものをまとめている。其々の個体の特徴については観察表に記載した。

1～3は1号堅穴住居から、4が12号土坑、5は19号土坑、6が27号土坑から出土したものである。

7～11は縄文時代前期前葉を中心とした時期の土器群である。結束羽状縄文を施文し、胎土には繊維を多く含むものが目立つ。

12～15は縄文時代前期にあり、前述したものより新しい段階の土器群である。口縁部に押し沈線を複数段施文したり、不整捺糸文を施したりしている。

16～29は縄文時代後期初頭から前葉の土器群と考えている。口縁部を中心に渦巻文が縦方向や横方向に付され、これらから沈線文が周囲に展開する。

30～34は縄文時代後期前葉の土器群と思われる。地紋を持つものは少なく、隆沈線の曲線文様を構成している。

35～41は文様を持たない所謂粗製の土器である。主に縄文時代後期のものと考えており、この時期の土器内面には径5mm前後の小さな器面剥落痕が多数観察される。

42～45は時期のよく分からないものである。42には斜め方向に沈線を多く描き、その間に刺突文を一部入れている。43には口縁部に網目状捺糸文が施されている。44は縦方向に条痕文がある。45には細沈線文が格子状に入れられている。

46～48は弥生時代の土器であろうか。体部上半の沈線による区画文と下半の地紋との間に沈線による鋸歯状文が入っている。

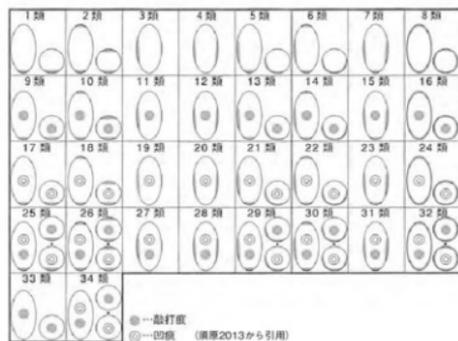
石器（第31～45図、写真図版21～35）

石器類については疎密があるにせよ調査区のほぼ全域から355点が出土している。この中から本遺跡の性格を特徴づけるものを優先して110点掲載した。

石器類の主たる時期は縄文時代前期・後期に位置づけられると考えているが、これらを時期ごとに分けることは出来なかった。今回は一括して第3表のように簡易的に分類して数量的な傾向を示した。その中で最も多く出土したのが剥片類で、次いで石斧類であった。また敲石の出土量も多いが目立った。その一方で剥片石器類や磨石、敲きと磨りが複合する石器、石皿などは少なかった。最も多い剥片類も磨製石斧を製作する際に打ち欠いて出たものと、磨製石斧を整形するときに使用していた敲石が割れたものが中心で、石鏃や石匙を製作する時に出る微細な剥片は殆ど無い。石斧類も完成品は殆ど無く、製作途中のものが中心である。これらは磨製石斧製作の各段階で折れてしまったもの、目指す形状に加工できずに諦めてしまったもの等があり磨製石斧製作の各種工程が解る良好な資料が多かった（産地も近隣である）。また加工に用いた敲石も複数の形態があり工程ごと（個人ごと）に使い分けられていたことが窺える（産地も近い）。

これらのことから石斧類は大きさから二つに大別し、製作の各段階により7つに細分した。敲石に関しても敲打痕、凹面の位置や組合せによって第11図のように細分した。

個々の石器の特徴、計測値、石質及び産地などは観察表に整理した。



第11図 敲石細分図

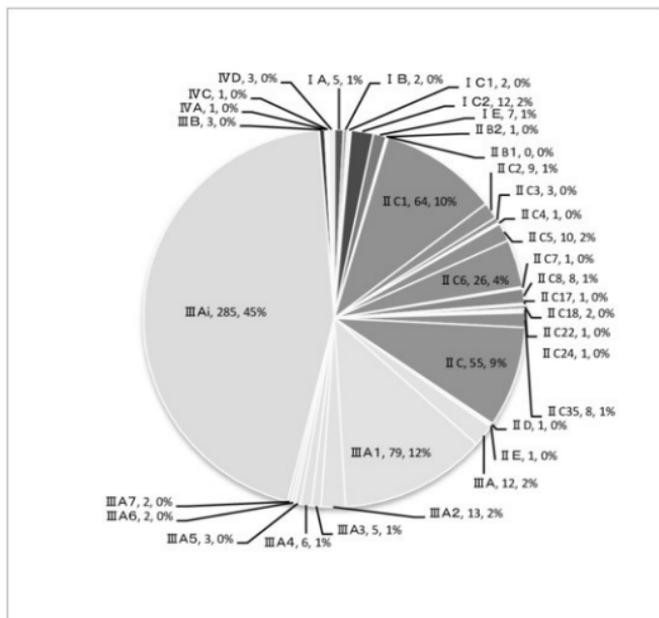
個々の石器については観察表に特徴や計測値、産地などをまとめている。

第3表 石器分類基準

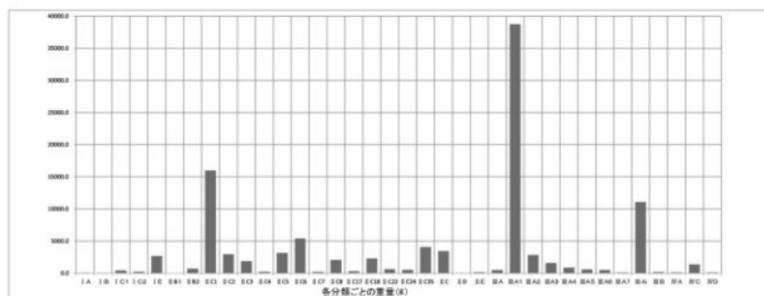
I	剥片 石器	A	石根	1 有茎	
					2 無茎
					3 その他
		B	石匙	1 縦長	
				2 横長	
		C	掻削器	1 掻器	
				2 削器（不定形なもの含む）	
D	尖頭器				
E	打製石器	1 万部を両面			
		2 万部を片面			
F	剥片				
II	礫石器	A	石根	1 脚・縁有	
					2 脚・縁無し
		B	磨石	1 広い面を使用	
				2 縁辺部を使用	
		C	敲石	1 敲打直、凹痕の位置や組合せによ って34類に細分した（別図を参照）	
				34	
D	磨石・敲石 複合	1 広い面を磨・敲			
		2 広い面を磨、端部を敲			
		3 縁辺部を磨、広い面を敲			
		4 縁辺部を磨、端部を敲			
E	その他				
III	磨製 石器	A	石斧	0 素材段階	
				1 荒削	
				2 粗磨成形	
				3 磨成形→敲打	
				4 敲打成形が終了	
				5 敲打→研磨	
				6 研磨が終了（完成品）	
		7 完成品が破損→修復			
		B	石斧（小）	0 素材段階	
				1 荒削	
				2 粗磨成形	
				3 粗磨成形→敲打	
				4 敲打成形が終了	
				5 敲打→研磨	
6 研磨が終了（完成品）					
7 完成品が破損→修復					
C	楔				
IV	その他	A	石棒		
		B	石削		
		C	台石		
		D	その他		

石斧類の残存状態による分類

残存状態	
a	類 完形
b	類 体部→基部
c	類 基部のみ
d	類 体部→万部
e	類 万部のみ
f	類 縦方向に欠損
g	類 側部のみ
h	類 両端が欠損
i	類 剥離片のみ

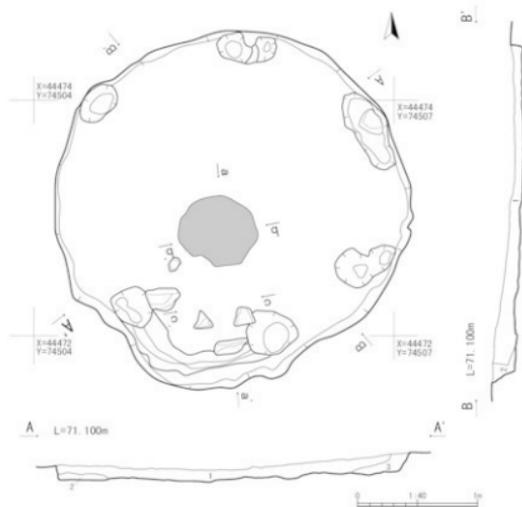


第12図 石器分類別個数



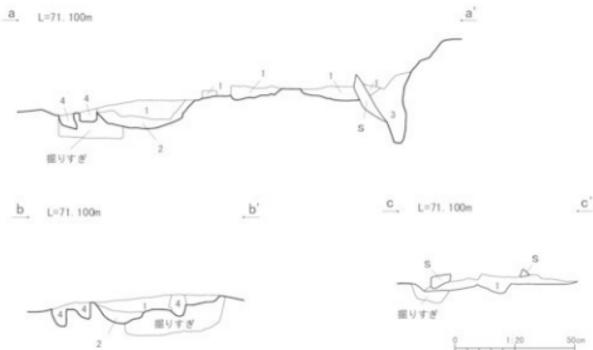
第13図 石器分類別重量

1号竪穴住居



1号竪穴住居 (A-A', B-B')

1. 10YK2/2 黒褐色シルト 暗褐色シルト30%含む 粘性・縮りやや有
2. 10YK3/3 暗褐色シルト 黒褐色シルト10%含む
3. 10YK3/3 暗褐色シルト 粘性・縮りやや有

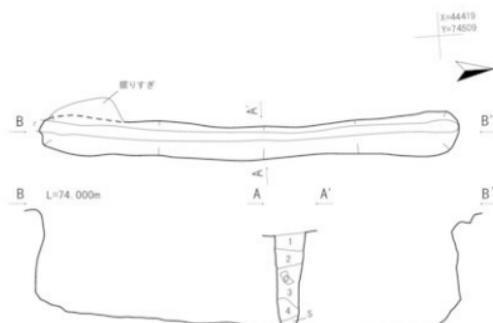


1号竪穴住居 (a-a', b-b', c-c')

1. 10YK3/2 黒褐色シルト 暗褐色微塵含む 粘性・縮りやや有
2. 5YR5/8 明赤褐色土 粘性弱、縮っている
3. 10YR4/4 褐色シルト 黄褐色シルト中小粒30%含む 粘性・縮りやや有
4. 10YK2/2 黒褐色シルト 黄褐色土10~20%含む 粘性やや有、縮り弱

第14図 1号竪穴住居

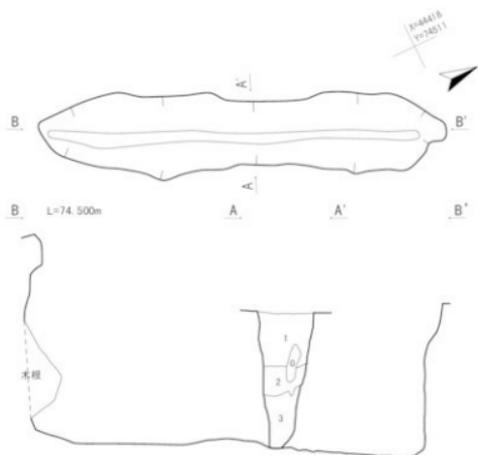
1号土坑



1号土坑 (A-A')

1. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり密 粒径2mmまでのパリス少量、地山ブロック少量含む
2. 10YR5/4 に近い黄褐色シルト 粘性弱 しまり密 粒径2mmまでのパリス少量、地山ブロック多量含む
3. 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性弱 しまりやや疎 地山ブロック多量、パリス少量含む
4. 10YR4/3 に近い黄褐色シルト 粘性弱 しまりやや疎 砂少量、地山ブロック少量含む
5. 10YR6/4 に近い黄褐色シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック多量含む
6. 本図による復元

2号土坑

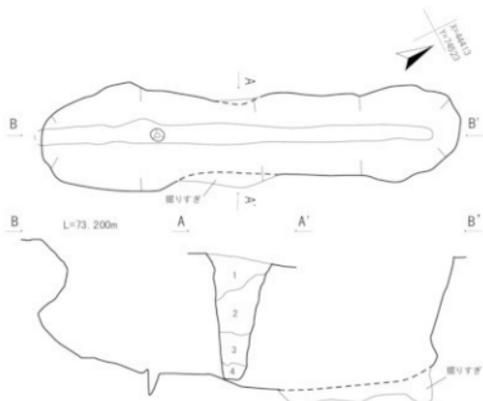


2号土坑 (A-A')

1. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまりやや密 粒径2mmまでのパリス少量含む
2. 10YR5/4 に近い黄褐色シルト 粘性弱 しまりやや密 地山ブロック多量含む
3. 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性弱 しまりやや疎 地山ブロック多量含む
6. 本図による復元

第15図 1号・2号土坑

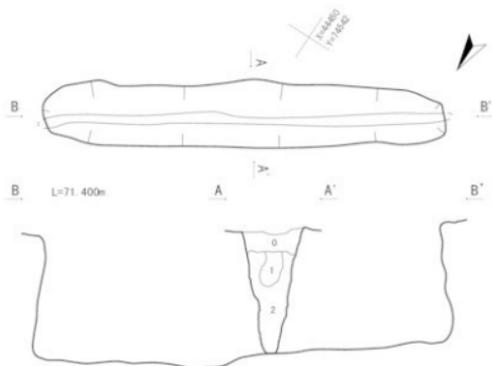
3号土坑



3号土坑 (A-A')

1. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性やや弱 しまりやや密 粒径200μまでのパミス微量含む
2. 10YR5/4 に近い黄褐色シルト 粘性弱 しまりやや密 地山ブロックまじらを含む
3. 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性弱 しまりやや疎 地山ブロック多量含む
4. 10YR6/4 に近い黄褐色シルト 粘性強 しまり密 地山ブロック塊

4号土坑



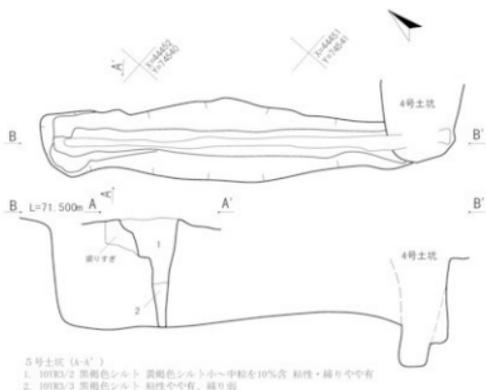
4号土坑 (A-A')

1. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性やや弱 しまりやや疎 粒径200μまでのパミス少量、炭化物少量含む
2. 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性やや強 しまりやや密 地山ブロック多量含む 層積層土
0. 現代の雨平による覆土

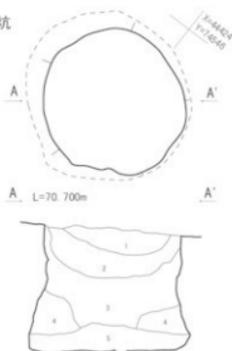


第16図 3号・4号土坑

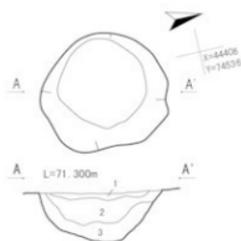
5号土坑



6号土坑

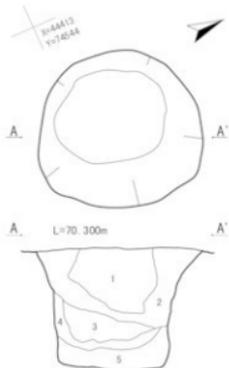


7号土坑



第17図 5～7号土坑

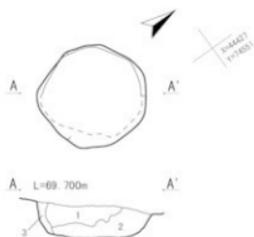
8号土坑



8号土坑 (A-A')

- 10YR5/8 黄褐色シルト しまり密 粘性や中密
パリスブロック少量含む
- 10YR3/4 暗褐色シルト しまりや中密 粘性や中密
地山ブロック中量、炭化物少量、パリス少量含む
- 10YR2/2 黒褐色シルト しまりや中密 粘性や中密
パリス微量含む
- 10YR3/4 暗褐色シルト しまりや中密 粘性や中密
パリス微量、地山ブロック少量、炭化物微量含む
- 10YR5/8 黄褐色シルト しまりや中密 粘性や中密
暗褐色シルト (10YR3/4) まだらに混じる

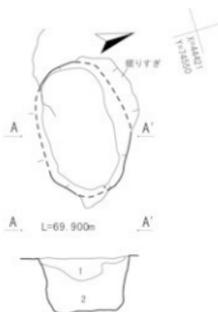
9号土坑



9号土坑 (A-A')

- 10YR5/8 黄褐色シルト しまりや中密 粘性や中密
パリスブロック微量含む
- 10YR3/2 黒褐色シルト しまりや中密 粘性や中密
黒色シルト (10YR2/1) まだらに混じる、パリス少量含む
- 10YR3/3 暗褐色シルト しまりや中密 粘性や中密
パリス微量含む

10号土坑



10号土坑 (A-A')

- 10YR2/2 黒褐色シルト しまり密 粘性や中密 パリス微量含む
- 10YR3/4 暗褐色シルト しまり密 粘性や中密
パリス中量含む、黒色シルト (10YR2/1) まだらに混じる

12号土坑



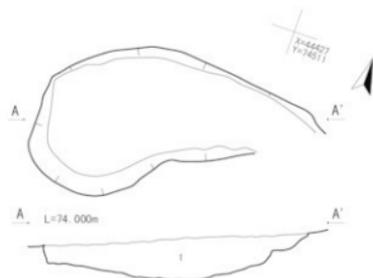
12号土坑 (A-A')

- 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性や中密、締り面
- 10YR3/4 暗褐色シルト 黒褐色シルトブロックや
地山ブロック各20%含む 粘性や中密、締り面
粘性や中密、締り面



第18図 8～10号、12号土坑

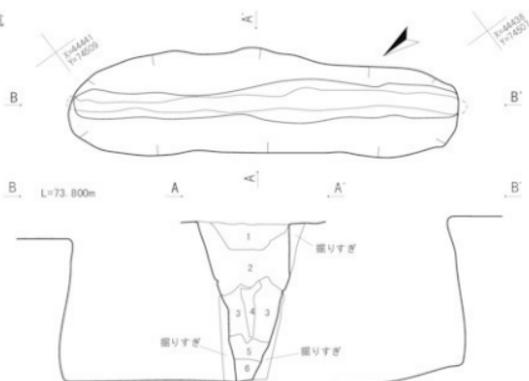
13号土坑



13号土坑 (A-A')

1. 101K3/3 暗褐色シルト 黒褐色シルトブロック30%、堆山ブロック20%含む 粘性・縮りやや有

14号土坑

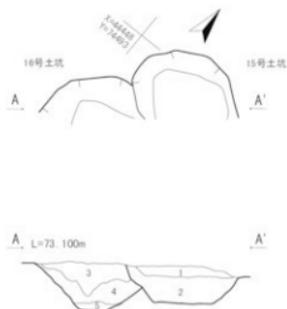


14号土坑 (A-A')

1. 101K2/1 黒色シルト 粘性・しまりやや有
2. 101K3/3 暗褐色シルト 黒褐色シルト30%、黄褐色シルト10%含 粘性・しまりやや有
3. 101K6/8 明黄褐色シルト 砂石含 粘性やや有、縮っている
4. 101K2/1 黒色シルト 粘性・しまりやや有
5. 101K5/6 黄褐色粘土質シルト 粘性やや強、縮り有
6. 101K2/2 黒褐色シルト3層の土を20%含

0 1.40 1m

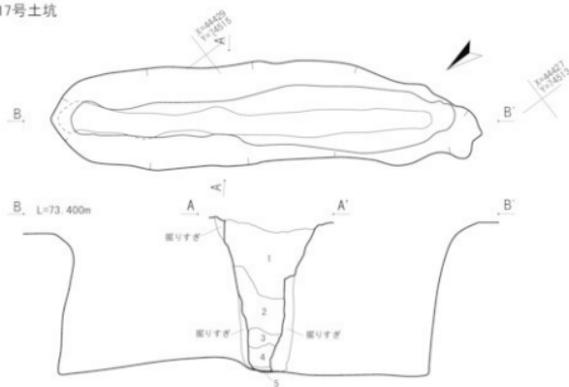
15・16号土坑



15・16号土坑 (A-A')

1. 10YR3/4 暗褐色シルト 黄褐色シルトブロックを30%含 粘性・締りやや有
2. 10YR3/2 黒褐色シルト 黄褐色シルト10~20%含 中に下部に礫・粘粒・しまりやや有
3. 10YR4/3 濃い黄褐色シルト 黄褐色シルト粘10%含 粘性・締りやや有
4. 10YR2/2 黒褐色シルト 黄褐色シルト10~20%含 粘性・締りやや有
5. 10YR5/6 黄褐色シルト 黒褐色土粒を30%含む

17号土坑



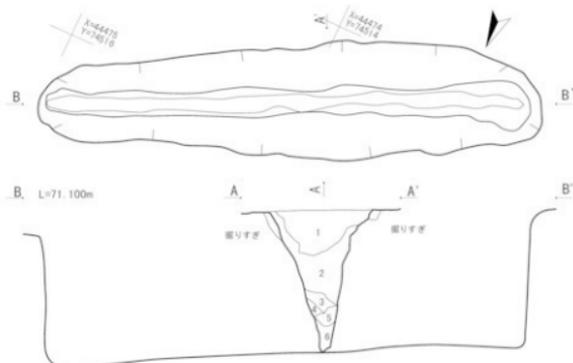
17号土坑 (A-A')

1. 10YR3/2 黒褐色シルト 黄褐色シルト粘を20%、褐色シルトを20%含む 粘性・締りやや有
2. 10YR6/8 明黄褐色シルト 浮石20%含 粘性・締りやや有
3. 10YR3/2 黒褐色シルト 黄褐色シルト30%含む 粘性やや有、締り弱
4. T.5YR6/4 濃い橙褐色 粘性強、締っている
5. 10YR3/2 黒褐色シルト 黄褐色シルト30%含む 粘性やや有、締り弱



第20図 15～17号土坑

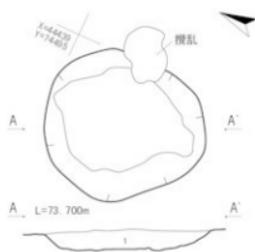
18号土坑



18号土坑 (A-A')

1. 10YR2/1 黒色シルト 黒褐色シルト20%含 粘性・締りやや有
2. 10YR2/2 黒褐色シルト 黄褐色シルト粒10~20%含 粘性・締りやや有
3. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまりやや有
4. 10YR6/6 明黄褐色粘土質シルト 粘性有、締っている
5. 10YR2/2 暗褐色シルト 黄褐色シルト粒20%含 粘性・締りやや有
6. 10YR2/2 黒褐色シルト 黄褐色シルト粒30%含 粘性・締りやや有

19号土坑



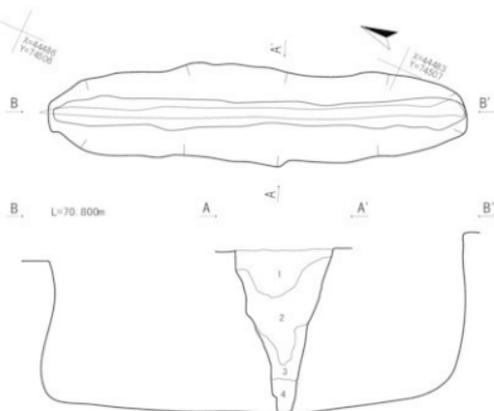
19号土坑 (A-A')

1. 10YR2/2 黒褐色シルト 黄褐色シルト粒(中小) 10~20%含 粘性・締りやや有



第21図 18号・19号土坑

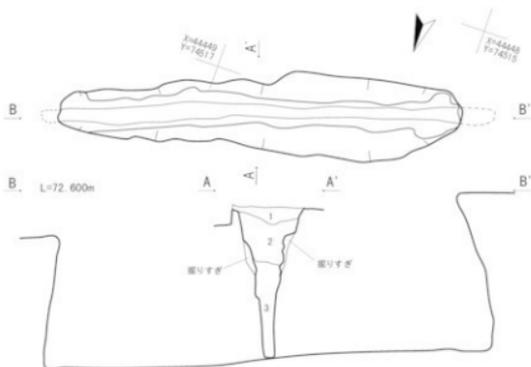
20号土坑



20号土坑 (4×4)

1. 101K2/2 黒褐色シルト 暗褐色シルト10%含 粘性・締りやや有
2. 101K4/4 褐色シルト 明黄褐色シルトブロック(大一小粒)30%含 粘性やや有、締っている
3. 101K6/6 明黄褐色シルト 浮石30%含 粘性やや有、締っている
4. 101K3/3 暗褐色シルト 明黄褐色シルトブロック30%含 粘性・締りやや有

21号土坑

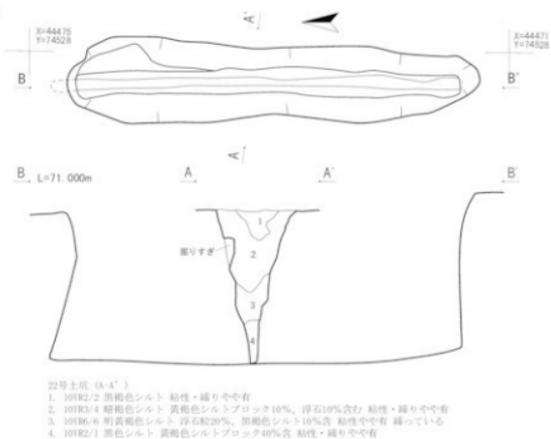


21号土坑 (4×4)

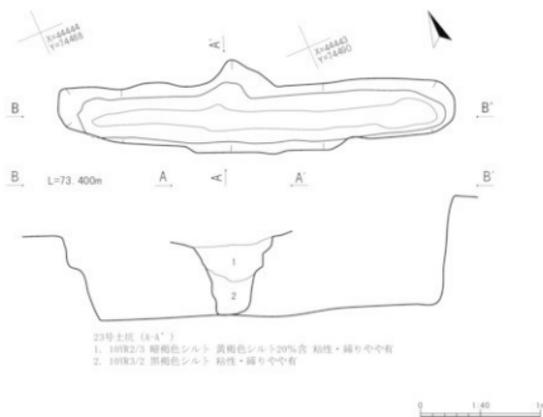
1. 101K2/1 黒色シルト 粘性・締りやや有
2. 101K3/2 黒褐色シルト 黄褐色シルト粒10% 暗褐色シルト20%含 粘性・締りやや有
3. 101K3/2 黒褐色シルト 粘性・締りやや有



22号土坑

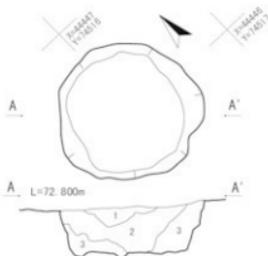


23号土坑



第23図 22・23号土坑

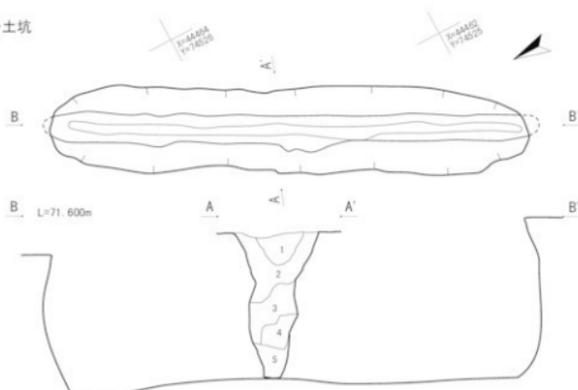
24号土坑



24号土坑 (A-A')

1. 10YR2/1 黒色シルト 粘性・縺りややや
2. 10YR3/3 暗褐色シルト 暗褐色シルト20%含 粘性・しまりやや
3. 10YR4/4 浮石10% 黄褐色シルト5%含 粘性やや、縺っている

25号土坑



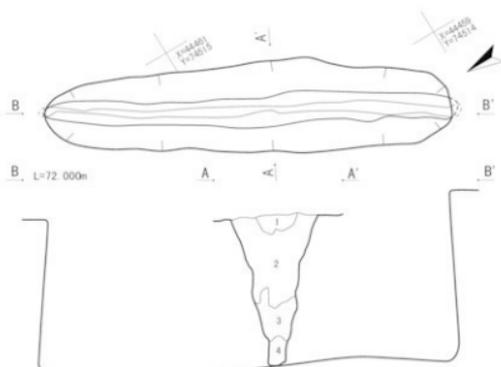
25号土坑 (A-A')

1. 10YR2/1 黒色シルト 粘性・縺りやや
2. 10YR2/2 暗褐色シルト 粘性・縺りやや 粘性やや、縺っている
3. 10YR3/2 暗褐色シルト 地山ブロック20%含 粘性やや、縺っている
4. 10YR2/2 暗褐色シルト 粘性・縺りやや 粘性やや、縺っている
5. 10YR3/2 暗褐色シルト 地山ブロック30%含 粘性やや、縺っている



第24図 24号・25号土坑

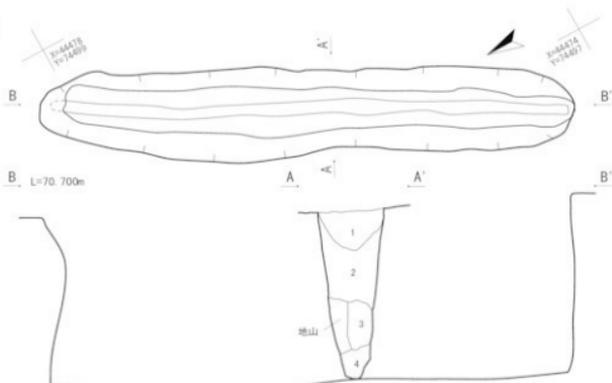
26号土坑



26号土坑 (A-A')

1. 10TR2/1 黒色シルト 粘性・締りやや有
2. 10TR3/4 暗褐色シルト 地山ブロック7%含 粘性・締りやや有
3. 10TR6/6 明黄褐色シルト 浮石30%含 粘性やや有、締っている
4. 10TR6/8 明黄褐色シルト 黒褐色シルト30%含 粘性・締り弱

27号土坑



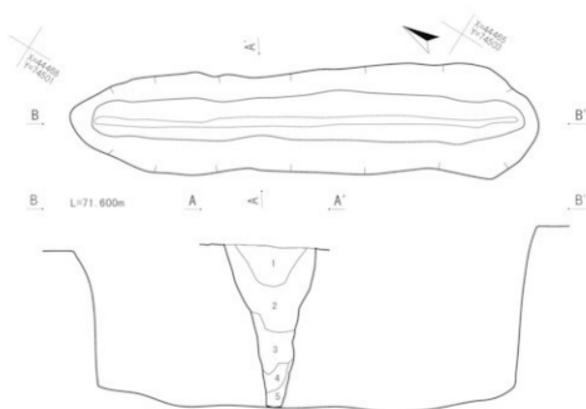
27号土坑 (A-A')

1. 10TR3/2 黒褐色シルト 粘性・締りやや有
2. 10TR4/4 褐色シルト 黄褐色シルト小一甲粒を20%含 粘性・締りやや有
3. 10TR3/3 暗褐色シルト 黄褐色シルトブロック40-50%含 粘性やや有、締っている
4. 10TR6/8 明黄褐色粘土質シルト 暗褐色シルト3%含む 粘性やや有、締っている

0 1:40 1m

第25図 26号・27号土坑

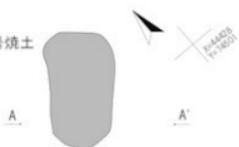
28号土坑



28号土坑 (A-A')

1. 10YR2/1 黒色シルト 粘性・締りやや有
2. 10YR3/4 暗褐色シルト 褐色シルト30% 浮石粒10%含 粘性やや有、締っている
3. 10YR3/4 暗褐色シルト 褐色シルト50% 粘性やや有、締っている
4. 10YR7/8 黄褐色浮石 粘性弱、締りやや有
5. 10YR6/8 明黄褐色粘土質シルト 黒褐色シルト3%含 粘性・締りやや有

1号焼土



2号焼土



3号焼土



1号焼土 (A-A')

1. 5YR5/6 明赤褐色焼土 粘性弱、締りやや有 褐色シルト30%含
2. 10YR3/4 暗褐色シルト 黒褐色シルト20%含 粘性・締りやや有



2号焼土 (A-A')

1. 2. 5YR6/8 暗褐色焼土 粘性弱、締っている



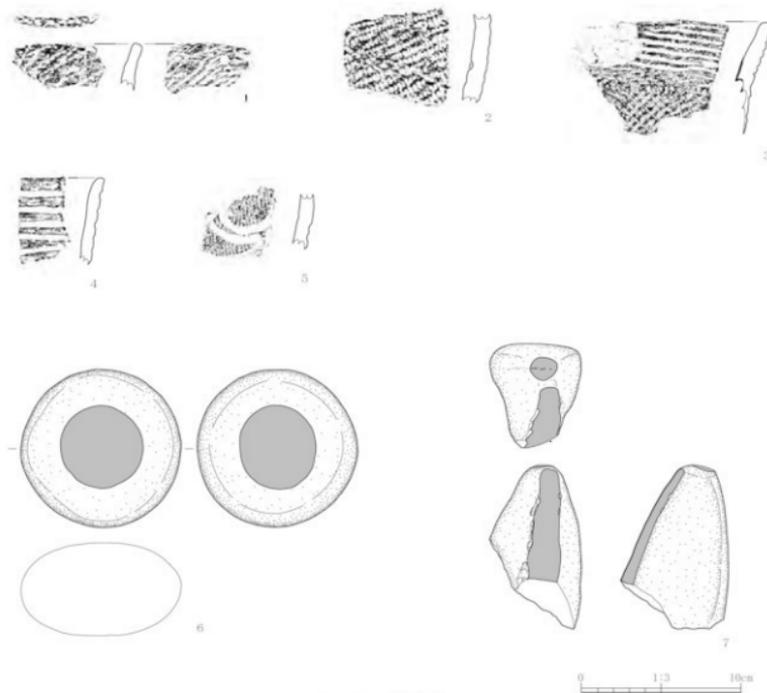
第26図 28号土坑、1～3号焼土

第4表 縄文土器観察表（平成27年度）

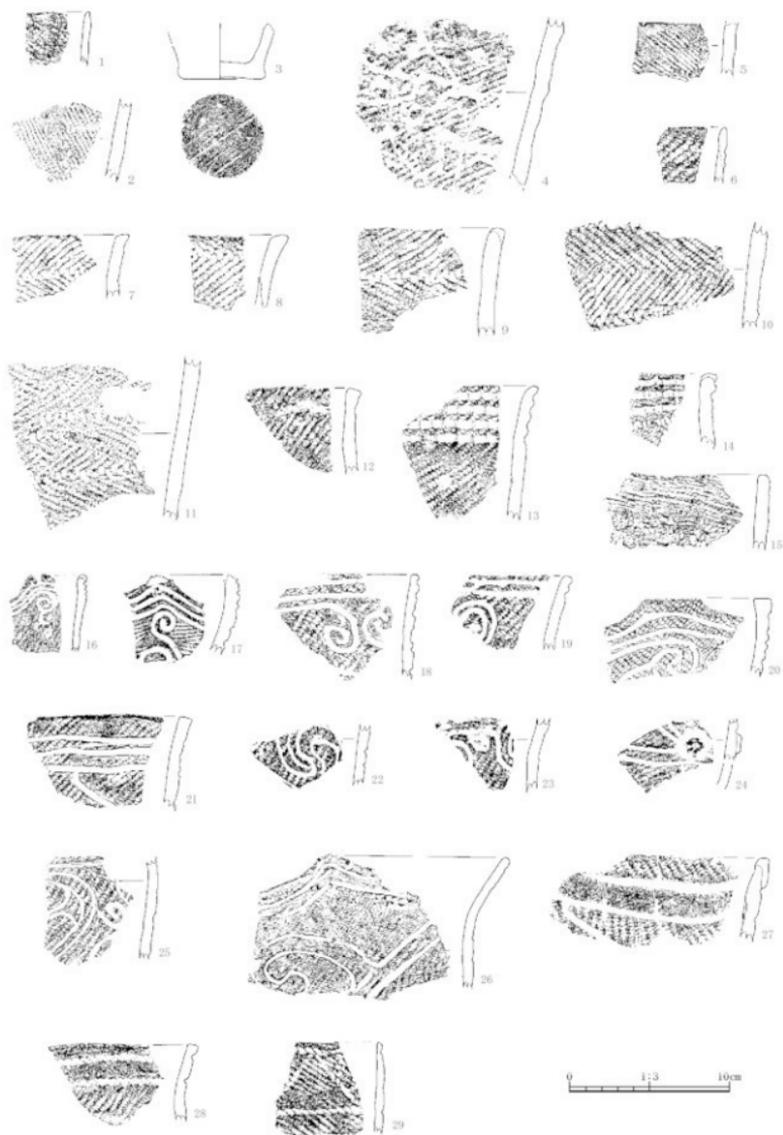
図録番号	出土位置	出土層位	器種	部位	型式(時期)	分類	外面文様	内面文様	外面色調 内面色調	焼成	備考
1	3号土坑	検出面	深鉢	口縁部	根井沼・李の沢式	縄文時代早期中葉	口縁部：貝殻散粒文(D字) 口縁部：貝殻散粒文(D字)	貝殻による ミヤキ	明褐色 明褐色	不良	
2	4号土坑	掘上F位	深鉢	胴部	円筒F層d2式	縄文時代前期後葉	結実縄文(L,R)	ナデ・織線多	茶褐色 茶褐色	不良	
3	1A9b	Ⅲ層	深鉢	口縁部	円筒F層d2式	縄文時代前期後葉	口縁：L,R 胴：L,R?	ナデ・織線多	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	不良	
4	1A13c	Ⅲ層	深鉢	口縁部	円筒F層d2式	縄文時代前期後葉	平行沈線	ナデ・織線	灰青褐色 にぶい黄褐色	不良	
5	1A6c	検出面	深鉢?	胴部	十間内1式?	縄文時代後期	沈線による区画文+京シ?	ナデ	にぶい黄褐色 明褐色	やや 不良	

第5表 石器観察表（平成27年度）

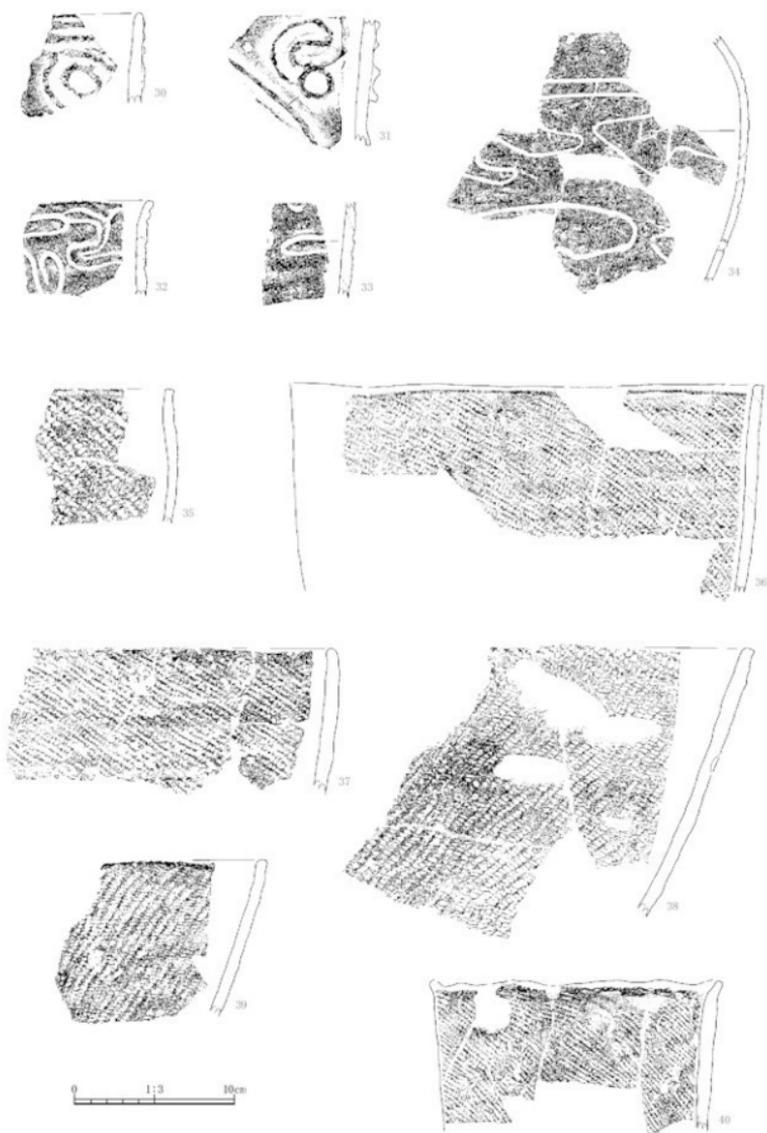
図録番号	種別	種別	出土位置	出土層位	残存部位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石材	備考
6	凝磐部粗	磨石	1A4c	検出面	定形	10	10	49	838.3	花崗閃緑岩	
7	凝磐部粗	磨石	1A5i	検出面	2-3欠損	103.5	57	67	387.1	花崗閃緑岩	



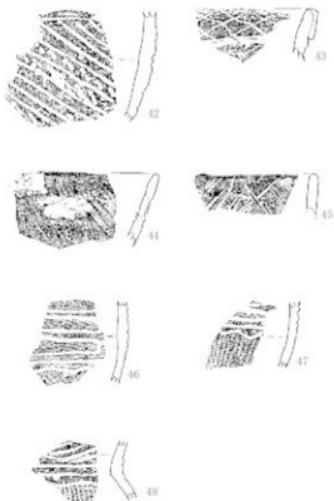
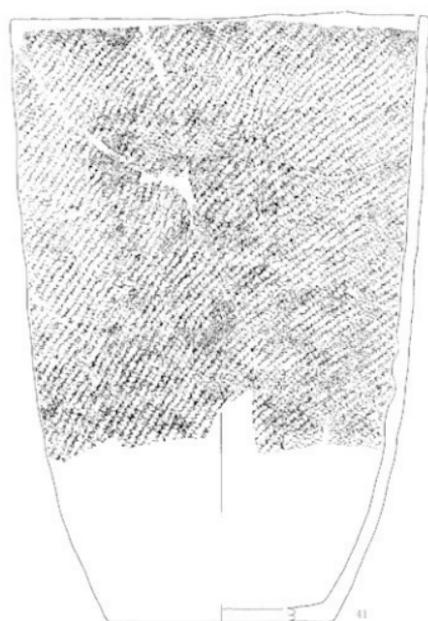
第27図 出土遺物1



第28図 出土遺物 2



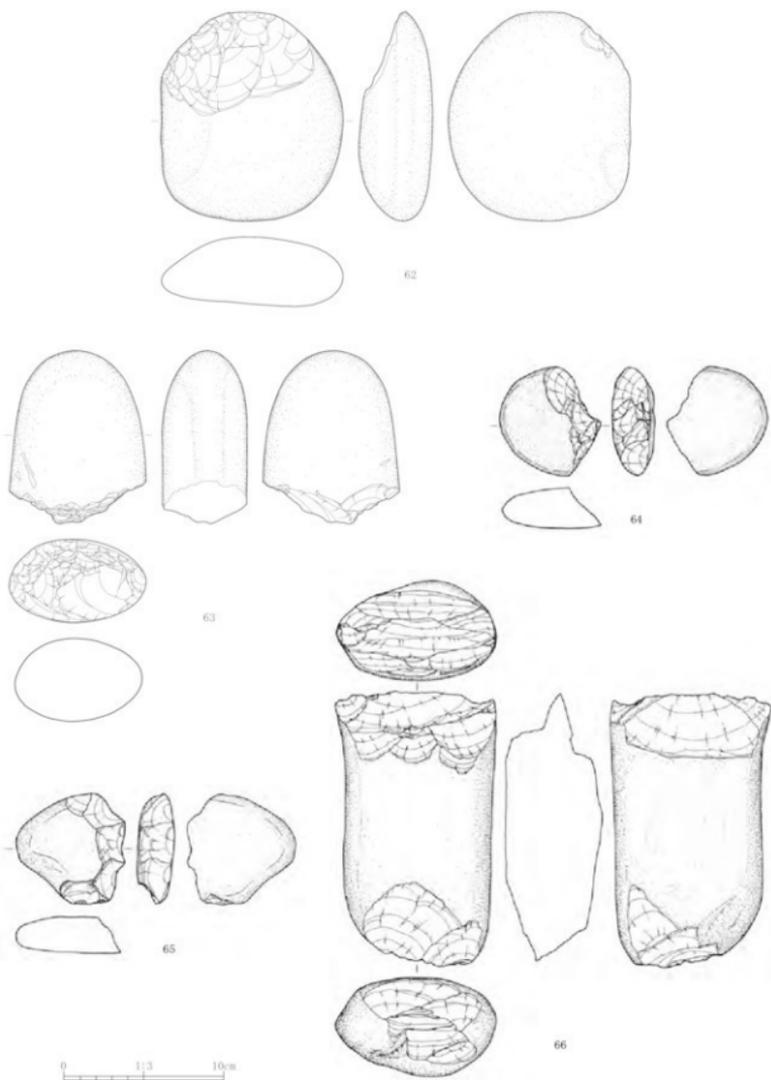
第29図 出土遺物3



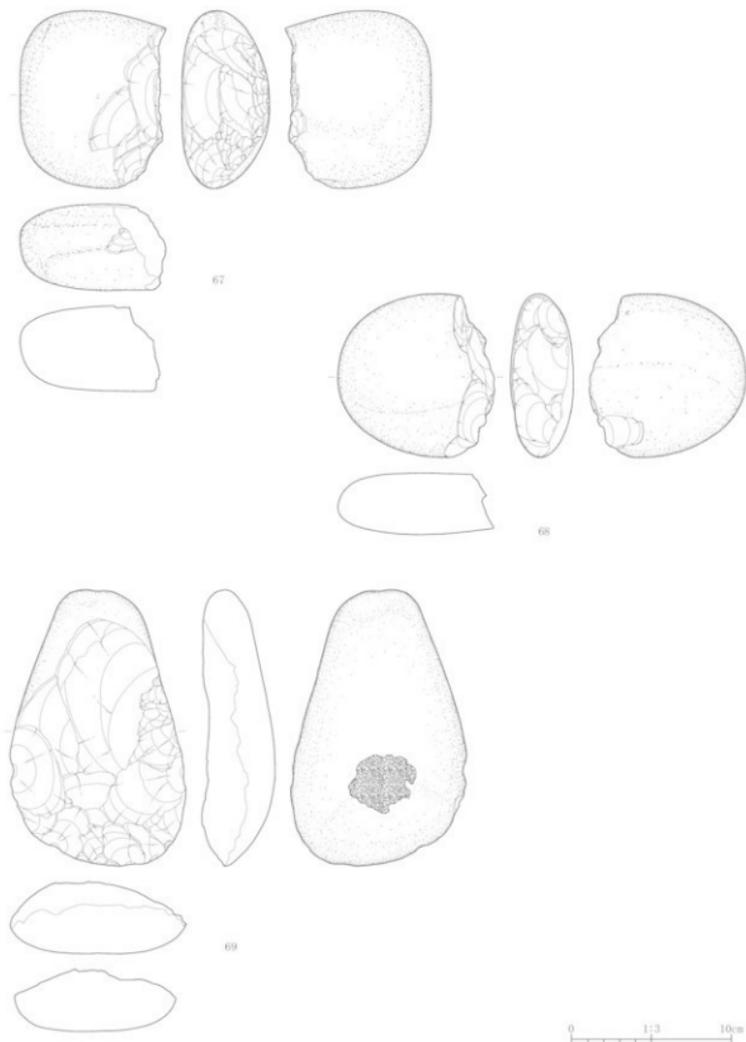
第30図 出土遺物 4



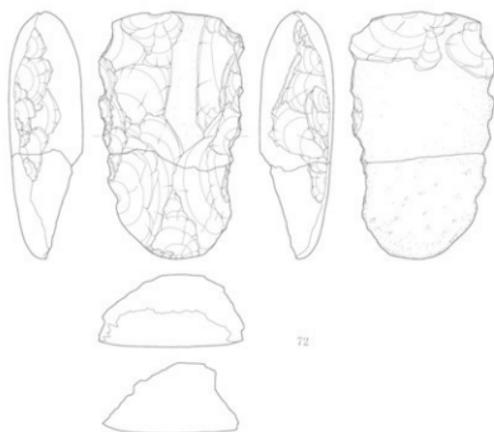
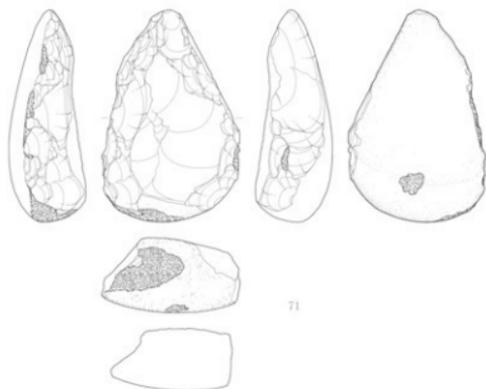
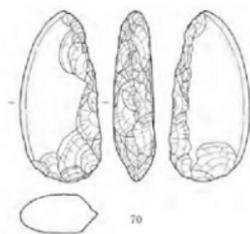
0 1:3 10cm



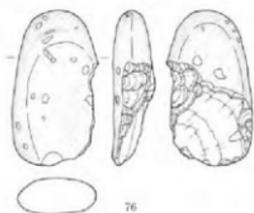
第32図 出土遺物6



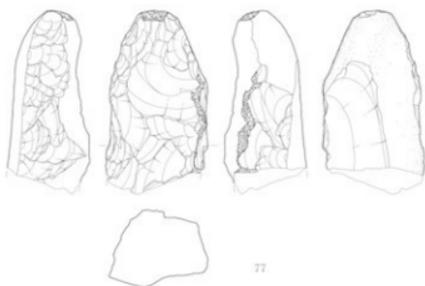
第33図 出土遺物7



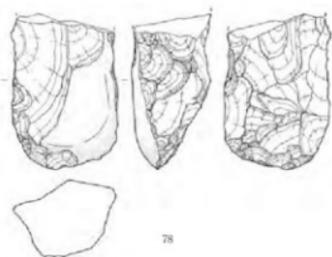
第34図 出土遺物8



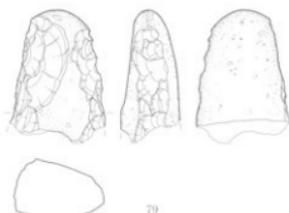
76



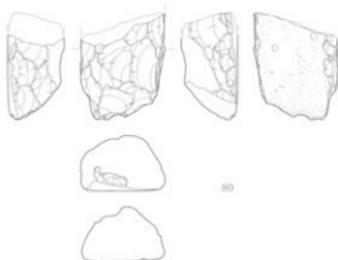
77



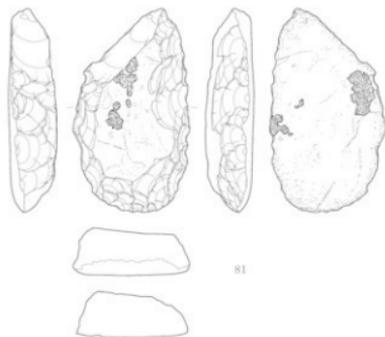
78



79

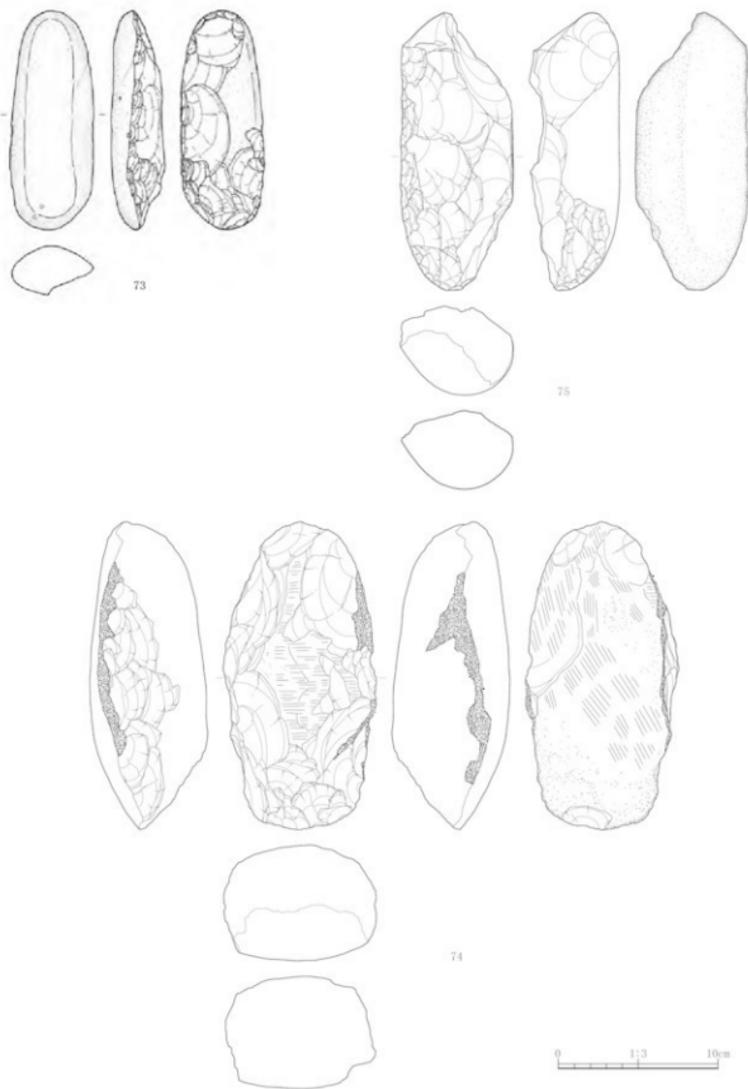


80

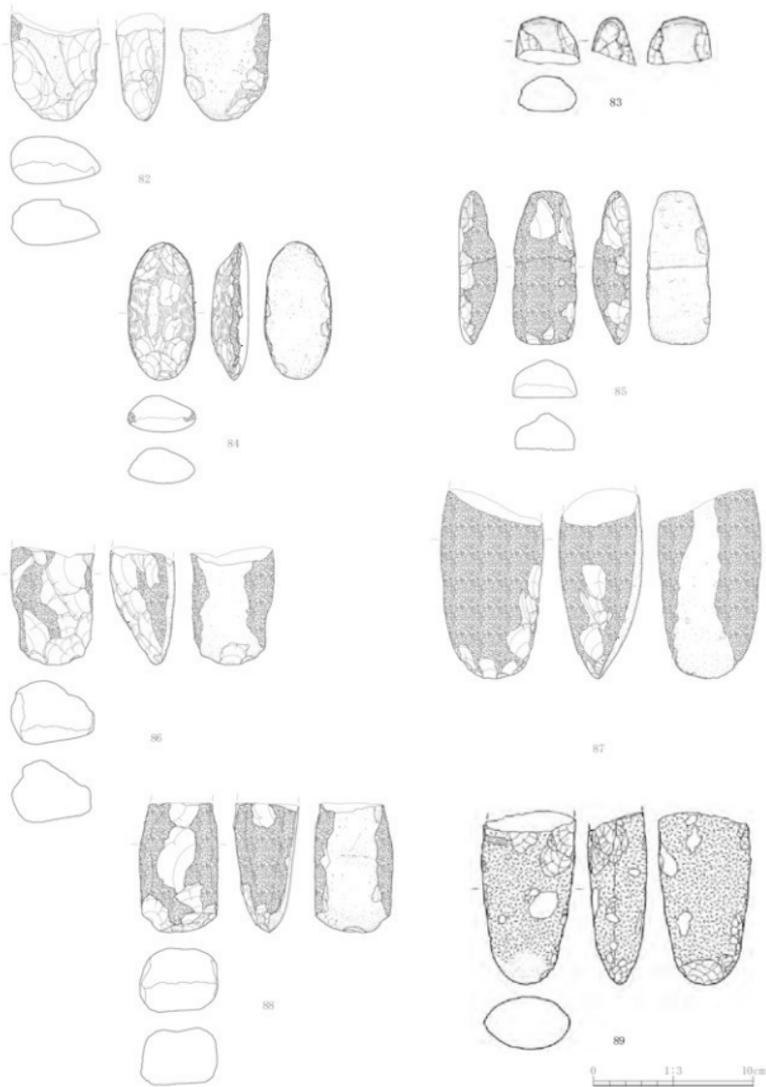


81

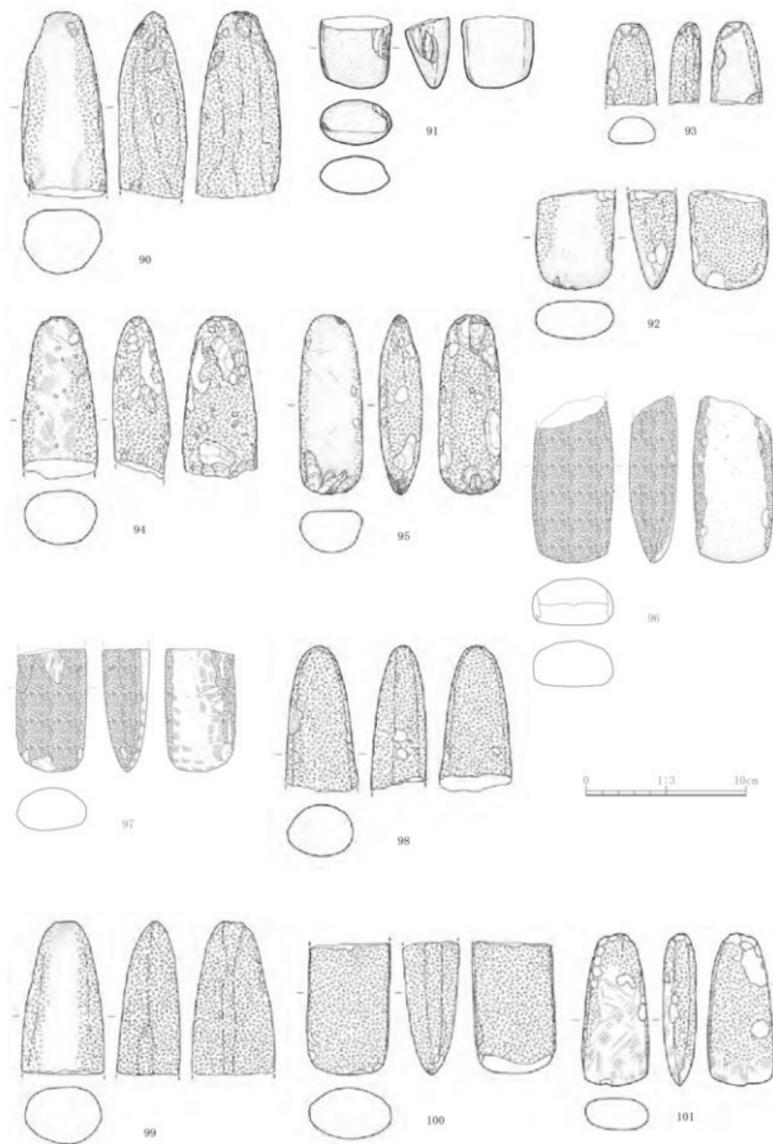




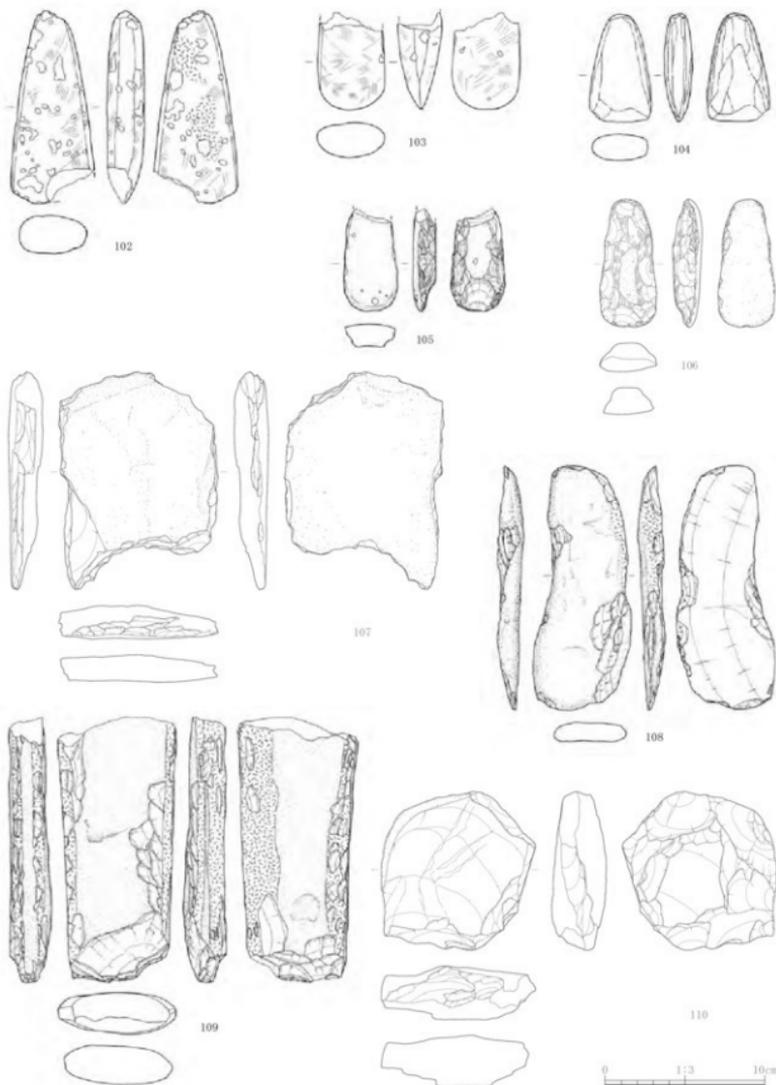
第36図 出土遺物10



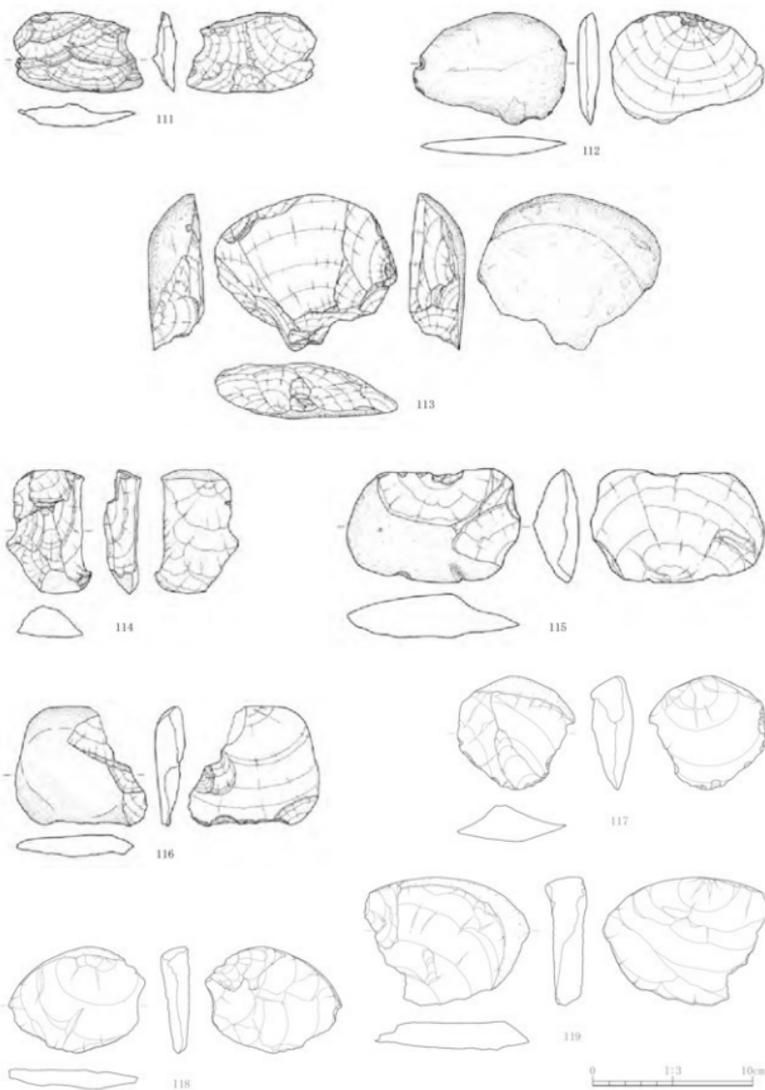
第37図 出土遺物11



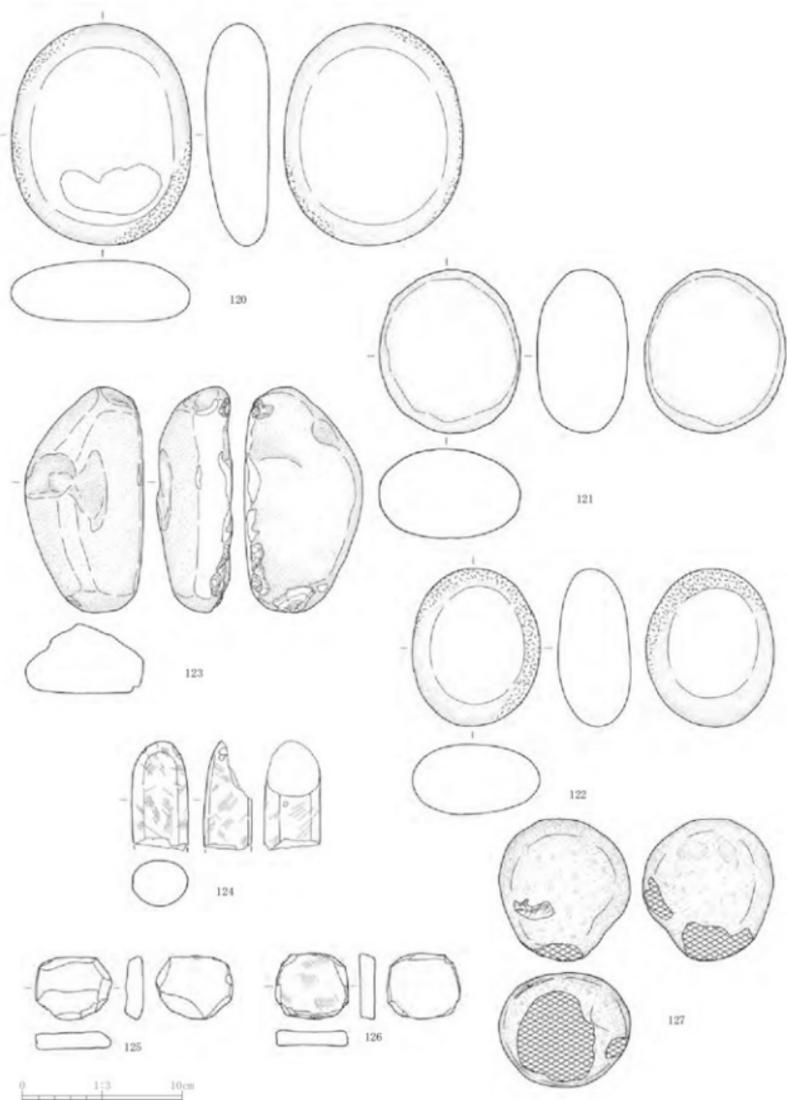
第38図 出土遺物12



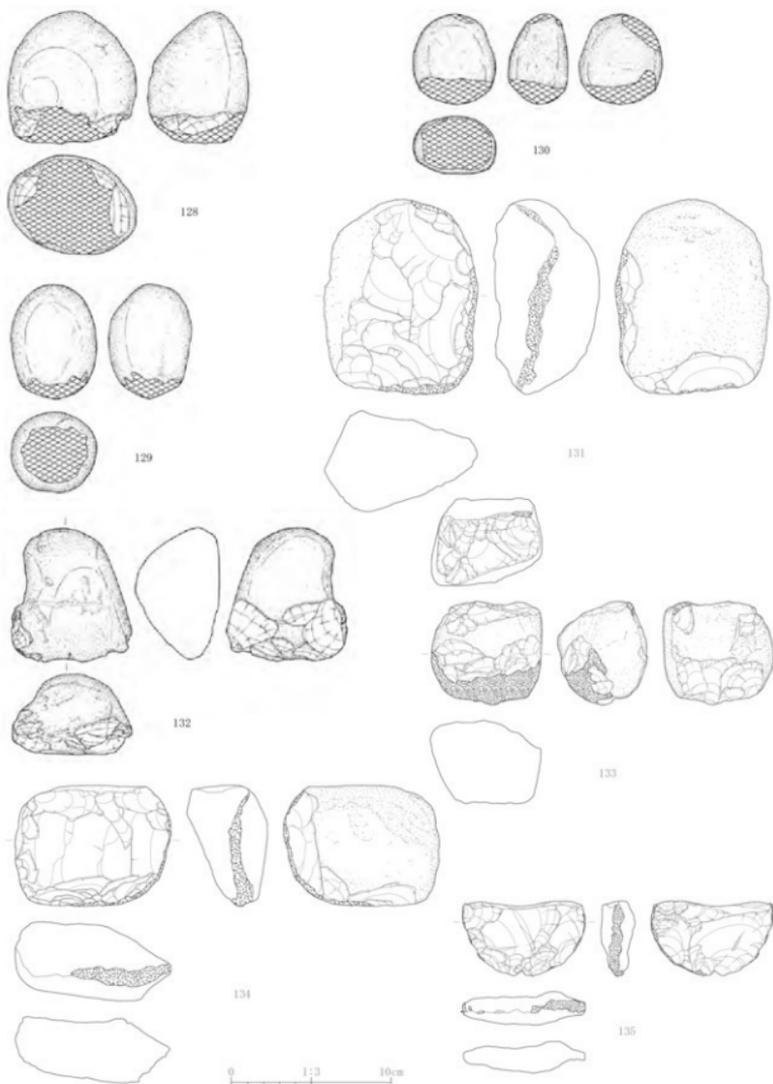
第39図 出土遺物13



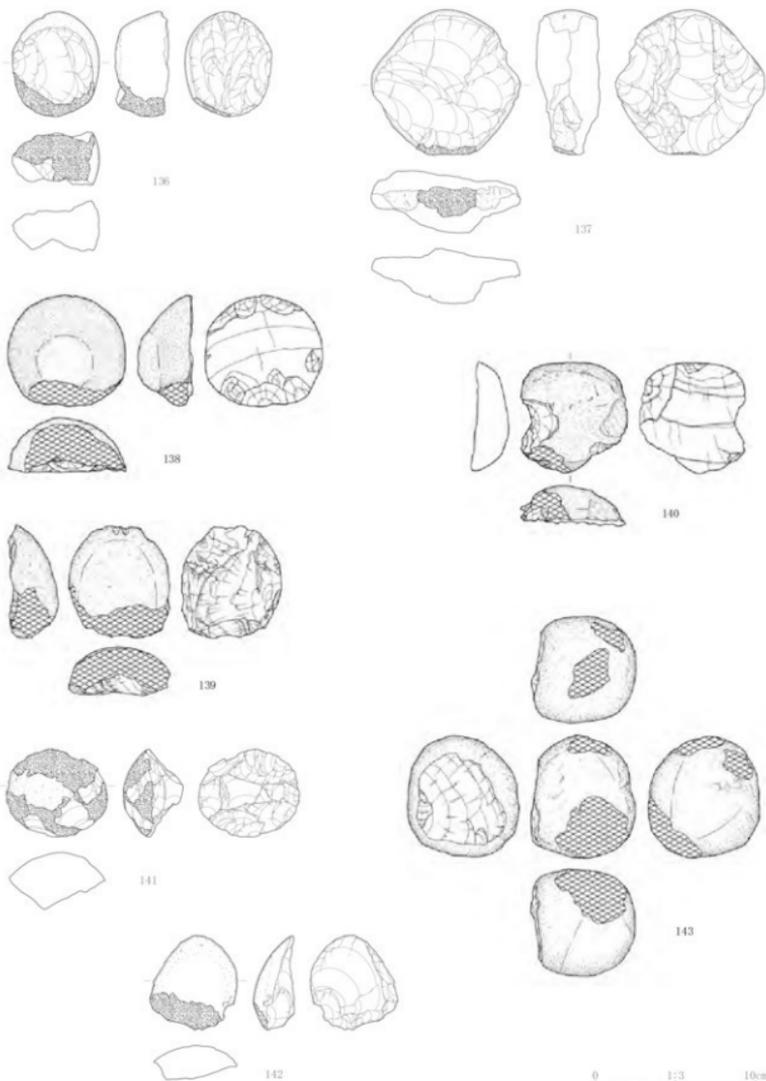
第40図 出土遺物14



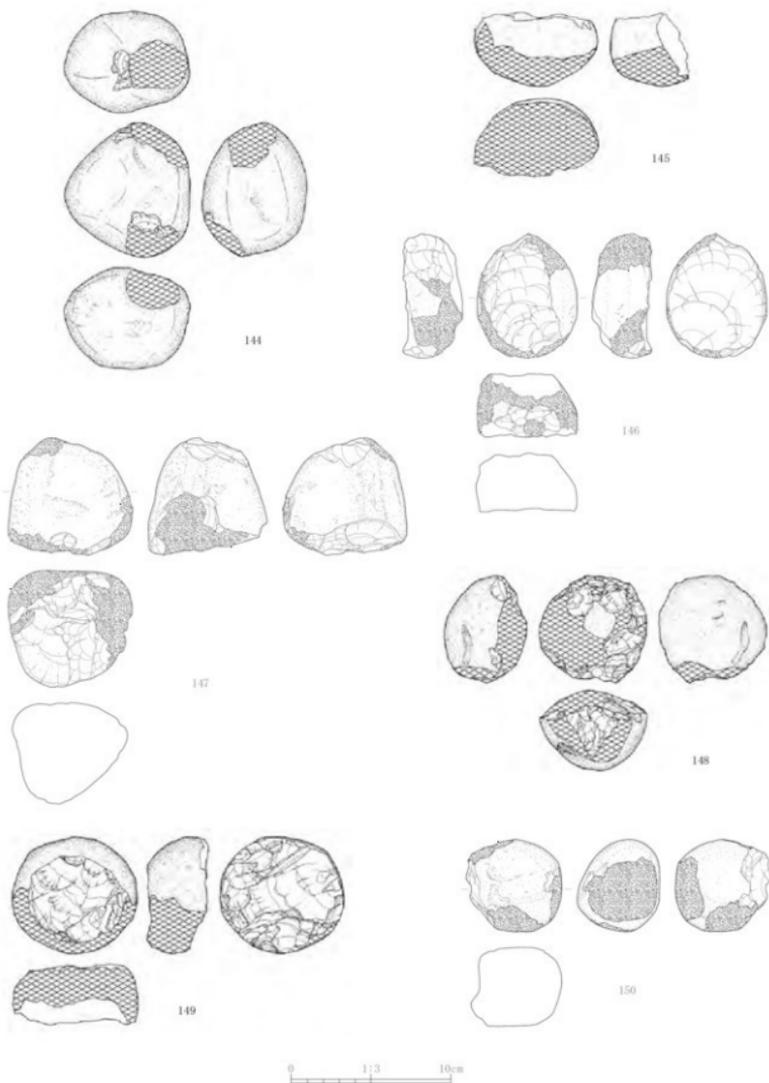
第41図 出土遺物15



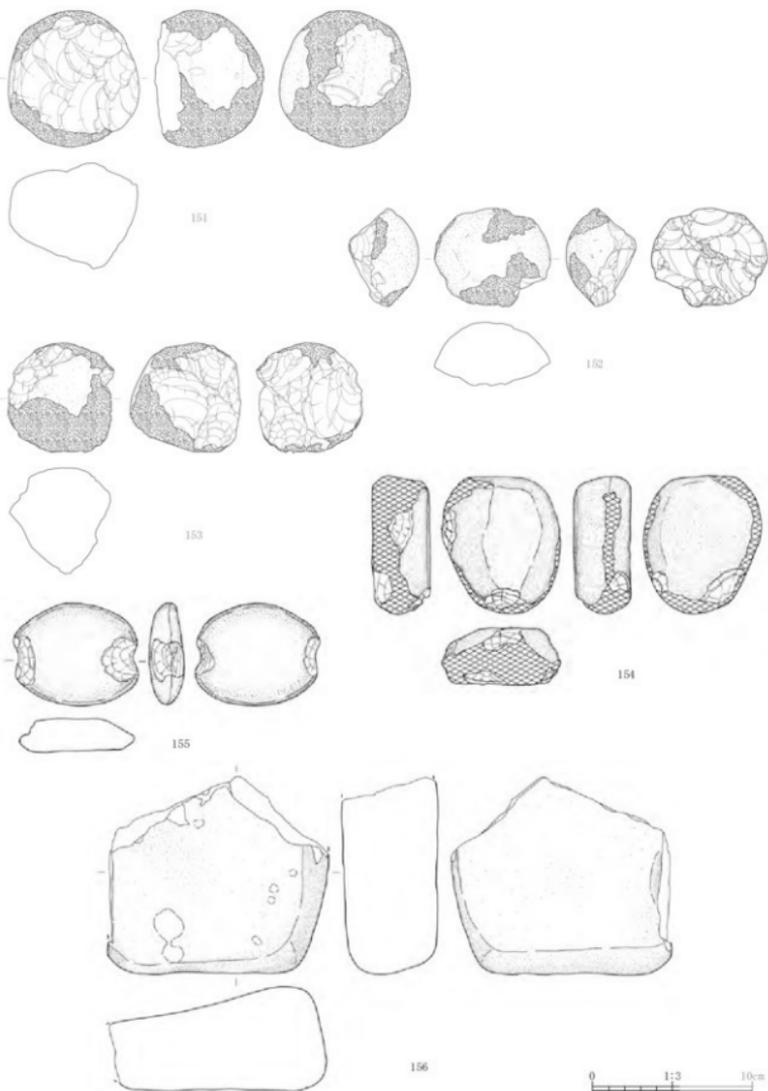
第42図 出土遺物16



第43図 出土遺物17



第44図 出土遺物18



第45図 出土遺物19

第6表 縄文土器観察表（平成28年度）

掲載 番号	出土地点・層位	器種	残存部位	文様・装飾・原体・付着物など	胎土	その他
1	1号壑穴住居 埋土	浅鉢	口縁部	原体不明		
2	1号壑穴住居 埋土	深鉢	胴部	L R		
3	1号壑穴住居 埋土	小形	口縁部	無文		
4	12号土坑 埋土	深鉢	胴部	L Rか	繊維	
5	19号土坑 埋土	深鉢	胴部	無胎か	繊維	
6	27号土坑 埋土	浅鉢	口縁部	R L	繊維	
7	調査区中央の中央 1～3層	深鉢	口縁部	結束引状縄文L R	繊維	
8	調査区東の中央 1～3層	深鉢	口縁部	引状縄文, L R		
9	調査区中央の東側 1～3層	深鉢	口縁部	結束引状縄文L R		
10	調査区東 1～3層	深鉢	胴部	結束引状縄文L R	繊維	
11	調査区中央の東側 1～3層	深鉢	胴部	結束引状縄文L R	繊維	
12	調査区中央の南側 1～3層	深鉢	口縁部	R L		
13	調査区東の北側 1～3層	深鉢	口縁部	口縁部に押引文4条, L R		
14	調査区東 1～3層	深鉢	口縁部	口縁部に押引文3条, L Rか		
15	調査区東の南側 1～3層	深鉢	口縁部	口縁部に不整然赤文、地文不明		
16	調査区西の北側 1～3層	深鉢	口縁部	口縁部に3本の平行沈線文、その下に渦巻文、R Lか		
17	調査区中央の北側 1～3層	深鉢	口縁部	口縁部に3本の平行沈線文、その下に渦巻文を縦に配置、 R Lか		
18	調査区西の北側 1～3層	深鉢	口縁部	沈線による渦巻文と平行文、R L		
19	調査区中央の北側 1～3層	深鉢	口縁部	沈線による平行・渦巻文、R L		
20	調査区東の中央 1～3層	深鉢	口縁部	口縁部小山形突起、沈線による平行・曲線文、L R		
21	調査区東の北側 1～3層	深鉢	口縁部	口縁部に3本の平行沈線文、R L		
22	調査区西の北側 1～3層	深鉢	胴部	二本一単位の沈線による渦巻文、R Lか		
23	調査区中央の北側 1～3層	深鉢	胴部	沈線による曲線的な文様 R Lか		
24	調査区中央の中央 1～3層	深鉢	胴部	胎層から沈線を展開 R L		
25	調査区西の北側 1～3層	深鉢	胴部	沈線による円弧渦状の文様、R L		
26	調査区東の北側 1～3層	深鉢	口縁部	二本一単位の沈線による曲線文、R L		
27	調査区中央の北側 1～3層	深鉢	口縁部	沈線で区画した中を解消、R L		
28	調査区東の中央 1～3層	深鉢	口縁部	口縁部に原体残痕、胴部R L		
29	調査区中央の南側 1～3層	浅鉢か	口縁部	口縁部に原体残痕を横・斜めに、R L		
30	調査区中央の北側 1～3層	深鉢	口縁部	無文地に隆帯で円弧文		
31	調査区中央の北側 1～3層	深鉢	胴部	無文地に隆帯で円弧文		
32	調査区東の中央 1～3層	深鉢	胴部	沈線による直線的な文様		
33	調査区中央の南側 1～3層	深鉢	胴部	沈線による長円形文		
34	調査区西の南側 1～3層	深鉢	胴部	沈線による曲線文		内外面に小羽 彫痕多
35	調査区西の北側 1～3層	深鉢	口縁部	地文のみL R		
36	調査区西の南側 1～3層	深鉢	口・胴	R L		内外面に小羽 彫痕多

掲載番号	出土地点・層位	器種	残存部位	文様・装飾・形体・付着物など	胎土	その他
37	調査区西の北側 1～3層	深鉢	口縁部	地文のみR		内外面に小網 蓋痕多
38	調査区東の南側 1～3層	深鉢	口ノ側	羽状縄文R.L		内外面に小網 蓋痕多
39	調査区東の北側 1～3層	深鉢	口縁部	R.L		内外面に小網 蓋痕多
40	調査区中央の東側 1～3層	鉢	口縁部	小波状口縁、R.L		
41	土器集中区	深鉢	口ノ側	R.L		
42	調査区東 1～3層	深鉢	胴部	斜位に複数の沈線、その隙間に斜交列を二列に入れる		
43	調査区東の南側 1～3層	深鉢	口縁部	網目状断糸文		
44	調査区西 1～3層	鉢	口縁部	条痕文		
45	調査区東の中央 1～3層	深鉢	口縁部	細かい沈線		
46	調査区中央の北側 1～3層	深鉢	胴部	沈線による横位の長円文、縦歯状文		
47	調査区中央の北側 1～3層	深鉢	胴部	縦歯状文等の沈線文、断糸文か		
48	調査区中央の北側 1～3層	深鉢	胴部	縦歯状文等の沈線文、断糸文か		

第7表 石器類観察表（平成28年度）

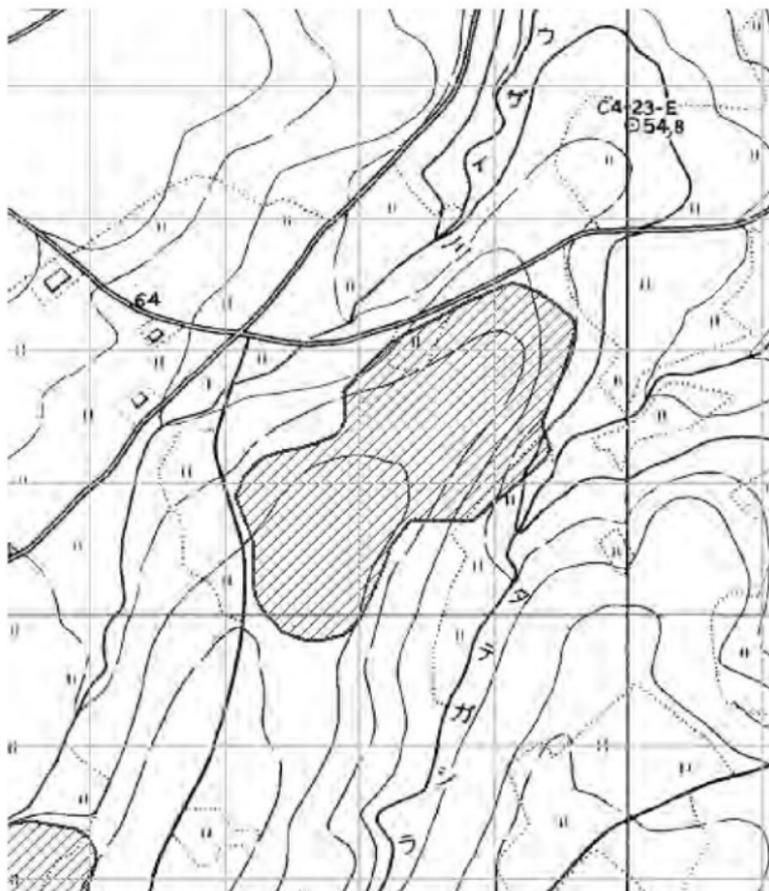
掲載番号	出土地点・層位	器種	計測値 (cm, g)				分類	石材	その他
			長さ	幅	厚さ	重量			
49	調査区西側の北部 1～3層	石鍬	23	13	0.4	127	ⅠA 1	頁岩中生代北上山地	
50	1号整穴住居 埋土	石鍬	24	09	0.4	081	ⅠA 1	頁岩中生代北上山地	
51	調査区東側の中央 1～3層	石鍬	27	09	0.4	100100	ⅠA 1	頁岩中生代北上山地	
52	調査区西側の中央 1～3層	石鍬	19	15	0.3	073	ⅠA 1	メノウ中生代北上山地	
53	調査区中央の東部 重層	石鍬	53	16	0.5	454	ⅠA 2	頁岩中生代北上山地	
54	調査区北側 1～3層	石靴	42	25	0.4	423	ⅠB 1	頁岩中生代北上山地	
55	調査区東側の南部 1～3層	石靴	31	44	0.7	835	ⅠB 2	頁岩中生代北上山地	
56	調査区東側の中央部 1～3層	石器	22	29	0.8	374	ⅠC 2	チャート中生代北上山地	
57	調査区中央の北部 1～3層	石器	41	47	1.6	2804	ⅠC 2	頁岩中生代北上山地	
58	調査区東側の中央 1～3層	石器	55	49	1.3	2875	ⅠC 2	チャート中生代北上山地	
59	調査区東側の中央 1～3層	石器	46	40	0.9	1822	ⅠC 2	頁岩中生代北上山地	
60	調査区西側の北部 1～3層	石斧	10.3	7.2	3.5	375.40	ⅢA 1	デイサイト中生代白亜紀北上山地	未完成品
61	調査区中央の北部 1～3層	石斧	10.2	7.8	3.2	353.60	ⅢA 1	砂岩中生代北上山地	未完成品
62	調査区東側の南部 1～3層	石斧	13.3	11.3	4.5	995.10	ⅢA 1	細粒花崗閃緑岩中生代白亜紀北上山地	未完成品
63	調査区西側の南部 1～3層	石斧	10.9	8.4	5.2	763.54	ⅢA 1	砂岩中生代北上山地	未完成品
64	調査区西側の南部 1～3層	石斧	6.8	6.2	2.6	122.91	ⅢA 1	ホルンフェルス中生代（變成は中生代白亜紀）北上山地	未完成品
65	調査区東側の中央 1～3層	石斧	7.0	6.7	2.3	131.60	ⅢA 1	ホルンフェルス中生代（變成は中生代白亜紀）北上山地	未完成品
66	調査区中央の中央部 1～3層	石斧	17.3	10.0	6.3	1578.30	ⅢA 1	ホルンフェルス中生代（變成は中生代白亜紀）北上山地	未完成品

調査番号	出土地点・層位	器種	計測値 (cm, g)				分類	石材	その他
			長さ	幅	厚さ	重量			
67	調査区東側の北部 1～5層	石芥	11.2	8.7	5.4	912.01	ⅡA 1	砂岩中生代北上山地	未完成品
68	調査区中央の北部 1～5層	礎器	10.3	9.7	3.9	599.51	ⅡA 1	砂岩中生代北上山地	未完成品
69	調査区東側の中央 1～5層	石芥	17.4	10.8	4.2	1054.13	ⅡA 1	ヒン岩中生代白帯紀北上山地	観音も
70	調査区東側の中央 1～5層	石芥	10.8	5.1	2.5	180.43	ⅡA 1 a	砂岩中生代北上山地	未完成品
71	調査区中央の中央 1～5層	石芥	13.4	8.5	4.5	675.80	ⅡA 1 b	細粒花崗閃緑岩中生代白帯紀北上山地	未完成品
72	調査区西側の北部 1～5層	石芥	15.7	8.8	4.5	798.96	ⅡA 1	ヒン岩中生代白帯紀北上山地	未完成品
73	調査区中央の北部 1～5層	石芥	13.9	5.2	3.1	327.27	ⅡA 1	砂岩中生代北上山地	未完成品
74	調査区中央の町道	石芥	19.5	9.3	7.2	1849.00	ⅡA 1 a	砂岩中生代北上山地	未完成品
75	調査区中央の東部 1～5層	石芥	17.6	7.0	5.6	842.56	ⅡA 1 a	ヒン岩中生代白帯紀北上山地	未完成品
76	調査区東側の南部 1～5層	石芥	9.9	5.3	2.3	170.20	ⅡA 1	砂岩中生代北上山地	未完成品
77	土器集中	石芥	11.4	6.2	5.1	687.60	ⅡA 1 b	花崗閃緑岩中生代白帯紀北上山地	未完成品
78	調査区西側の北部 1～5層	石芥	9.9	6.7	4.6	407.84	ⅡA 2 d	花崗閃緑岩中生代白帯紀北上山地	未完成品
79	調査区西側の北部 1～5層	石芥	8.1	5.9	3.6	216.70	ⅡA 2 d	ヒン岩中生代白帯紀北上山地	未完成品
80	調査区中央の北部 1～5層	石芥	6.0	5.2	3.5	162.63	ⅡA 2 c	砂岩中生代北上山地	未完成品
81	調査区中央の中央部 1～5層	石芥	12.7	7.2	2.9	389.20	ⅡA 2 d	細粒花崗閃緑岩中生代白帯紀北上山地	未完成品
82	調査区西側の北部 1～5層	石芥	5.8	5.5	3.0	139.44	ⅡA 2 c	砂岩中生代北上山地	未完成品
83	調査区中央の北部 1～5層	石芥	3.1	3.9	2.7	41.20	ⅡA 2 c	頁岩中生代北上山地	未完成品
84	調査区西側の北部 1～5層	石芥	8.7	4.1	2.2	103.13	ⅡA 3 a	砂岩中生代北上山地	未完成品
85	調査区西側の北部 1～5層	石芥	9.7	3.9	2.3	137.55	ⅡA 2 a	ヒン岩中生代白帯紀北上山地	未完成品
86	調査区西側の北部 1～5層	石芥	7.2	5.1	4.0	197.10	ⅡA 3 d	細粒花崗閃緑岩中生代白帯紀北上山地	未完成品
87	調査区中央の中央部 1～5層	石芥	11.5	6.3	5.1	559.02	ⅡA 3	細粒花崗閃緑岩中生代白帯紀北上山地	未完成品
88	調査区東側の南部 1～5層	石芥	8.2	4.8	3.9	259.45	ⅡA 3 d	ヒン岩中生代白帯紀北上山地	未完成品
89	調査区中央の中央部 1～5層	石芥	10.9	5.8	3.3	328.85	ⅡA 3 d	デイサイト中生代白帯紀北上山地	未完成品
90	調査区中央の中央部 1～5層	石芥	11.8	5.3	4.1	396.75	ⅡA 3 b	砂岩中生代北上山地	未完成品
91	調査区西側の北部 1～5層	石芥	4.6	4.4	2.8	78.97	ⅡA 4 d	細粒花崗閃緑岩中生代白帯紀北上山地	未完成品
92	調査区東側の南部 1～5層	石芥	7.3	4.8	2.8	130.97	ⅡA 4 d	砂岩中生代北上山地	未完成品
93	調査区東側の南部 1～5層	石芥	5.3	3.2	1.8	50.43	ⅡA 4 b	砂岩中生代北上山地	未完成品
94	調査区中央の南部 1～5層	石芥	10.3	4.6	3.4	257.09	ⅡA 4 b	花崗閃緑岩中生代白帯紀北上山地	未完成品
95	調査区中央の北部 1～5層	石芥	11.4	3.4	2.6	189.17	ⅡA 4 a	細粒花崗閃緑岩中生代白帯紀北上山地	未完成品

調査番号	出土地点・層位	器種	計測値 (cm, g)				分類	石材	その他
			長さ	幅	厚さ	重量			
96	調査区西側の北部 1～5層	石芥	10.3	5.0	2.9	266.33	ⅡA 4 d	花崗斑岩中生代白亜紀北上山地	未成品
97	調査区西側の北部 1～5層	石芥	7.8	4.3	2.9	164.83	ⅡA 4 d	細粒花崗閃緑岩中生代白亜紀北上山地	未成品
98	調査区西側の北部 1～5層	石芥	9.3	4.5	3.4	197.07	ⅡA 5	細粒花崗閃緑岩中生代白亜紀北上山地	未成品
99	調査区西側の北部 1～5層	石芥	9.8	5.1	3.7	273.60	ⅡA 6 b	花崗斑岩中生代白亜紀北上山地	未成品
100	調査区東側の南部 1～5層	石芥	8.4	5.2	3.5	244.08	ⅡA 6 d	砂岩中生代北上山地	
101	調査区中央の北部 1～5層	石芥	9.7	4.1	2.0	131.68	ⅡA 5 a	花崗斑岩中生代白亜紀北上山地	未成品
102	調査区中央の北部 1～5層	石芥	10.2	5.2	2.4	219.95	ⅡA 5 b	砂岩中生代北上山地	未成品
103	調査区東側の南部 1～5層	石芥	6.2	4.2	2.7	88.65	ⅡA 6～ 7 d	砂岩中生代北上山地	
104	調査区東側の中央 1～5層	石芥	6.9	3.8	1.7	65.96	ⅡB 6 a	砂岩中生代北上山地	
105	調査区東側の南部 1～5層	石芥	6.6	3.3	1.4	46.90	ⅡB 2 d	細粒花崗閃緑岩中生代白亜紀北上山地	未成品
106	調査区東側の中央 1～5層	石芥	8.1	3.5	1.7	58.83	ⅡB 2 a	細粒花崗閃緑岩中生代白亜紀北上山地	未成品
107	調査区中央の南部 1～5層	打製 石器	12.7	9.8	2.1	361.13	I E	頁岩中生代北上山地	
108	1号型穴住居 埋土	その他	15.5	6.1	1.7	153.19	I E 2	頁岩中生代北上山地	
109	調査区西側の北部 1～5層	打製 石器	16.8	7.3	2.7	499.21	I E	頁岩中生代北上山地	未成品
110	調査区東側の中央 1～5層	打製 石器	10.0	9.4	3.3	400.77	I E 1	ホルンフェルス中生代(變成は中生代白亜紀)北上山地	
111	調査区東側の南部 1～5層	破片	8.0	5.1	1.5	59.10	ⅡA i	砂岩中生代北上山地	
112	調査区中央の中央 1～5層	破片	7.1	9.5	1.3	86.50	ⅡA i	砂岩中生代北上山地	
113	調査区東側の南部 1～5層	石芥	9.8	11.4	3.4	407.71	ⅡA 1	ホルンフェルス中生代(變成は中生代白亜紀)北上山地	
114	調査区中央の中央 1～5層	破片	7.8	5.3	1.9	92.70	ⅡA i	砂岩中生代北上山地	
115	調査区西側の南部 1～5層	破片	7.2	10.8	2.9	243.25	ⅡA i	砂岩中生代北上山地	
116	調査区東側の南部 1～5層	破片	7.6	8.2	1.6	112.11	ⅡA i	砂岩中生代北上山地	
117		破片	4.7	4.8	1.7	34.43	I F 1	チャート中生代北上山地	
118	調査区中央の中央 1～5層	破片	4.4	5.3	1.1	27.83	I F 1	チャート中生代北上山地	
119	調査区中央の北部 1～5層	破片	5.4	6.6	1.6	57.47	I F 1	チャート中生代北上山地	
120	調査区東側の中央 1～5層	磨石	14.0	11.1	3.9	950.80	ⅡB 1	砂岩中生代北上山地	
121	調査区中央の中央 1～5層	磨石	10.3	8.8	5.6	723.75	ⅡB 1	花崗斑岩中生代白亜紀北上山地	
122	調査区中央の中央 1～5層	磨石	10.0	7.9	4.5	520.95	ⅡB 1	砂岩中生代北上山地	
123	調査区東側の南部 1～5層	磨石	14.3	7.3	4.7	702.30	ⅡB 2	砂岩中生代北上山地	

調査番号	出土地点・層位	器種	計測値 (cm, g)				分類	石材	その他
			長さ	幅	厚さ	重量			
124	調査区東側の南部 1→5層	石埴 石衝	70	35	29	10681	ⅣA か	砂岩中生代北上山地	
125	調査区中央の北部 1→5層	石製品	40	47	12	2461	ⅣD	凝灰岩中生代北上山地	
126	調査区中央の北部 1→5層	石製品	42	45	10	2925	ⅣD	凝灰岩中生代北上山地	
127	1号塚穴住居 埋土	燧石	89	82	73	74286	ⅢC 1	チャート中生代北上山地	手に馴染む
128	調査区中央の北部 1→5層	燧石	84	79	53	30352	ⅢC 1	チャート中生代北上山地	
129	調査区北側 1→5層	燧石	73	53	51	27498	ⅢC 1	チャート中生代北上山地	
130	調査区中央の中央 1→5層	燧石	57	52	37	15349	ⅢC 1	チャート中生代北上山地	
131	調査区北側 1→5層	楕圓 器か	81	63	43	41357	ⅠC 1	チャート中生代北上山地	燧石も
132	調査区東側の中央 1→5層	燧石	84	75	52	30155	ⅢC 1	チャート中生代北上山地	
133	調査区中央の中央 1→5層	燧石	64	68	55	33541	ⅢC 1	チャート中生代北上山地	
134	調査区北側 1→5層	楕圓 器か	51	64	32	13537	ⅠC 1	チャート中生代北上山地	
135	調査区東側の中央 1→5層	燧石	45	76	20	7437	ⅠF 1	チャート中生代北上山地	
136	調査区西側の北部 1→5層	燧石	66	54	33	14704	ⅢC 1	チャート中生代北上山地	
137	調査区中央の中央 1→5層	燧石	91	92	38	32606	ⅢC 1	チャート中生代北上山地	
138	調査区西側の北部 1→5層	燧石	70	73	34	2210	ⅢC 1	チャート中生代北上山地	
139	調査区西側の北部 1→5層	燧石	70	63	31	15630	ⅢC 1	チャート中生代北上山地	
140	調査区西側の北部 1→5層	燧石	69	64	20	12110	ⅢC 1	チャート中生代北上山地	
141	調査区東側の中央 1→5層	燧石	55	62	36	10958	ⅢC 1	チャート中生代北上山地	
142	調査区西側の北部 1→5層	燧石	59	52	25	8155	ⅢC 1	チャート中生代北上山地	
143	調査区東側の中央 1→5層	燧石	77	65	68	49050	ⅢC 2	チャート中生代北上山地	
144	調査区東側の中央 1→5層	燧石	75	77	65	54223	ⅢC 2	チャート中生代北上山地	
145	調査区東側の中央 1→5層	燧石	47	77	49	30629	ⅢC 4	チャート中生代北上山地	
146	調査区東側の中央 1→5層	燧石	77	66	37	27664	ⅢC 5	チャート中生代北上山地	
147	調査区東側の中央 1→5層	燧石	72	76	73	52545	ⅢC 5	チャート中生代北上山地	
148	調査区西側の北部 1→5層	燧石	68	68	51	28264	ⅢC 5	チャート中生代北上山地	
149	調査区東側の中央 1→5層	燧石	74	72	38	29604	ⅢC 6	チャート中生代北上山地	届いていて割 れただけでは ないようだ
150	調査区中央の中央 1→5層	燧石	58	59	51	24666	ⅢC 6	チャート中生代北上山地	
151	調査区中央の北部 1→5層	燧石	86	81	67	62193	ⅢC 6	チャート中生代北上山地	持ち易い
152	調査区東側の南部 1→5層	燧石	61	72	42	19374	ⅢC 7	チャート中生代北上山地	

図表番号	出土地点・層位	器種	計測値 (cm, g)				分類	石材	その他
			長さ	幅	厚さ	重量			
153	調査区中央の中央 I～II層	磁石	6.8	6.3	6.8	300.68	ⅡC S	チャート中生代北上山地	
154	調査区東側の北部 I～II層	磁石	8.6	7.3	3.5	461.00	ⅡC S	ホルンフェルス中生代(完成は中生代白堊紀)北上山地	
155	調査区東側の北部 I～II層	石罫	6.4	7.6	2.1	159.10	ⅡE	砂岩中生代北上山地	
156	調査区中央の中央 I～II層	台石	12.5	13.8	6.6	1364.67	ⅡC	凝灰岩中生代北上山地	張り付着



1:5,000 上が北

第46図 遺跡位置図(旧地形)

VI 総 括

北鹿遺跡は、九戸郡洋野町種市第17地割ほか（大久保地区）に所在する。洋野町役場から南西方向へ約1.5kmの比較的緩やかな丘陵にあり、標高は約75～48mを測る。海までは最短距離で0.9km程である。遺跡の範囲は北東-南西約320m、南東-北西約130mで南側を立竜川、北側を竜頭川という川幅1m程の小河川に挟まれ、北東方向へと丘陵が舌状に張出す地形に立地している。調査前は杉と松を主とする人工林であったが、40年程前まで遺跡の北側は果樹園でもあったという。それ以前の状況は不明であるが、調査区内には植栽痕（果樹）以外の攪乱は殆ど見られない。

平成27年度と28年度の二カ年にわたり、遺跡のほぼ中央部分を北端から南端まで調査したことになる（第5図）。

二カ年の調査で検出された遺構は、何れも縄文時代の堅穴住居が1棟、陥し穴16基、土坑11基、焼土3基である。遺物は縄文時代の土器が大コンテナ4箱、石器が大コンテナ6箱、殆どが平成28年度調査区から出土したものである。

縄文時代の狩猟場

検出された陥し穴は、何れも平面形が長円形を呈するものであった。深さは遺構検出面から平均約124cm、現表土からだと約165cmとなり、殆ど後世に削平されずに残っていたといえる。平面形が円形となる陥し穴は無かった。底面に逆茂木痕を有するものが見られなかったのも本遺跡の特徴である。また長軸方向に於いては、上場よりも中場や下場のほうが長くなるものが複数あった。これは明らかに意図してそう掘られているもので、壁面の崩落によるものではない。こうすることにより陥し穴に落ちた獣（例えば鹿）は前方若しくは後方の壁面に脚を掛け、踏ん張って脱け出すことを少しでも難しくするための工夫の跡であろう。こうした形状が有効であったため、底面に逆茂木を設置する必要もなかったと推測される。仮に上場よりも下場が短いならば、壁は底面から外傾して立ち上がるわけだから獣は脚を壁に掛けることが出来、穴から脱する可能性が出てくる。そうならないためには逆茂木が必要となってくる。また逆茂木を有していないということは、陥し穴に落ちた動物は生きてまま、ほぼ無傷で陥し穴に入っていることになり、食糧にするのなら肉の鮮度や解体の上で合理性があるように思われる。

陥し穴の長軸方向は一定の方向になるわけではなく、はっきりとした規則性を見出すことは出来ない。等高線に平行するものがやや多い一方、平行せずに少し振れるもの、直交するものもある。加えて、互いに重複するものや（4号土坑・5号土坑）、非常に近い位置関係にあるもの（1号土坑・2号土坑）もある。調査区内での分布をみると尾根頂部の平坦なところから北側の緩斜面にかけて分布しており、調査区外の北東及び南西へと拡がる可能性が高い。逆に北西と南東方向は斜面の傾斜が少し急になっており陥し穴は見られなくなっている。このようなことから陥し穴群は全てが同時存在していたわけではなく、少なくとも2～3時期の変遷が想定される。そうなると同様存在した陥し穴どうしの間隔も広がるので、当時は草原のような場というよりも森林的な環境で、樹々の間にある獣道に掘られていたと考えたい。

罾気は設置した複数の罾を定期的に見回るものであるから、陥し穴についても同様と思われる。本遺跡以外の場所（別遺跡）にも仕掛けられてあって、それらを集落から定期的に見回りに来ていたのであろう。最も近いゴッソー遺跡（本遺跡から東側にやや下ったところにある）にも複数の陥し穴が確認されていることから、竜頭川沿いを広く狩猟の場としていたことが窺われる。時期については後

述する石斧製作を行っていた時期以外といえる。

縄文時代の石器製作

平成 28 年度調査の開始から間もなく、石斧や石斧未完成品が多く出土することに気付き、重機による表土掘削を最小限に抑え、人力で掘り進めることとした。それにより石斧未完成品だけでなく、その原石、粗割り段階のもの、成形（整形）に用いる敲石等が多数出土した。加えて、敲石もそのまま使用するのではなく、持ち易いように手を加えていることも判明した。これらは土器片や大小の川原石等と共に調査区内に広く分布し、中でも調査区中央部からその北西部にかけてやや多く出土する。遺物出土地点を全点記録することも検討したが、山林であったこともあり樹木の根が予想以上に広く張っていたので実施しないこととした。

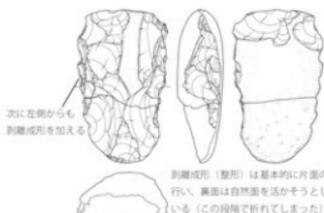
石斧の未完成品としたものの中には石斧製作途中で破損したもの、目指す形状に成形（整形）できず諦めたもの等がある。それに荒削りして出た剥片や整形に使用した敲石などもあり、石斧製作の方法についてもよく分かる資料が得られた。製作工程については先学に示されていたものとはほぼ同じである。まずは原石を荒削りし、それを剥離成形する。更に敲打して整形を進め、研磨して整えるのである。この中で片面については、元々ある自然面をそのまま活用しているものが多くみられ、これが本遺跡を含むこの地域から出土する石斧製作の特徴の一つとされている。荒削り前の段階から片面だけは石斧の基部から刃部までを成形しなくてもよい「都合の良い形をした石」を選ぶことにより、剥離・敲打成形の作業軽減を図っていることが分かった。

製作の最終段階にあたる研磨については、それに用いたであろう砥石若しくは磨石が殆ど出土していないこと、研磨段階の未完成品も少ないことから集落に戻ってから行っていたと考えている。

石斧成形（整形）に用いる敲石と同じ石質の剥片も多量に出土している。これらは剥片石器を製作する際に出たものであるが、黒曜石や頁岩よりは質的に劣る感がある。荒削り段階のものが殆どで握り拳位の原石が幅 1～3 cm 位に細く割られたものが見られる。他に、敲石として使っていたが破損してしまい、それを剥片石器の母岩に転用したようなものも見られた。細かな剥片があまり出土していないこと、完成品も殆ど見られないことから成形の最終段階は石斧と同じく集落へ戻ってから行っていた可能性が高いと考えている。

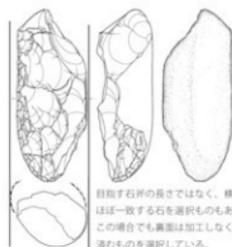


製作したい石斧の長さ
と長軸の曲面（片面）をそのまま
活かせる石が選ばれる。
剥離は両側から行うのではなく、
片側から始めている。



次に左側からも
剥離成形を加える

剥離成形（整形）は基本的に片面のみ
行い、裏面は自然面を活かそうとして
いる（この段階で折れてしまった）。



目指す石斧の長さではなく、縁幅の
ほぼ一致する石を選択したものもある。
この場合でも裏面は加工しなくても
済むものを選択している。

調査区の多くを人力で掘り下げたにもかかわらず、堅穴住居は小形のもの1棟しか見つからなかった。3基見つかった焼土もその場で焚いたものではあるがしっかりしたものではない。貯蔵穴や墓壇も未検出である。土器は細かく割れたものが主体で、原形に復元できるものは無かった。時期は後期初頭から前葉が最も多く、他に前期中葉や弥生時代後期等があるが各時期特有の文様を施す個体は極めて少なく、地文のみの個体が多い。

遺物の特徴及びその出土状況、遺構の在り方から、隣接する小河川（立頭川）が最寄りの海岸で石斧の原石と敲石・剥片石器の原石を採取し、剥離及び敲打成形まで行っていたことが推察される。仕上げについては集落に戻ってから行っていたと推測される。恐らく原石を採取し持ち帰るには距離がある所から訪れていたため必要最小限の土器しか携えていなかったであろう。遺物の出土量から堅穴住居1棟の検出は少な過ぎる。他に簡易的な居住施設を設けていた可能性を考え、遺構検出における不明瞭なプランや柱穴状のものについても掘って見たが遺構にはならなかった。

石器製作遺跡、特に石斧を製作していた遺跡は本遺跡の周辺に多数知られている。本遺跡のすぐ東側にあるゴッソー遺跡からも縄文時代後期の住居内外から石斧未完成品、敲石が出土している。本遺跡出土の石斧未完成品及び加工に用いた敲石に非常に良く似ている資料であった。洋野町内では他に西平内遺跡、平内Ⅱ遺跡、上水沢Ⅱ遺跡などでも敲打成形途中の石斧やそれに使用した敲石が出土している。久慈市では平沢Ⅰ遺跡（後期）、二子Ⅰ・Ⅱ遺跡（後・晩期）でも磨製石斧、敲打成形途中の石斧、剥離段階の石斧、敲打に用いる敲石が出土している。野田村の根井貝塚では後・晩期と見られる石斧未完成品が見つかった。普代村の力持遺跡や田野畑村の館石野Ⅰ遺跡でも同様の資料がある。

隣接する青森県階上町では藤沢（2）・道仏鹿糠遺跡から多くの石斧並びに石斧製作途中段階の資料、製作に使用した敲石等が出土し、石斧製作を生業とする集落であることが明らかになった。八戸市内の遺跡からも石斧製作関連資料を出土する遺跡は多い。

これらのことから三陸海岸北端部は石斧製作が盛んな地域であったことが窺え、製作技法についても共通する部分が多いと感じる。完成した石斧は他の地域（主に内陸部か）へもたらされたと推測されるが、その具体については明らかに出来ず課題として残った。

引用・参考文献

- 笹森一朗ほか 2011 『道仏鹿糠遺跡 藤沢（2）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第499集 青森県教育委員会
- 齋藤 岳 2012 『本州北東端の磨製石器製作－三陸の石材環境への適応と石斧製作の解明に向けて－』『研究紀要』第17号 青森県埋蔵文化財センター 19－30頁
- 須原 拓 2013 『川目A遺跡出土の磨製石斧にみる石斧生産について』『紀要』XXXⅡ（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 59－68頁

写 真 图 版



遺跡遠景（北から）

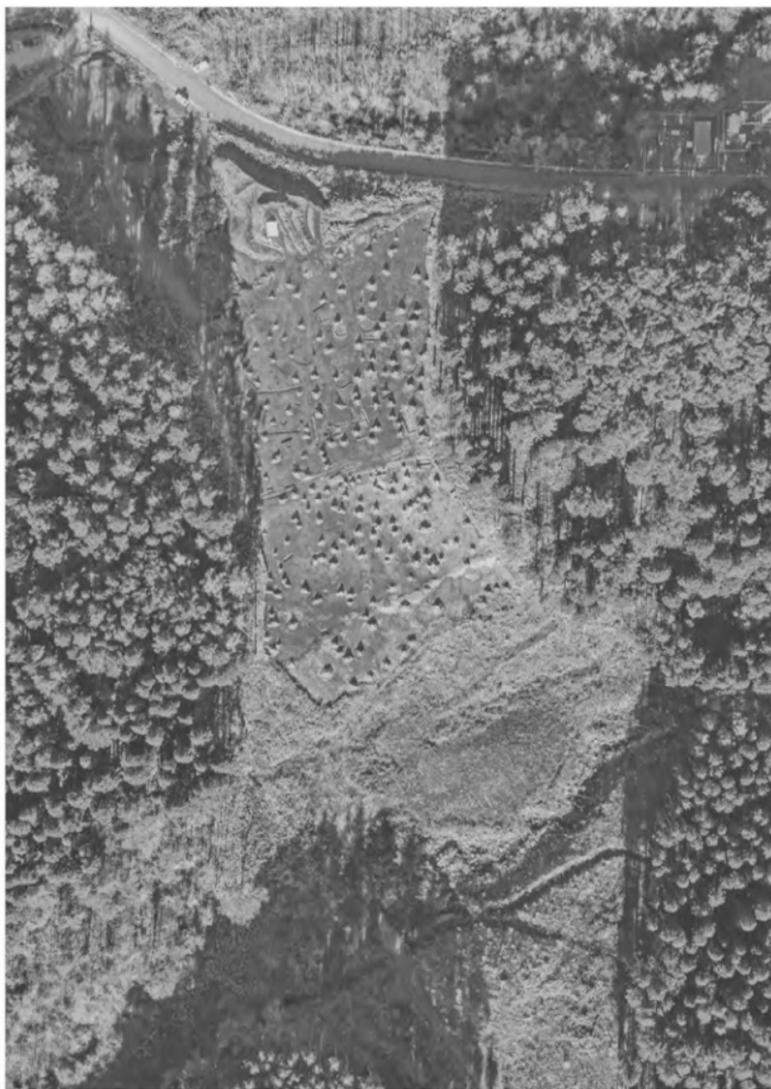


遺跡遠景（西から）



調査前風景（北西から）

写真図版2 航空写真、調査前状況



直上写真（上が北）

写真図版3 航空写真（調査区全景）



調査区全景（南から）



調査区全景（北東から）

写真図版4 調査区全景



調査区全景（南から）



検出作業（南から）



遺構精査（南から）



検出作業（南から）

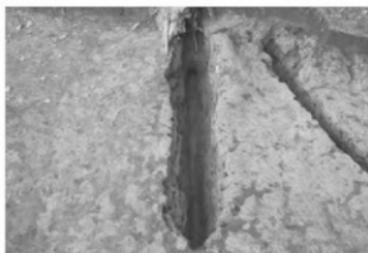
写真図版5 調査区全景、作業風景



1号土坑 全景 (北から)



1号土坑 断面 (北から)



2号土坑 全景 (北から)



2号土坑 断面 (北から)



3号土坑 全景 (南西から)



3号土坑 断面 (南西から)



4号土坑 全景 (北から)



4号土坑 断面 (北から)

写真図版6 1～4号土坑



5号土坑 全景 (南から)



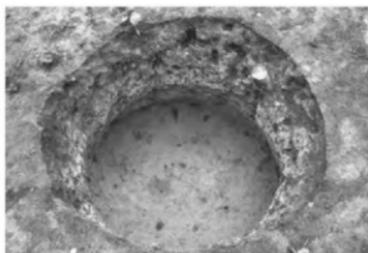
5号土坑 断面 (南から)



4号・5号土坑 全景 (南から)



作業風景



6号土坑 全景 (北東から)



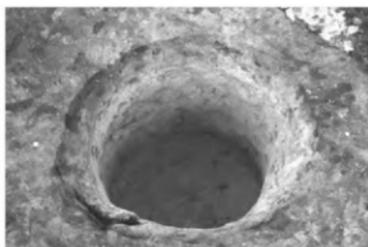
6号土坑 断面 (南から)



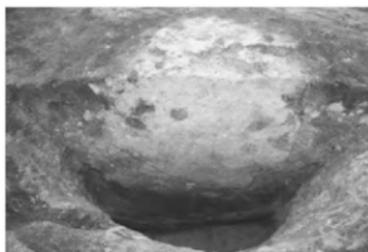
7号土坑 全景 (南から)



7号土坑 断面 (南から)



8号土坑 全景 (南から)



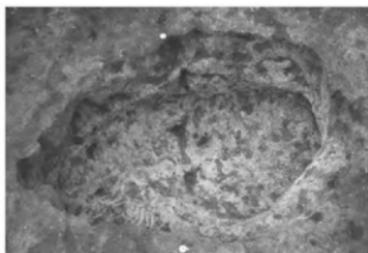
8号土坑 断面 (南から)



9号土坑 全景 (南から)



9号土坑 断面 (南から)



10号土坑 全景 (北東から)



10号土坑 断面 (南東から)



基本土層 (西から)



調査前風景 (調査区外南から)

写真図版8 8～10号土坑、基本土層、調査前風景



T1 全景 (東から)



T2 全景 (南から)



T3 全景 (南から)



T4 全景 (南から)



T5 全景 (南から)



T6 全景 (南から)



T7 全景 (南から)



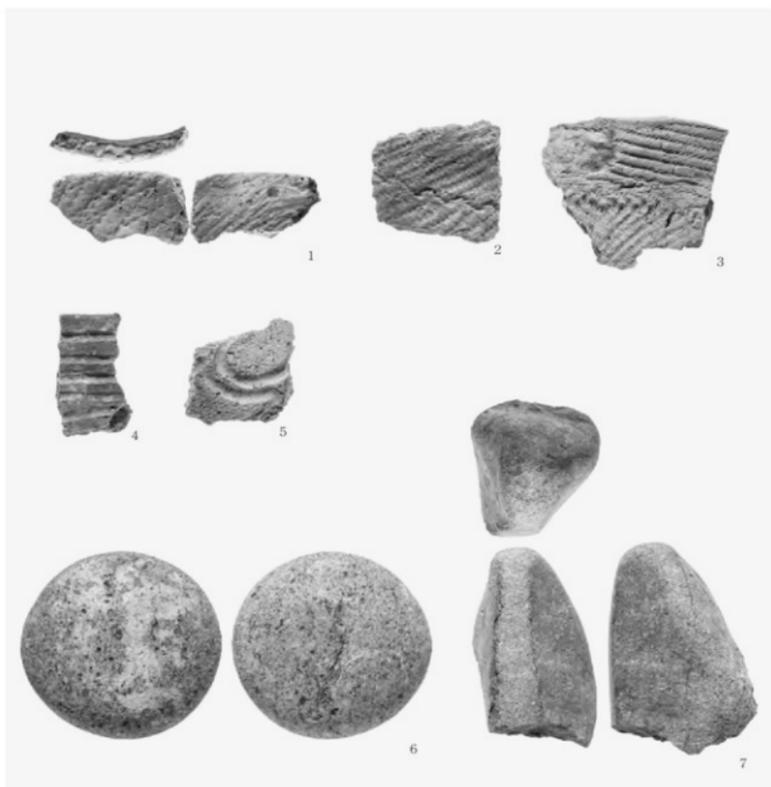
T8 全景 (南から)



T9 全景 (南から)



T11 全景 (北東から)



写真図版10 T9・T11、出土遺物1



1号竪穴住居 平面（南西から）



1号竪穴住居 断面（東から）



1号竪穴住居炉 断面（北から）



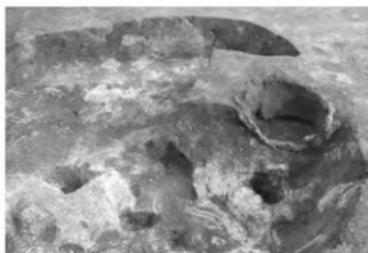
1号竪穴住居炉 断面（西から）



5号土坑 平面 (南から)



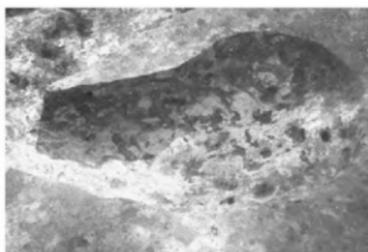
5号土坑 断面 (南から)



12号土坑 遺物出土状況 (西から)



12号土坑 断面 (西から)



13号土坑 平面 (北から)



13号土坑 断面 (北から)



14号土坑 平面 (北から)



14号土坑 断面 (南から)



15・16号土坑 平面 (南から)



15・16号土坑 断面 (南から)



17号土坑 平面 (東から)



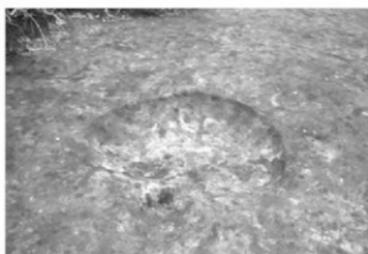
17号土坑 断面 (西から)



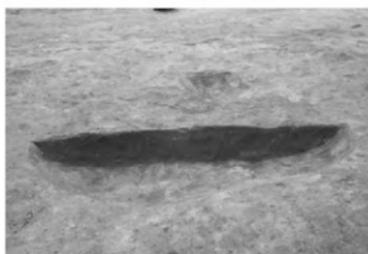
18号土坑 平面 (西から)



18号土坑 断面 (西から)



19号土坑 平面 (東から)



19号土坑 断面 (西から)



20号土坑 平面 (北から)



20号土坑 断面 (北から)



21号土坑 平面 (東から)



21号土坑 断面 (東から)



22号土坑 平面 (南から)



22号土坑 断面 (北から)

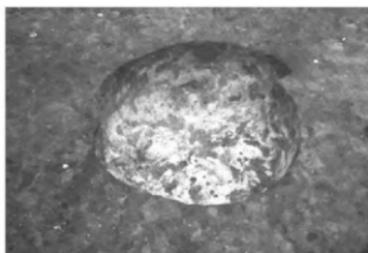


23号土坑 平面 (北から)

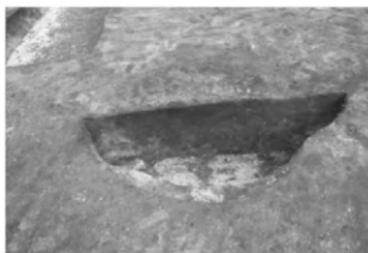


23号土坑 断面 (北から)

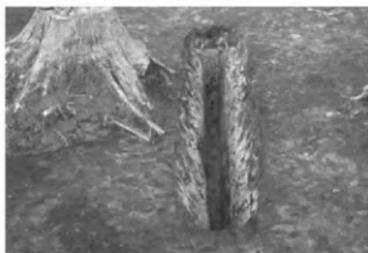
写真図版14 20～23号土坑



24号土坑 平面 (東から)



24号土坑 断面 (西から)



25号土坑 平面 (西から)



25号土坑 断面 (西から)



26号土坑 平面 (東から)



26号土坑 断面 (西から)



27号土坑 平面 (西から)



27号土坑 断面 (西から)



28号土坑 平面 (南から)



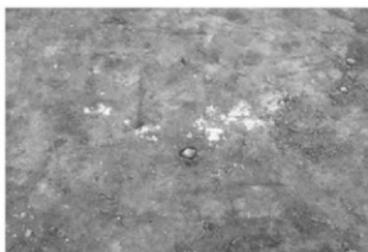
28号土坑 断面 (南から)



28号土坑 実測作業 (南から)



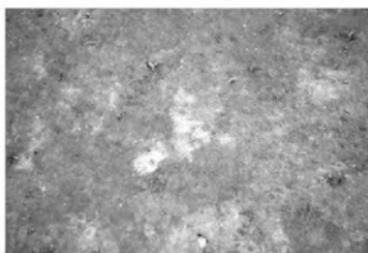
1号焼土 断面 (東から)



2号焼土 平面 (東から)



2号焼土 断面 (東から)



3号焼土 平面 (北から)



14号土坑 作業風景 (西から)

写真図版16 28号土坑、1～3号焼土



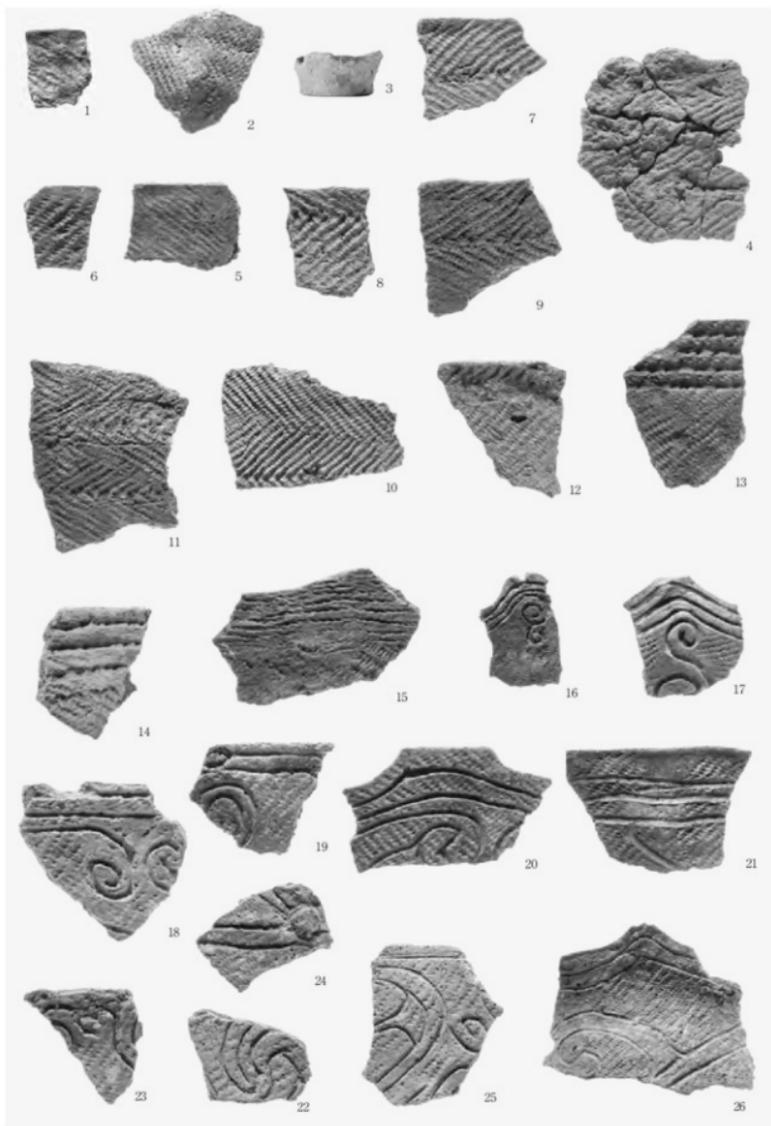
調査区の全景（南東から）



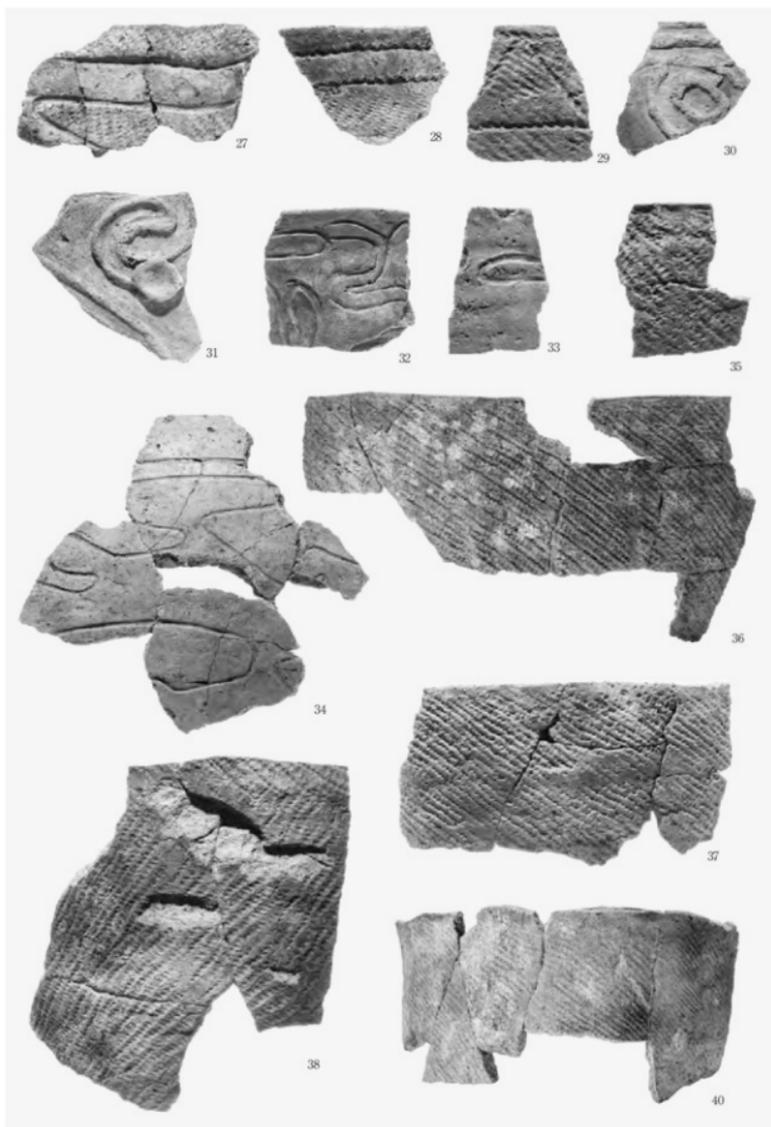
石材を採集調査した隣接する小河川



出土した未完成の石斧、剥片、敲石、原石。他に大小の自然礫を多く含んでいた。



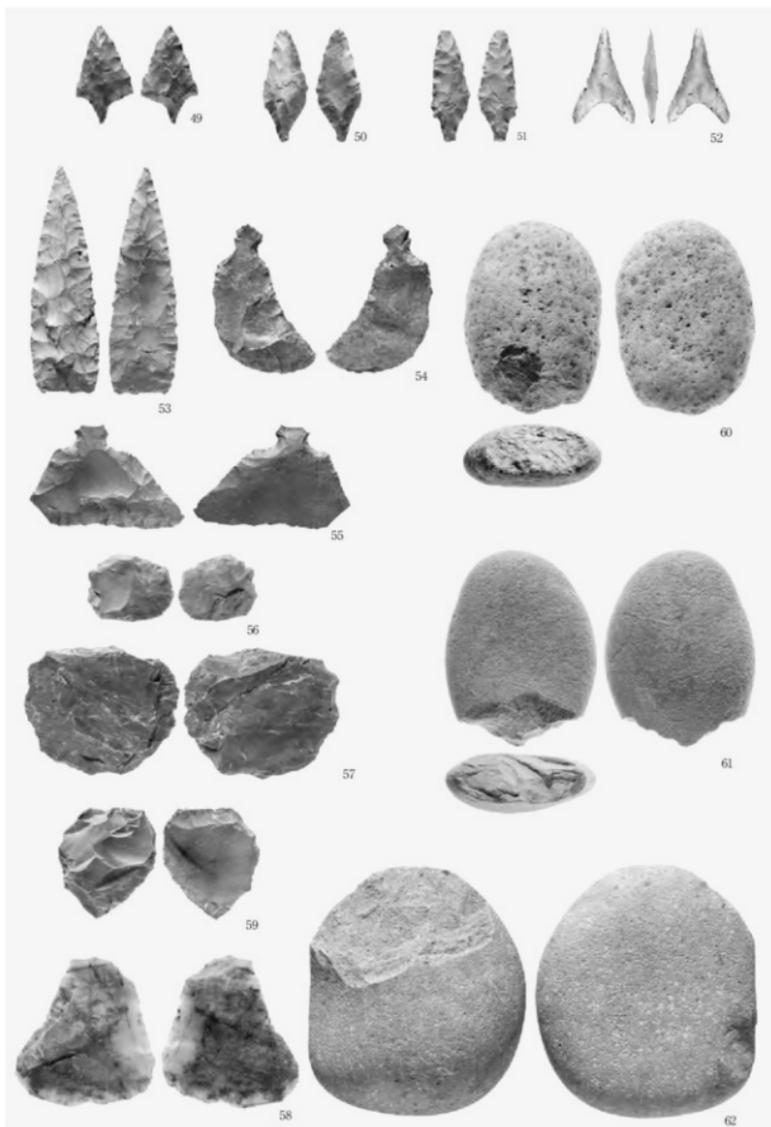
写真図版18 出土遺物2



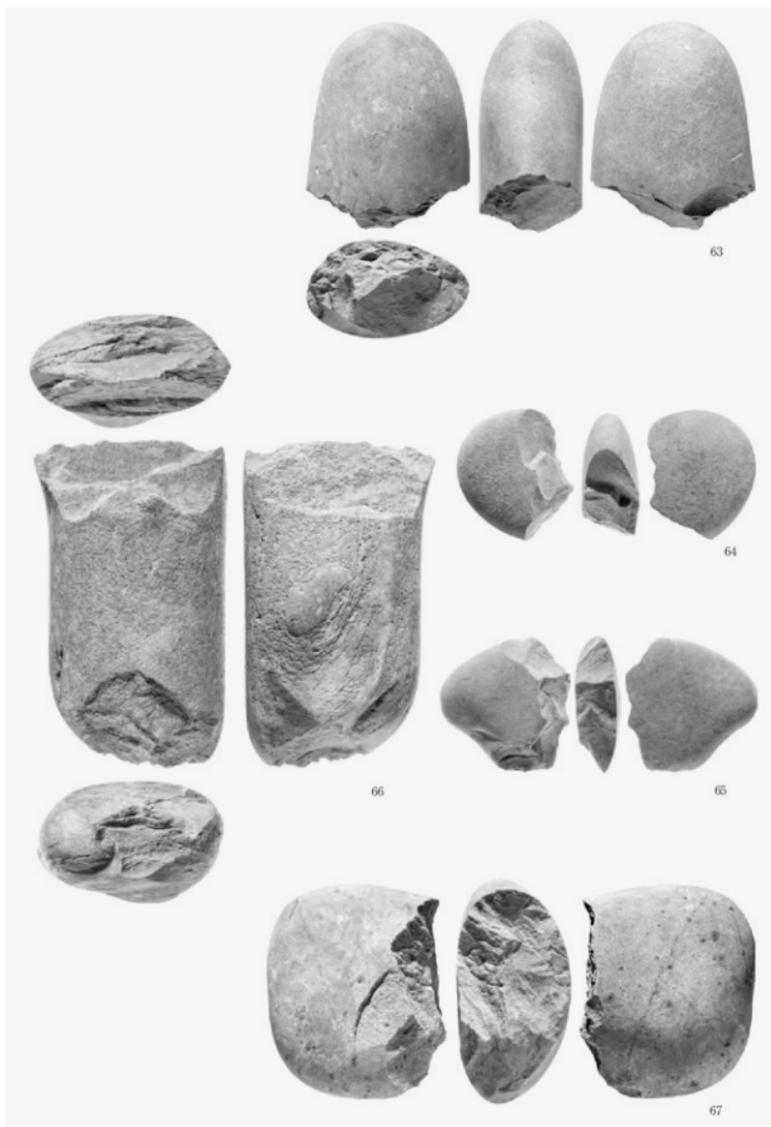
写真図版19 出土遺物3



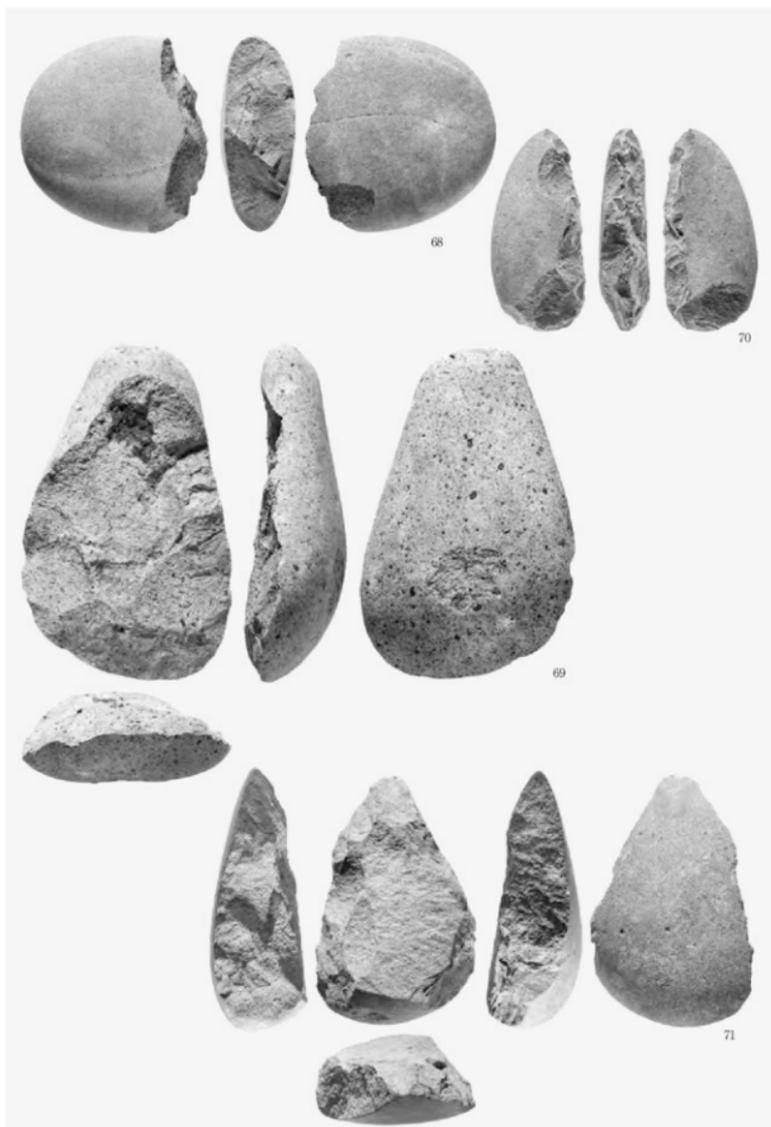
写真図版20 出土遺物 4



写真図版21 出土遺物5



写真図版22 出土遺物 6



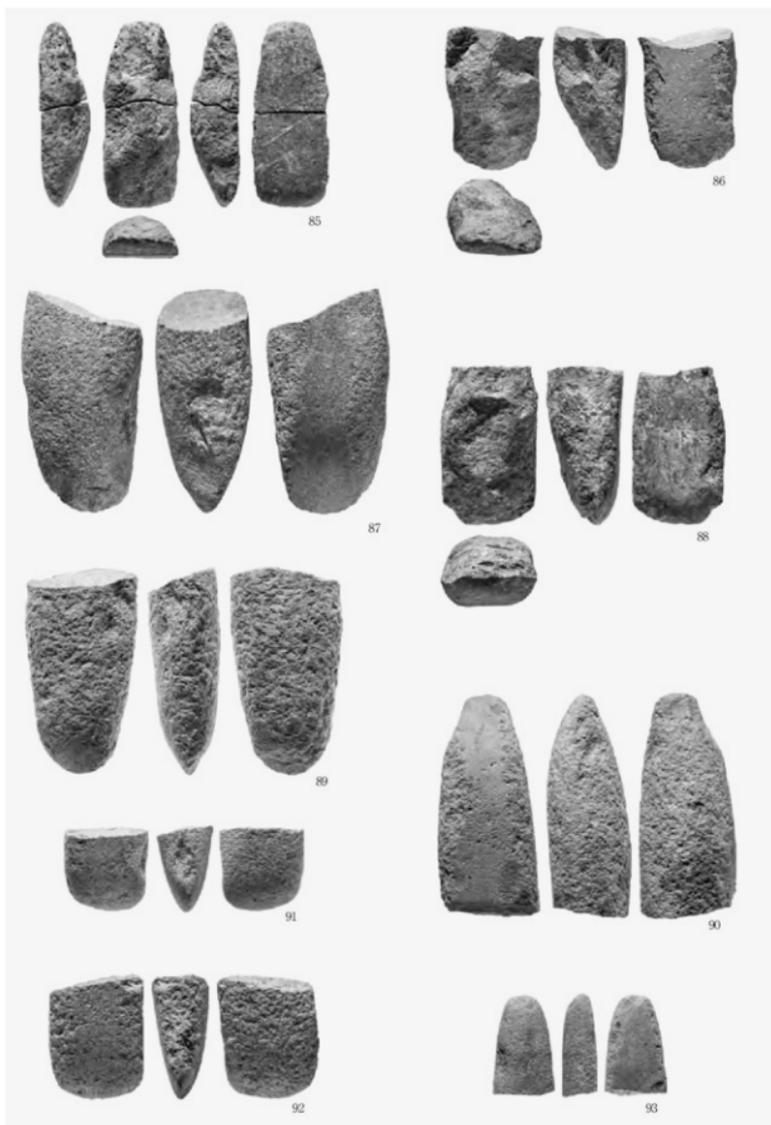
写真図版23 出土遺物 7



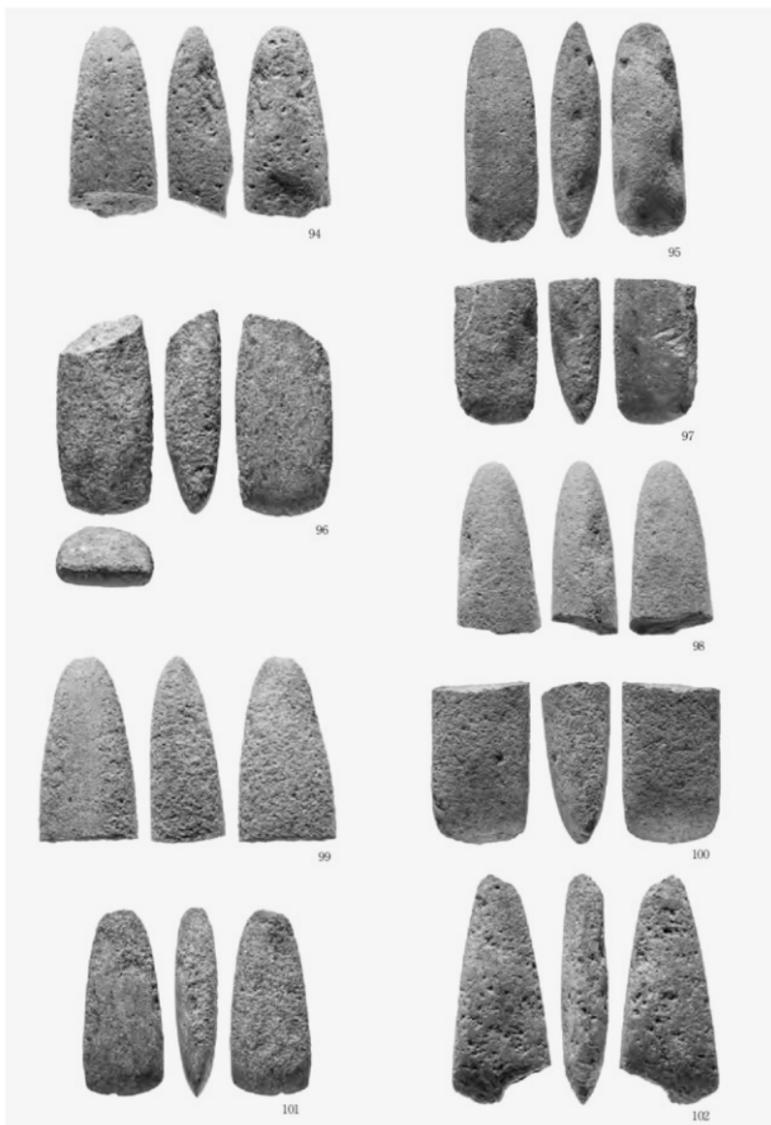
写真図版24 出土遺物 8



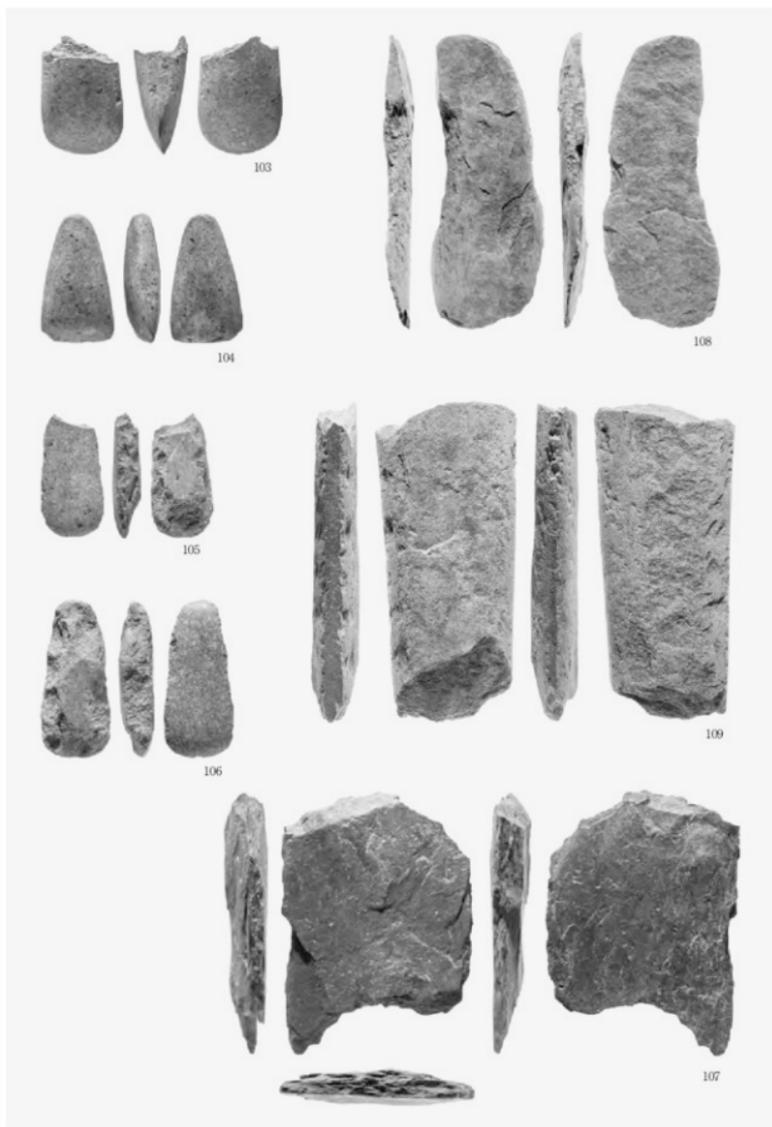
写真図版25 出土遺物 9



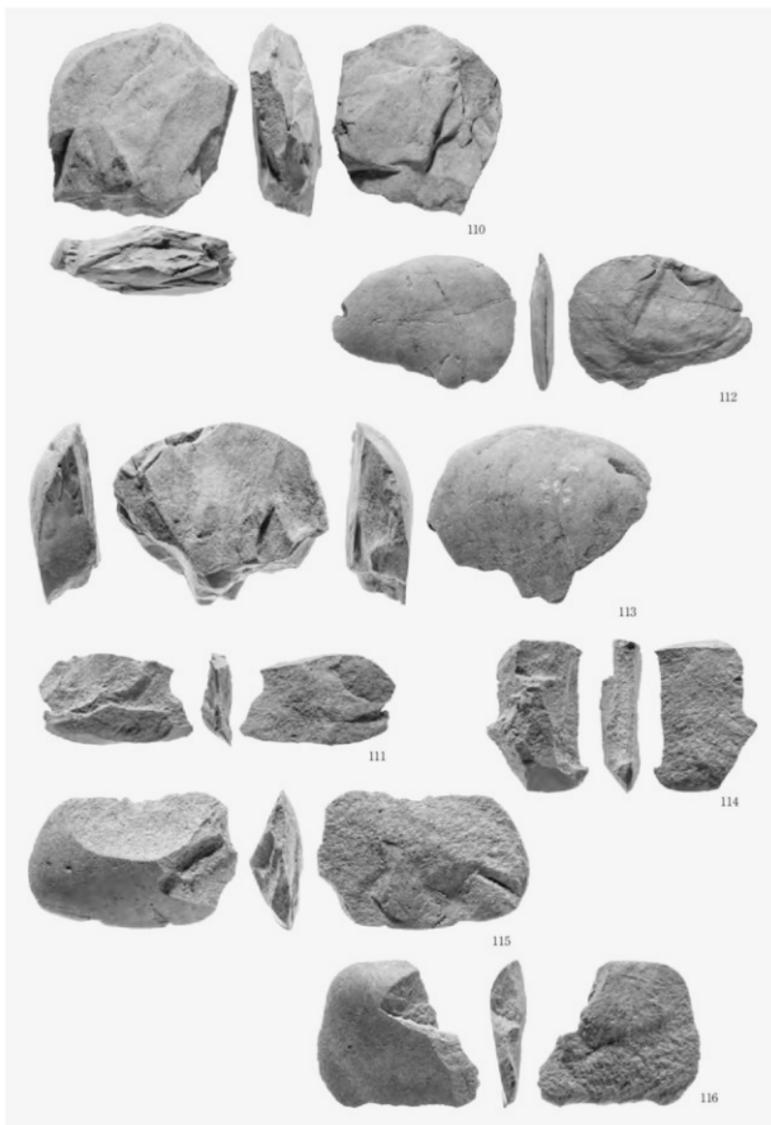
写真図版26 出土遺物10



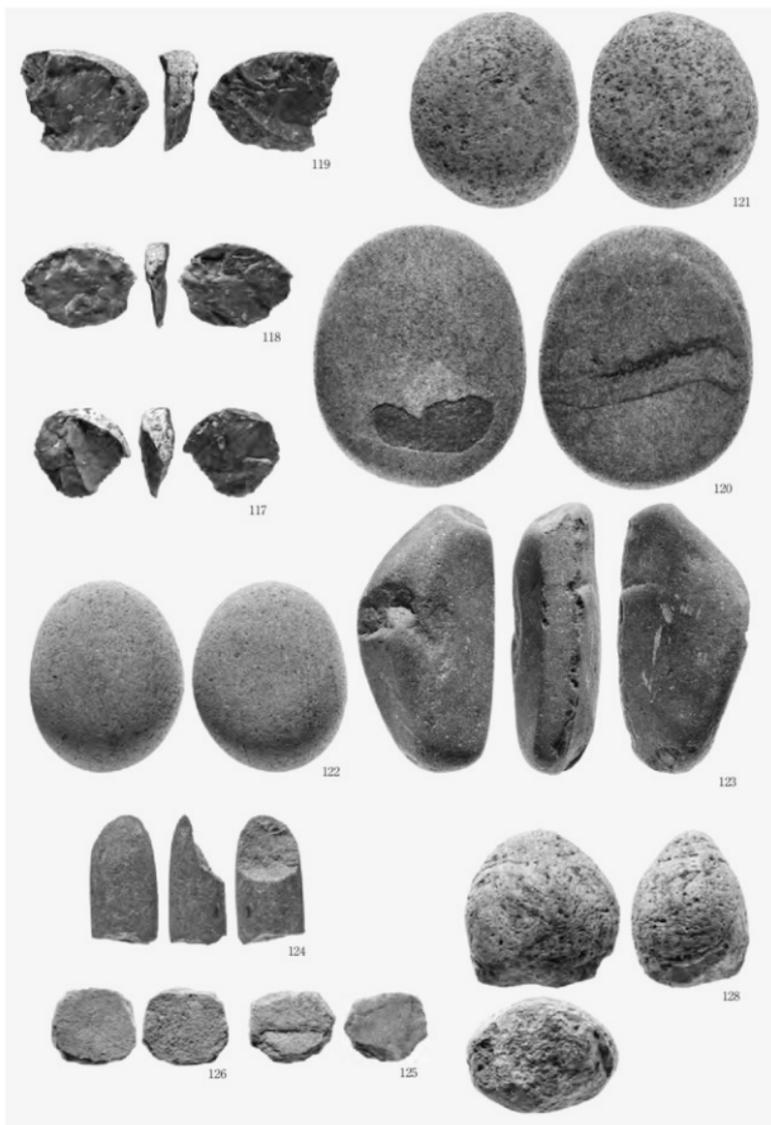
写真図版27 出土遺物11



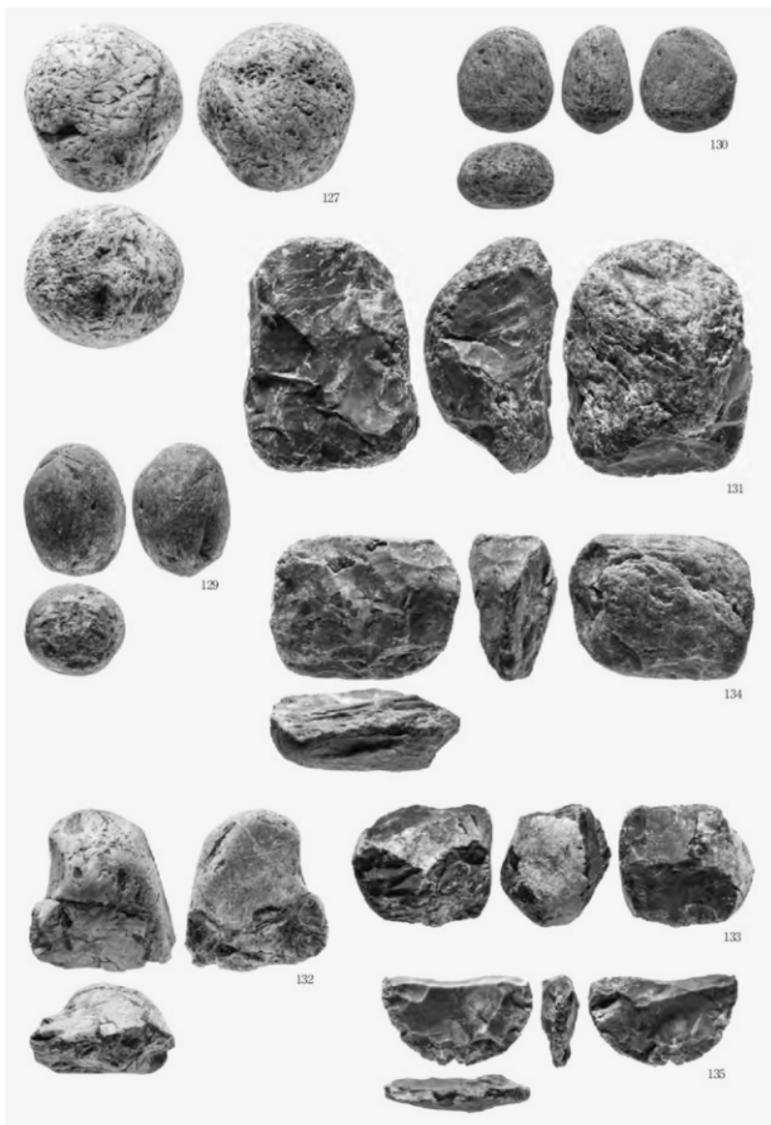
写真図版28 出土遺物12



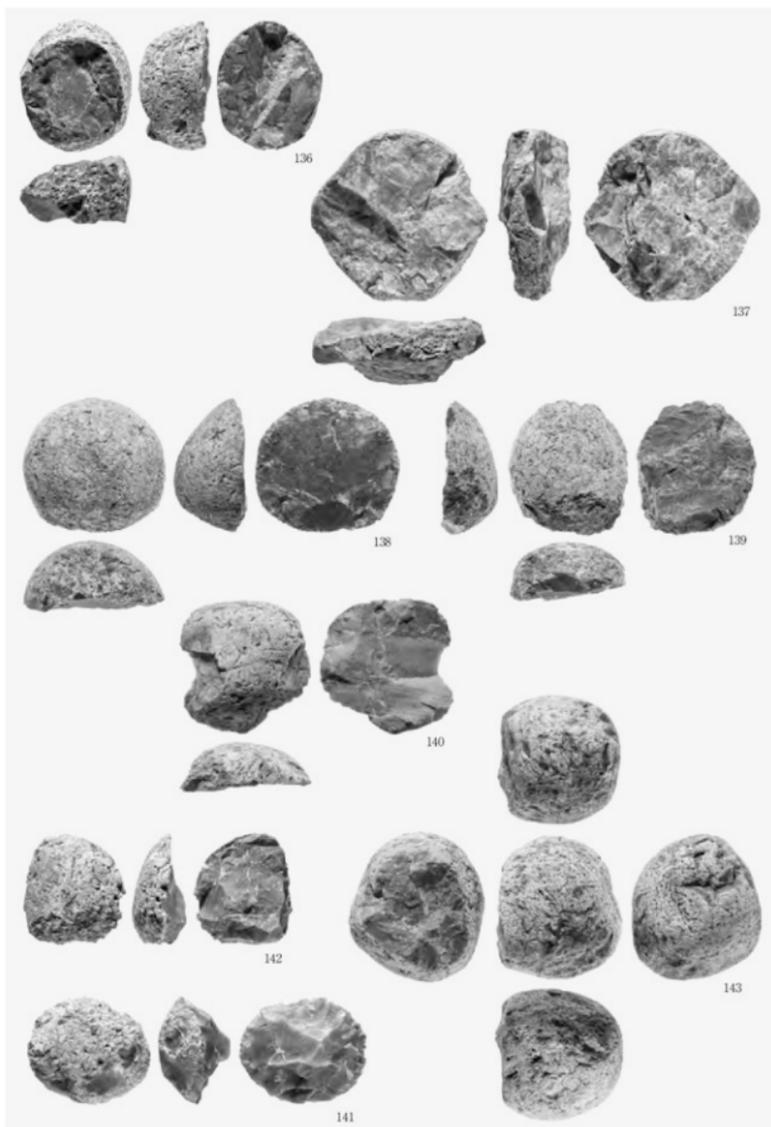
写真図版29 出土遺物13



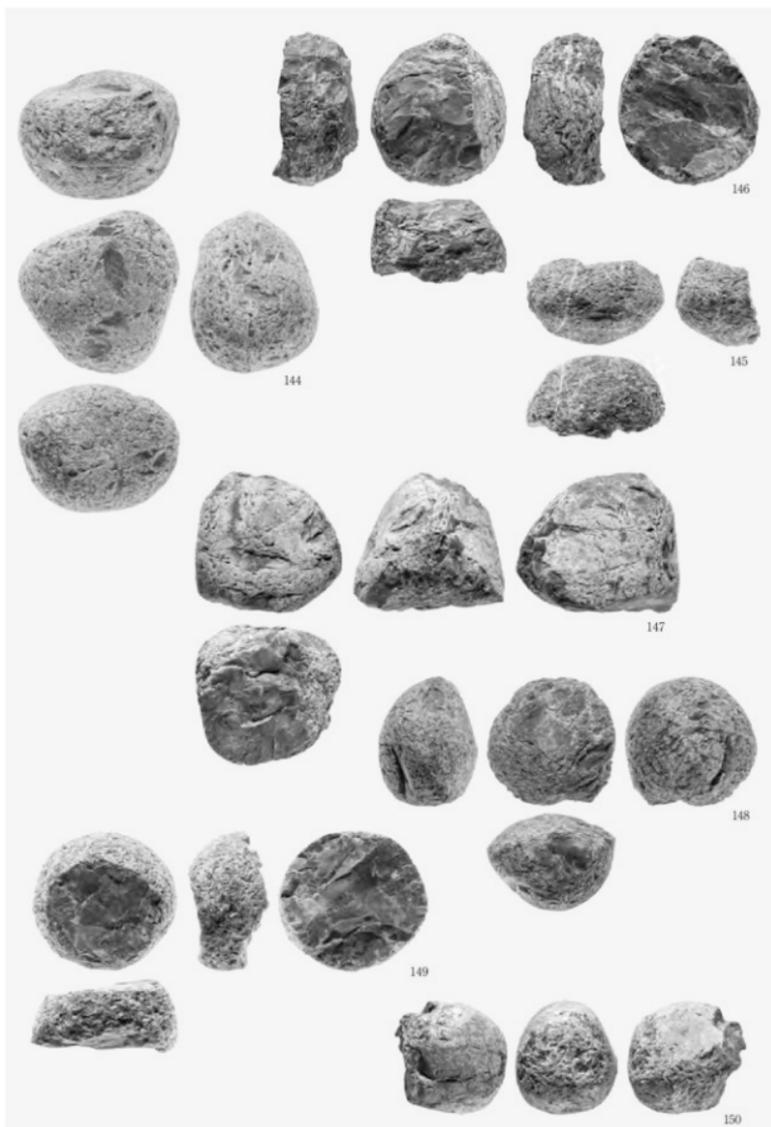
写真図版30 出土遺物14



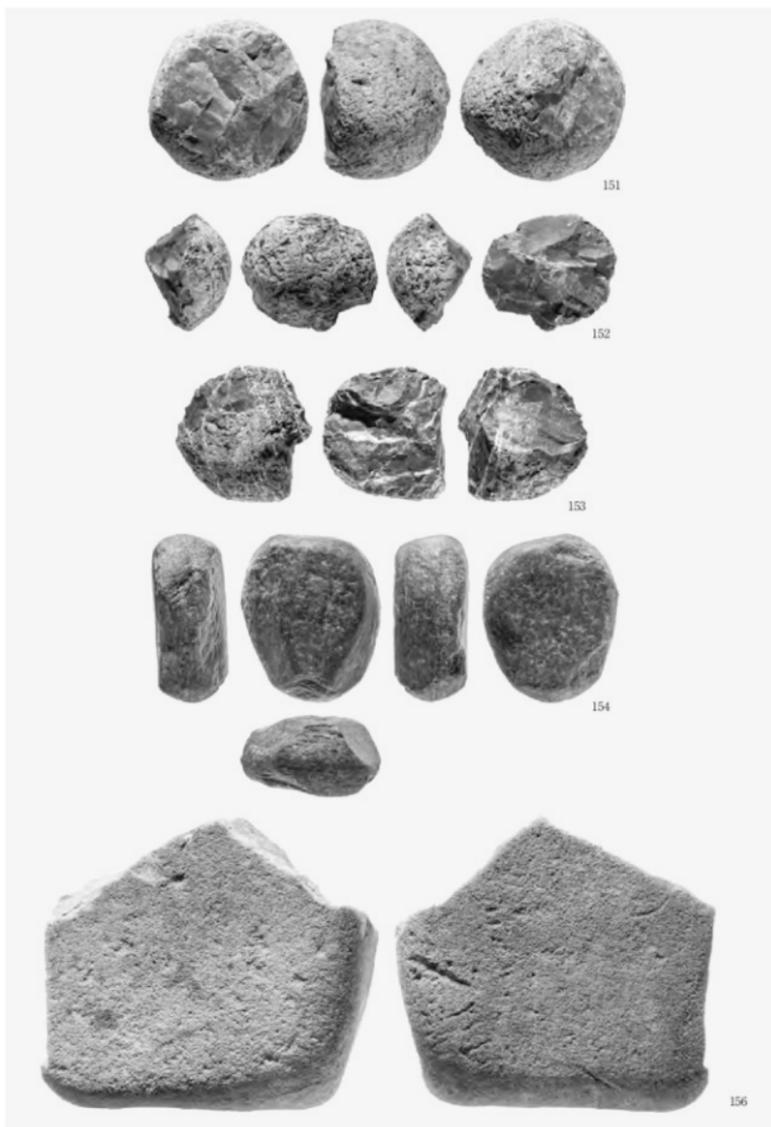
写真図版31 出土遺物15



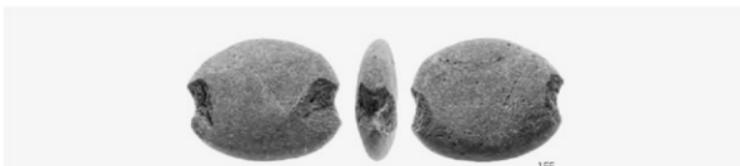
写真図版32 出土遺物16



写真図版33 出土遺物17



写真図版34 出土遺物18



155



148



151



146



敲石の中には手によくなじむものが多い。中でも指にかかると加工痕の見られる例が複数見られた。146などは一度使用中に破損したものを再加工しているようだ。

報告書抄録

ふりがな	きたかぬかいせきはつちょうさほうこくしょ							
書名	北鹿雑遺跡発掘調査報告書							
副書名	三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第686集							
編著者名	杉沢 昭太郎（平成28年度）・久保 賢治（平成27年度）							
編集機関	（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化センター							
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地 TEL (019) 638-9001							
発行年月日	2018年3月11日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号	°' "	°' "			
北鹿雑遺跡	岩手県九戸郡 洋野町 種市第18地割 地内	03507	IF58-0288	40度 23分 48秒	141度 42分 48秒	2015.10.01 ～ 2015.11.11 2016.10.03 ～ 2016.12.07	平成27年度 5,300㎡ 平成28年度 3,600㎡	三陸沿岸道路 建設事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
平成27年度	集落 狩り場	縄文時代	陥し穴状遺構 土坑	5基 5基		縄文土器 石器		
平成28年度	狩り場 石斧製 作石材 採取	縄文時代 前期 後期ほか	竪穴住居跡 陥し穴状遺構 土坑 焼土	1棟 11基 6基 3基		縄文土器 石器 石斧製作及びその石材（敲 石を含む）の採取		
要約	発掘調査は平成27年度と平成28年度の2箇年にわたり実施された。主に縄文時代のものと考えられる陥し穴と土坑を検出した。竪穴住居は1棟のみであった。 磨製石器の未完成品、荒削した際の剥片、原石、製作に用いた敲石等が多量に出土し、石斧製作工程における各段階の良好な資料が多く得られた。但し製作最終段階の研磨は集落に戻っておこなっていたようである。隣接する小河川から石材を採取し、石斧に加工するためにこの地を訪れたと推察され、その時期は出土した土器から縄文時代前期・後期とみられる。狩り場はそれ以外の時期といえる。							

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 686 集

北鹿糠遺跡発掘調査報告書

三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査

印刷 平成30年3月2日

発行 平成30年3月9日

- 編集 (公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185
電話 (019) 638-9001
- 発行 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所
〒027-0029 岩手県宮古市藤の川4番1号
電話 (0193) 62-1711
- (公財) 岩手県文化振興事業団
〒020-0023 岩手県盛岡市内丸13番1号
電話 (019) 654-2235
- 印刷 株式会社 阿部印刷
〒020-0873 岩手県盛岡市松尾町2-2
電話 (019) 624-2242

© (公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2018